Canon

キヤノン株式会社
キヤノン販売株式会社
〒108-8011　東京都港区港南2-16-6

製品取り扱い方法に関するご相談窓口

お客様相談センター
全国共通電話番号　0570−01−9000（商品該当番号:71）

受付時間：平日9:00 ～ 20:00
土・日・祝日10:00 ～ 17:00　（1月1日 ～ 1月3日を除く）

お電話がつながりましたら、音声ガイダンスに沿って、商品該当番号<71>または「デジタルカメラ」とお話しください。
全国64ヶ所の最寄りのアクセスポイントまでの通話料金でご利用になれます。
自動車電話・PHSをご利用の方、海外からご利用の方は、043-211-9556をご利用ください。

※ 電話の回線状態等によっては、正しく音声認識できない場合があります。その場合は案内窓口におつなぎいたします。
※ 音声応答システム、受付時間、該当番号は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。
※ 消耗品はお買い上げいただいた販売店、お近くのキヤノン製品取り扱い店およびキヤノン販売(株)販売窓口にてご購入ください。なお、ご不明な場合はお客様相談センターにご相談ください。

修理サービスご相談窓口

同梱の「修理サービスご相談窓口」（別紙）でご確認ください。

キヤノンデジタルカメラホームページのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。最新の情報が掲載されていますので、インターネットをご利用の方は、ぜひお立ち寄りください。

キヤノン株式会社
http://canon.jp/bebit/

キヤノン販売株式会社　デジタルカメラ製品情報
http://canon.jp/dc/

キヤノン販売株式会社　サポート
http://canon.jp/support/

Canon Image Gateway
http://www.imagegateway.net/

CDI-J066-010　XX03XXXX

Canon　キヤノンデジタルカメラ　PowerShot G5　カメラユーザーガイド

Canon

キヤノンデジタルカメラ

PowerShot G5

カメラユーザーガイド

CANON iMAGE GATEWAY　DiG!C

Exif Print　DPOF　DIRECT PRINT

- まず最初に「ご使用の前に」（p. 4）をお読みください。
- ソフトウェアのインストールと画像の取り込み方法については、ソフトウェアクイックガイドをお読みください。
- 各プリンターに同梱されている使用説明書もお読みください。

このカメラでできること

撮影

- シャッターを押すだけで簡単に撮影できるオート撮影から、多彩な機能を活用できるシャッタースピード優先AE、絞り優先AEなど、思いどおりの撮影が楽しめます。
- 静止画のほか、動画も撮影できます。
- 露出補正、ホワイトバランス、色効果なども用途に合わせて変更できます。
- SIセンサーを搭載しており、撮影した画像の縦横位置も自動的に判別します。
- 別売のワイドコンバーター、テレコンバーター、クローズアップレンズやEOS用外付けストロボを装着して撮影できます。

再生

- 撮影した画像をその場ですぐに確認でき、必要なければすぐに削除できます。
- スライドショー機能で画像を自動的に再生できます。

編集

- 撮影した画像に、音声メモを記録できます。
- 記録した動画を編集できます。

プリント

- カメラダイレクト対応プリンター（CPシリーズ、別売）*や、カメラダイレクト対応BJプリンタ（別売）に接続し、手軽に高画質なプリントを得られます。
  ***カメラダイレクト対応のCPプリンターには、ダイレクトプリントマークが付いています。**
- 撮影した画像は、従来の写真と同様に、プリント取扱店でデジタルプリントできます。また、インターネットを通じてオンラインプリントもできます。

撮影した画像の活用

- パソコンに画像を取り込んで、編集できます。
- 撮影した画像や音声は、カメラの起動画面や起動音、シャッター音として設定できます。
- インターネットを通じて、撮影した画像をアップロードして、オリジナルアルバムを作成できます。また、そのアルバムを友人やご家族にも公開できます。

リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

アクセサリーはキヤノン純正品のご使用をおすすめします。

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。
なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

		AUTO						P	Tv	Av	M	参照先
デジタルズーム	入	○	○	○	○	−	−	○	○	○	○	72
	切	○*	○*	○*	○*	−	−	○*	○*	○*	○*	
露出補正		−	○	○	○	△	○	○	○	○	−	84
測光方式	評価測光	○	○	○	○	○	○	○*	○*	○*	○*	82
	中央部重点平均測光	−	−	−	−	−	−	○	○	○	○	
	スポット測光	−	−	−	−	−	−	○	○	○	○	
	中央固定	−	−	−	−	−	−	○*	○*	○*	○*	
	AF枠連動	−	−	−	−	−	−	○	○	○	○	
AEロック/FEロック撮影		−	−	−	−	−	−	○	○	○	−	97/99
ブラケット撮影	AEB	−	−	−	−	−	−	○	○	○	−	93
	フォーカスブラケット	−	−	−	−	−	−	○(1)	○(1)	○(1)	○(1)	95
ホワイトバランス(2)	WB	−(3)	○	○	○	△	○(4)	○	○	○	○	85
色効果		−	○	○	○	△	○	○	○	○	○	88
	コントラスト/シャープネス/色の濃さ	−	−	−	−	−	−	○	○	○	○	
フォーカス設定	CONT	○*	○*	○*	○*	△*	○	○*	○*	○*	○*	108
	SINGLE	○	○	○	○	△	−	○	○	○	○	
ISO感度	ISO	−(5)	−(5)	−(5)	−(5)	−(5)	−(5)	○	○	○	○(6)	91
縦横自動回転	入	○*	○*	○*	○*	△*	−	○*	○*	○*	○*	111
	切	○	○	○	○	△	−	○	○	○	○	
NDフィルター		−	−	−	−	−	−	○	○	○	○	110

***初期設定　○:設定可　△:最初の1画像のみ設定可**
−:設定不可
:電源を切っても、解除されません。
[日付/時刻]、[言語]、[ビデオ出力方式]以外のメニュー設定と、ボタン操作によるカメラの設定を、一度にすべて初期設定に戻すことができます。→ p. 166
フォーカスブラケット撮影は、MFモード時しか使えません。

(1) マニュアルフォーカス時のみ設定できます。
(2) 色効果が[セピア]、[白黒]の場合は設定できません。
(3) ホワイトバランスは[オート]に設定されます。
(4) ホワイトバランス[ストロボ]は設定できません。
(5) カメラが自動的に設定します。
(6) ISO [AUTO]は設定できません。

ガイドの使いかた

以下のガイドが用意されています。目的に合わせてお使いください。

クイックスタートガイド

- カメラの準備から撮影、再生、消去、プリント、ソフトウェアのインストール、パソコンとの接続、画像の取り込みまでの一連の基本的な使用方法

カメラユーザーガイド(本書)

- 撮影、再生、消去の操作方法
- パソコンとの接続方法
- カメラダイレクト対応プリンター(CPシリーズ)やカメラダイレクト対応BJプリンターとの接続方法とプリント方法

システムマップ

- 周辺機器との接続
- 同梱品・別売品の紹介

ソフトウェアクイックガイド

- 同梱のCD-ROMに収められている各ソフトウェアの主な機能
- パソコンに必要なシステム構成
- ソフトウェアのインストール方法
- カメラで撮影した画像をパソコンに取り込む方法

ZoomBrowser EX ソフトウェアガイド(Windows)/ImageBrowser ソフトウェアガイド(Macintosh)

- ZoomBrowser EX(Windows)の詳細な使いかた
- ImageBrowser(Macintosh)の詳細な使いかた

修理サービスご相談窓口

- 修理に関するお問い合わせ先

プリンターユーザーガイド(カメラダイレクト対応プリンター(CPシリーズ)に同梱)

- プリンターとカメラの接続方法
- ペーパーやインクカセットの入れかた
- プリンターやペーパー、インクカセットの取り扱い上のご注意

カードフォトプリンター CP-300/CP-200 プリンタードライバユーザーガイド(Windows/Macintosh)(カメラダイレクト対応プリンター(CPシリーズ)に同梱)

- プリンタードライバのインストール方法
- プリンターとパソコンの接続方法
- プリント方法

:カメラに同梱

:別売の商品に同梱

このガイドについて

本文中のマークについて

：カメラを正しく動作させるための注意や制限を記載しています。

：カメラを使用するにあたって知っておくと便利になること、参考になることを記載しています。

こんなときには

■メニュー操作のしかたがわからない：

メニューの選択と設定のしかた → p. 41

■撮影モードごとに設定できる機能がよくわからない：
■電源を切ると、設定の変更が保持されるのかわからない：

各撮影モードで設定できる機能一覧 → p. 208

■プリントのしかたがわからない：

プリントについて → p. 130

■利用できる機能にどんなものがあるかわからない：

撮影メニュー → p. 156
再生メニュー → p. 159
設定メニュー → p. 160
マイカメラメニュー → p. 164

見出しについて

カメラの準備から撮影、再生までの操作の流れを一覧できるよう、簡潔に説明しています。まず使ってみたいときには、こちらをご覧ください。

クイックスタート

カメラ各部の名称や使い始めるための準備、電源の入れ方、シャッターボタンの押し方などについて説明しています。また、カメラの起動画面や起動音、シャッター音の変更方法やCanon Image Gatewayについて説明しています。

準備・基本操作

撮影モードの選択からカメラまかせの撮影手順、目的に合わせた撮影手順など各種の撮影について説明しています。

撮　影

撮影した画像の再生や再生方法の設定、画像のプロテクト、画像の消去、動画の編集について説明しています。

再生・消去

撮影した画像をプリントする方法やプリント設定、メールで送信する画像の選択などについて説明しています。

プリント・送信

テレビを使って撮影/再生する手順、パソコンへの画像の取り込みについて説明しています。
カメラをパソコンに接続する前に、必ずこの説明をお読みください。

接　続

撮影メニューや再生メニュー、設定メニュー、マイカメラメニューの一覧、メッセージ一覧を掲載するほか、ワイヤレスコントローラー、コンバージョンレンズ（別売）、外付けストロボ（別売）、電源キットの使い方などについて説明しています。

付　録

目次

のページは、このカメラの機能や操作をまとめてあります。また、これらのページは、見つけやすいように他のページとは異なるデザイン（ページの右側に網かけ）になっています。

ご使用の前に

必ずお読みください

ためし撮り

必ず事前にためし撮りをし、画像が正常に記録されていることを確認してください。

万一、このカメラやCFカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの取り込みがされなかった場合、記録内容の補償についてはご容赦ください。

著作権について

あなたがこのカメラで記録した画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

保証について

このカメラの保証書は国内に限り有効です。万一、海外旅行先で、故障・不具合が生じた場合は、持ち帰ったあと、国内の「お客様ご相談窓口」にご相談ください。

本体温度について

このカメラは、電源を入れたあと長時間お使いになっていると、本体温度が高くなることがあります。これは故障ではありませんが、長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがありますので、ご注意ください。

液晶モニターについて

液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。

安全上のご注意

- ご使用前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから本文をお読みください。
- 本文中の「本機器」とは、カメラおよびコンパクトパワーアダプター、別売のチャージアダプター／カーバッテリーケーブルキットを指します。

この警告事項に反した取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があることを示します。

この注意事項に反した取り扱いをすると、人が傷害または物的損害を負う可能性があることを示します。

△記号は、取り扱いを誤ると、事故につながる可能性があることを示します。記号の中の図は、注意事項を意味します。

⃠記号は、禁止の行為を示します。記号の中の図は禁止事項を意味します。(左図：分解禁止)

●記号は、必ず守っていただきたいことがらを示します。記号の中の図は指示内容を意味します。

⚠ 警　告

- **カメラで太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。**視力障害の原因となります。

- **ストロボを人の目に近づけて発光しないでください。**目の近くでストロボを発光すると、視力障害を起こす可能性があります。特に、乳幼児を撮影するときは1m以上離れてください。

- **本機器はお子様の手の届かないところに保管してください。**お子様が誤って本機器やバッテリーを破損すると危険です。また、誤ってストラップ を首に巻き付けると、窒息することがあります。

- **カメラに使用しているコイン電池は、特に幼児の手の届かないところに置いてください。**万一、幼児が電池を飲み込んだ場合には、ただちに医師と相談してください。

- **本機器を分解、改造しないでください。**高電圧がかかり、感電する原因となることがあります。内部の点検、調整、修理はお買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご依頼ください。

- **落下などにより、ストロボ部分が破損した際は、内部には触れないでください。**さらに、内部が露出した際は、絶対に手を触れないでください。 高電圧がかかり、感電する原因となります。速やかに、お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。

- **煙が出ている、焦げ臭いなどの異常状態のまま使用しないでください。** 火災、感電の原因となります。すぐに機器本体の電源を切り、その後必ず、バッテリーを外し、電源ケーブルの差し込みプラグをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認して、お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。

- **本機器を落としたり外装を破損した場合は、まず、カメラの電源を切り、バッテリーを外し、電源ケーブルの差し込みプラグをコンセントから抜いてください。**そのまま使用すると火災、感電の原因となります。お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。

- **本機器内部に水などを入れたり、濡らしたりしないでください。**カメラには防水処理が施されていません。水滴がかかったり、潮風にさらされたときには、吸水性のある柔らかい布で拭いてください。
万一、内部に水や異物などが入った場合は、まず、カメラの電源を切り、バッテリーを外し、電源ケーブルの差し込みプラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると火災、感電の原因となります。お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。

- **お手入れのときは、アルコール、ベンジン、シンナーなどの引火性溶剤は使用しないでください。**火災の原因となります。

- **電源プラグを定期的に抜き、その周辺およびコンセントに溜まったほこりや汚れを乾いた布で拭き取ってください。**ほこり、湿気、油煙の多いところで電源プラグを長時間差したままにすると、その周辺に溜まったほこりが湿気を吸って絶縁不良となり、火災の原因になります。

- **電源ケーブルに重いものを載せたり、傷つけたり、破損したり、加工しないでください。**漏電して、火災、感電の原因になります。

- **濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。**感電の原因になります。また、電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源ケーブルを引っ張ると、芯線の露出、断線などでケーブルが傷つき、火災、感電の原因となります。

- **本機器専用以外の電源は使用しないでください。**発熱、変形して、火災、感電の原因になります。

- **バッテリーを火に近づけたり、火の中に投げ込まないでください。**また、水の中に入れたりしないでください。バッテリーの破裂、液漏れにより、火災、けがの原因になります。

- **バッテリーを分解、改造したり、加熱しないでください。**破裂により、けがの原因となります。万一、バッテリーの電解液が漏れ、衣服、皮膚、目、口に付いたときは、ただちに洗い流してください。

- **バッテリーを落とすなどして強い衝撃を与えないでください。**外装が破損した場合、バッテリーの液漏れにより、けがの原因になります。

- **キーホルダーなどの金属類でバッテリーの「＋」と「－」の端子を接触（ショート）させないでください。**発熱し、やけど、けがの原因となります。持ち運びや保存の際は、必ず付属の専用のバッテリーカバーを付けてください。

- **バッテリーを廃棄する場合は、接点部にテープを貼るなどして絶縁してください。**廃却の際、他の金属と混じると、発火、破裂の原因となります。

- **指定されたバッテリーパックを使用してください。**それ以外のものを使用すると、バッテリーの破裂、液漏れにより、火災、けがや周囲を汚す原因となることがあります。

- **コンパクトパワーアダプターは、充電終了後および使用しないときはカメラと電源コンセントの両方から外してください。**長時間接続しておくと、発熱、変形して火災の原因となります。

- **付属のコンパクトパワーアダプターの出力端子は、このカメラ専用です。**他の製品にはお使いにならないでください。火災の原因となることがあります。

- **別売のワイドコンバーター、テレコンバーター、クローズアップレンズ、コンバージョンレンズアダプターを取り付けるときは、確実にねじ込んでください。**緩んで脱落して割れると、ガラスの破片でけがをすることがあります。また、太陽などの強い光源を絶対に覗かないでください。失明する恐れがあります。

⚠ 注　意

- **直射日光のあたる場所、および車のトランクやダッシュボードなどの高温になるところで使用・保管しないでください。**バッテリーの液漏れ、発熱、破裂により、火災、やけど、けがの原因となったり、機器外装が熱により変形することがあります。また、バッテリーチャージャーで充電する際は、風通しのよいところでお使いください。

- **湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。**火災、感電、故障の原因になることがあります。

- **カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っ掛かったり、強い衝撃や振動を与えないように注意してください。**けがや本体の故障の原因となることがあります。

- **ストロボの発光部分を手で覆ったまま発光しないでください。**また、連続発光後、発光部分に触らないでください。やけどの原因になることがあります。

- **ストロボ発光部分にゴミやほこりなど異物が付いたまま発光しないでください。**発熱によりストロボ発光部分の損傷の原因になることがあります。

故障を防ぐためのご注意

■電磁波による誤作動、破壊をふせぐために

カメラをモーターや強力な磁場を発生させる装置の近くに、絶対に置かないでください。電磁波により、カメラが誤作動したり、記録した画像のデータが破壊されることがあります。

■結露をふせぐために

カメラを寒い場所から急に暑い場所に移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。

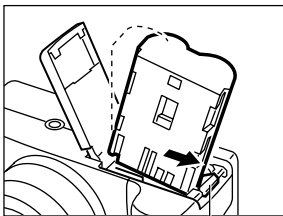
カメラを寒い場所から暑い場所に移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れ、周囲の気温になじませてから、袋から取り出してください。

■結露が発生したときは

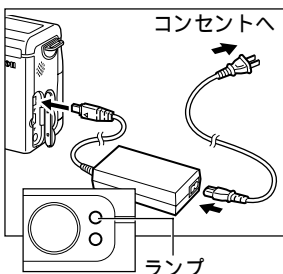
故障の原因になりますので、カメラをお使いにならないでください。

CFカード、バッテリー、コンパクトパワーアダプターをカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラをお使いください。

クイックスタート

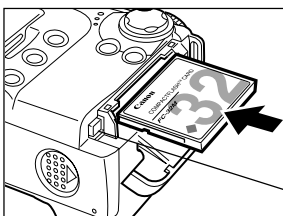
1

バッテリーを入れる ➔ p. 19

バッテリーカバーを開き、バッテリーロックを押しながら、バッテリーを入れます。

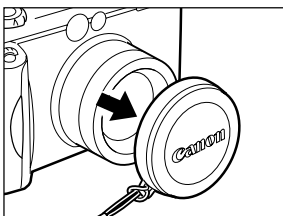
2

バッテリーを充電する ➔ p. 16

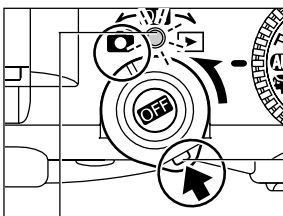
電源が切れていることを確認し、バッテリーを充電します。ファインダー横の橙色のランプが点滅から点灯に変わったら充電(約90%)完了です。

充電が完了したら、カメラからコンパクトパワーアダプターのDCプラグを抜きます。

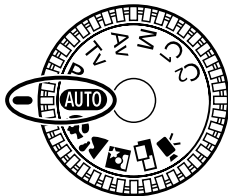
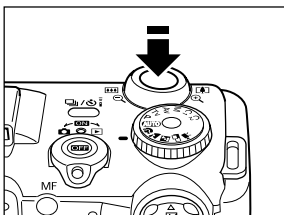
3

CFカードを入れる ➔ p. 22

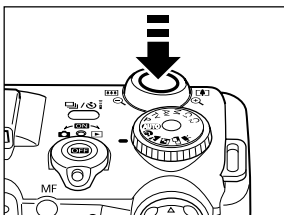
CFカード取り出しボタンが飛び出すまで、しっかりと差し込んでください。

4

レンズキャップを外す

5

電源を入れる ➔ p. 27

液晶モニターを開き、ストッパーを押しながらモードレバーを📷(撮影)側にまわします。

パワー/モードランプが橙色に点灯します。

6 モードダイヤルをAUTOにする → p. 52

7 ピントを合わせる → p. 38

被写体にカメラを向け、シャッターボタンを軽く押します。撮影準備が完了すると電子音が2回鳴ります。

8 撮影する → p. 38

さらにシャッターボタンを押します。撮影が終了するとシャッター音が鳴ります。

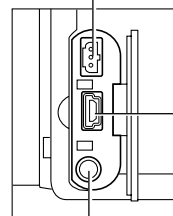
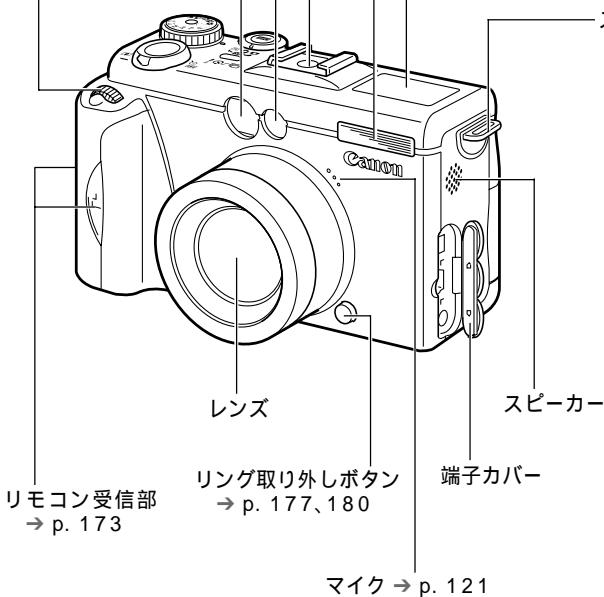
9 撮影した画像を見る → p. 54

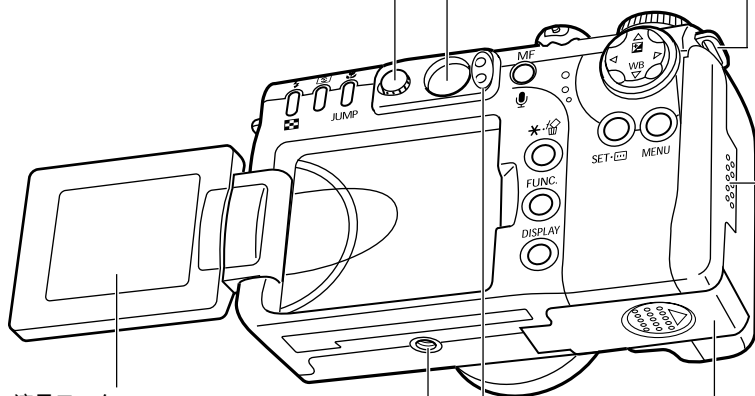
撮影した画像は、液晶モニターに約2 秒表示されます。シャッターボタンを押し続けるか、画像が表示されている間に、**SET**ボタンを押すと、シャッターボタンを離しても撮影画像が表示され続けます。

表示画像をすぐに消去する

1. 画像の表示中に🗑ボタンを押す
2. [消去]が選択されていることを確認し、**SET**ボタンを押す

- 使い終わったあとは、OFFボタンを押して電源を切ります。

前面

* カメラにパソコン、またはプリンターを接続するときに使用するケーブルは、以下の通りです。
  パソコン：USBインターフェースケーブル IFC-300PCU（カメラに同梱）
  カメラダイレクト対応プリンター（CPシリーズ、別売）：
    USBインターフェースケーブル IFC-300PCU（カメラに同梱）または、
    ダイレクトインターフェースケーブル DIF-100（カメラダイレクト対応プリンターに同梱）
  カメラダイレクト対応BJプリンタ（別売）：BJプリンタの使用説明書でご確認ください。
  このカメラで使えるカメラダイレクト対応プリンター（CPシリーズ）については、システムマップでご確認ください。

背面/底面

●ランプ(上)

シャッターボタンを押したとき、または以下の動作中にランプが点灯、点滅します。

・緑点灯：撮影準備完了/バッテリーの充電完了(100%)*
・緑点滅：CFカードへ記録中/CFカードからの読み出し中/
　　　　CFカードからの消去中/データ転送中(パソコン接続時)
・橙点灯：撮影準備完了(ストロボ発光)/バッテリーの充電完了(90%)*
・橙点滅：撮影準備完了(手ブレ警告)/ バッテリーの充電中(点滅の間隔は、バッテリーの充電状態によって異なります。)*
　　　　*コンパクトパワーアダプター接続時のみ表示

●ランプ(下)

・黄点灯：マクロ撮影/マニュアルフォーカス撮影
・黄点滅：ピントが合いにくいとき(黄点滅でもシャッターは押せますが、マニュアルフォーカスでピントを合わせて撮影してください ➔ p. 106)

操作部

上面

背面

（マクロ）/JUMP（ジャンプ）ボタン ➔ p. 70、116

MF（マニュアルフォーカス）/
（マイク）ボタン ➔ p. 105、106、121

（測光）ボタン
➔ p. 82

十字ボタン
（▲/（露出）、▼/
WB（ホワイトバランス）、
◀、▶）➔ p. 84、85

（ストロボ）/
（インデックス）
ボタン ➔ p. 61、115

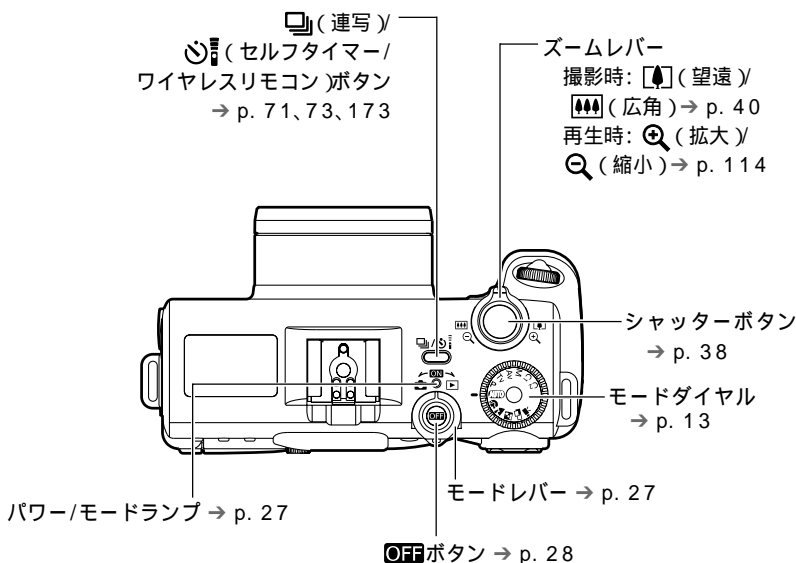
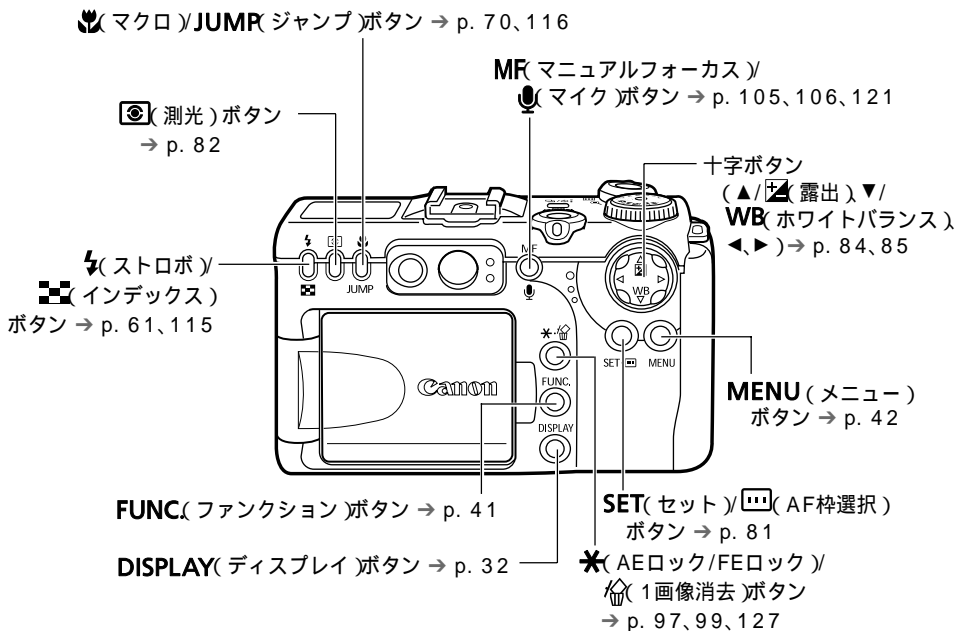
JUMP
MF
WB
SET
MENU
FUNC.
DISPLAY
Canon

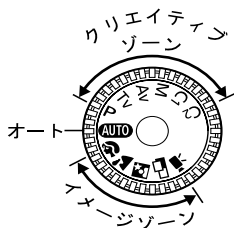
MENU（メニュー）
ボタン ➔ p. 42

FUNC.（ファンクション）ボタン ➔ p. 41

SET（セット）/（AF枠選択）
ボタン ➔ p. 81

DISPLAY（ディスプレイ）ボタン ➔ p. 32

✱（AEロック/FEロック）/
（1画像消去）ボタン
➔ p. 97、99、127

モードダイヤル

撮影モードを選択するときに使います。

● AUTO ：オート ➔ p. 52
カメラまかせの撮影ができます。

●イメージゾーン
被写体に合う条件をカメラにまかせて設定し、撮影ができます。

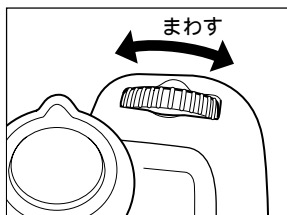
- ：ポートレート ➔ p. 64
- ：風景 ➔ p. 64
- ：夜景 ➔ p. 65
- ：スティッチアシスト ➔ p. 66
- ：動画 ➔ p. 69

●クリエイティブゾーン
露出や絞りを変えるなど、思いどおりのさまざまな撮影ができます。

- P ：プログラムAE ➔ p. 75
- Tv ：シャッタースピード優先AE ➔ p. 76
- Av ：絞り優先AE ➔ p. 78
- M ：マニュアル露出 ➔ p. 80
- C1 ：カスタム 1 ➔ p. 109
- C2 ：カスタム 2 ➔ p. 109

電子ダイヤル

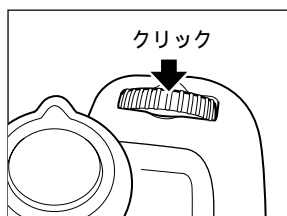
特定のメニュー選択や画像表示などに使います。簡単に、しかも素早く、選択や確定、切り換えができます。

電子ダイヤルをまわす

●撮影のとき

- 絞り数値、シャッタースピードの選択
  ➔ p. 76、78、80
- FUNC.ボタンを押して設定するメニュー項目の選択
  ➔ p. 41
- 露出補正、ホワイトバランスの選択 ➔ p. 84、85
- マニュアルフォーカス時のピント合わせ
  ➔ p. 108

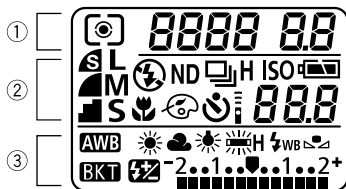
●再生のとき

- 前または後の画像表示 ➔ p. 113

電子ダイヤルをクリックする

●撮影のとき

- FUNC.ボタンを押して設定するメニュー項目の確定
  ➔ p. 41
- Mモード時、絞り数値とシャッタースピード選択の切り換え ➔ p. 80

表示パネル

カメラの設定状態や撮影可能画像数、撮影時間、バッテリー残量などが表示されます。

①	[評価測光]/[スポット測光]/[中央部重点平均測光]	評価測光/スポット測光/中央部重点平均測光	p. 82
	8888	シャッタースピード/動画撮影時間/ホワイトバランス/ISO感度/色効果/ブラケット/記録画素数の設定値（各機能設定時）	p. 56、69、76、80、85、88、91、93、95
	8.8	絞り数値	p. 78、80
②	[圧縮率アイコン]	圧縮率	p. 56
	L L M M S	記録画素数（無表示のとき：RAW画像）	p. 56
	[ストロボ常時発光] [ストロボ発光禁止]	ストロボ常時発光/ストロボ発光禁止（無表示のとき：オート）	p. 61
	ND	NDフィルター	p. 110
	[シングル]/[連続]/[高速連続]	シングル撮影/通常連続撮影/高速連続撮影	p. 73
	ISO	ISO感度	p. 91
	[バッテリー]	バッテリー状態	p. 20
	[マクロ]	マクロモード	p. 70
	[色効果]	色効果	p. 88
	[セルフタイマー]	セルフタイマー/ワイヤレスリモコン	p. 71、172
	88.8	撮影可能画像数/メッセージコード/エラーコード/Int（インターバル撮影）/インターバル撮影の残り枚数	p. 103、167
③	AWB [太陽光] [くもり] [電球] [蛍光灯] [蛍光灯H] [ストロボWB] [マニュアル]	ホワイトバランス	p. 85
	BKT	ブラケット撮影	p. 93、95
	[ストロボ調光補正]	ストロボ調光補正/ストロボ発光量調整	p. 100
	-2..1..●..1..2+	露出補正レベル/AEBレベル/ストロボ調光補正レベル	p. 84、93，100

- 表示例では、すべての情報を表示しています。実際には、カメラの操作により必要な情報のみ表示されます。

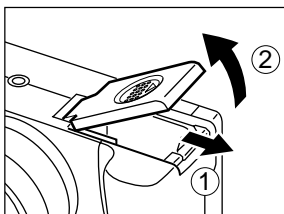
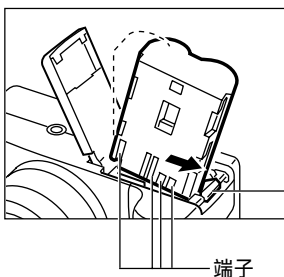
バッテリーを充電する

はじめてお使いになるときや、液晶モニターに「バッテリーを交換してください」というメッセージが表示され、表示パネルにバッテリー残量低下アイコン（ ）と「Lb」が点灯したときは、次の方法でバッテリーを充電してください。

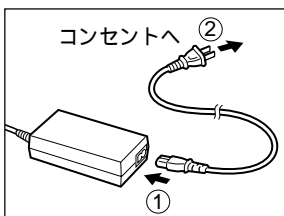
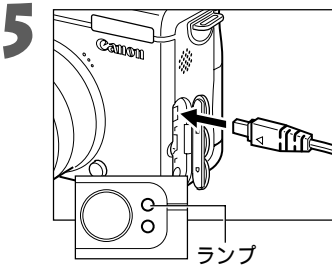
1 電源を切る → p. 28

- パワー/モードランプが消えているのを確認してください。

2 バッテリーカバーを矢印の方向にスライドさせて開く

①
②

3 バッテリーロックを矢印の方向に押しながらバッテリーパック BP-511を入れ、バッテリーカバーを閉じる

バッテリーロック
端子

4 コンパクトパワーアダプターに電源ケーブルを接続し、電源プラグをコンセントに差し込む

5 コンパクトパワーアダプターのDCプラグを、カメラのDC IN端子に接続する

- 充電中はファインダー横の橙色のランプが点滅し、約90%充電(実用充電)されると橙色のランプが点灯します。さらに約2時間充電を続けると、完全に充電され、緑色の点灯に変わります。
- 充電終了後、カメラをお使いにならない場合は、カメラからバッテリーを取り出します。

- 充電中にカメラの電源を入れると、充電が中断され、コンパクトパワーアダプターによる使用に変わります。
- このバッテリーは、リチウムイオン電池を使用しておりますので、充電する前に使い切ったり、放電する必要はありません。いつでも充電できますが、規定充放電回数(寿命)は約300回ですので、長くお使いになるためには、なるべく使い切ってから充電することをおすすめします。
- 完全に放電した状態から、約90%充電(実用充電)できるまでの時間は、約80分です。さらに、約2時間で完全に充電されます。(当社測定基準による)5～40℃の範囲で充電することをおすすめします。
- 充電時間は、周囲の温度や充電状態によって異なります。
- 別売のバッテリーチャージャー CG-570*、CB-5Lでも充電できます。

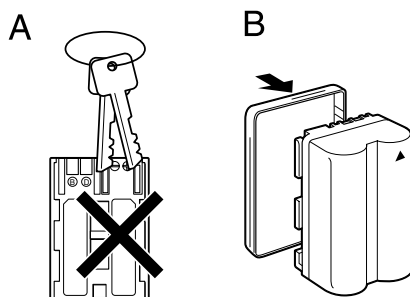
* 同梱のコンパクトパワーアダプター CA-560または別売のコンパクトパワーアダプター CA-570が必要です。(コンパクトパワーアダプター CA-570は、このカメラを家庭用電源で駆動できません。)

- バッテリーパック BP-512(別売)もお使いになれます。
- 海外で使うとき ➔ p. 186

取り扱いについて

- バッテリー、カメラの ⊕⊖ⒹⒷ の端子は常にきれいにしておいてください。
  汚れていると、接触不良の原因となります。充電や使用する前に、ティッシュペーパーなどで乾拭きしてください。
- テーブルクロス、じゅうたん、布団、クッションなどをかけたまま充電しないでください。内部に熱がこもり火災の原因となることがあります。
- バッテリーパック BP-511、BP-512以外のバッテリーは充電しないでください。本体故障の原因となることがあります。
- バッテリーをカメラに取り付けたままにしておくと、お使いにならなくても微少の電流が流れて過放電になり、寿命短縮の原因になります。カメラを使用しないときは、バッテリーを取り出しておいてください。

バッテリーを充電する(つづき)

- キーホルダーなどの金属でバッテリーの「⊕」と「⊖」の端子を接触させると(図A)、バッテリーパックの破損の原因になることがあります。バッテリーを持ち運ぶときや、お使いにならないときは、必ず端子カバーを取り付けて(図B)、乾燥した冷暗所に保管してください。再びお使いになるときには、必ずフル充電してからお使いください。

- 充電しておいたバッテリーも、少しずつ自然に放電しています。使用する当日または前日に充電することをおすすめします。
- フル充電の状態で長期間(1年くらい)保管すると、バッテリーの寿命を縮めたり、性能の劣化の原因となることがありますので、カメラで「Lb」が表示されるまで使い切ってから30℃以下で保管することをおすすめします。また長期間使用しないときは、1年に1回程度フル充電し、カメラで使い切ってから保管してください。
- 電源を入れていると、機能を使わなくてもバッテリーは消耗します。こまめに電源を切ることが、使用時間を長くさせるコツです。
- バッテリーは、0〜40℃の範囲で使用できますが、性能を十分に発揮させるためには、10〜30℃で使用することをおすすめします。スキー場などの寒冷地では、バッテリーの性能が一時的に低下し、使用時間が短くなります。
- 規定の充電をしたにも関わらず、著しく使用できる時間が低下するときは、寿命と考えられます。新しいバッテリーと交換してください。

バッテリーを入れる

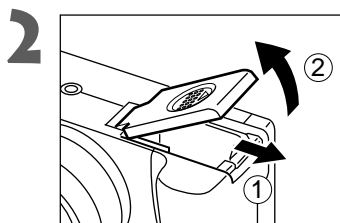
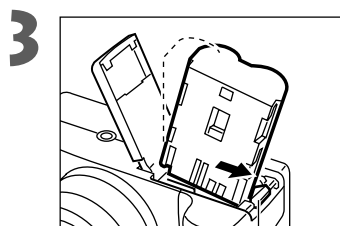
同梱のバッテリーパック BP-511をカメラに入れます。長時間お使いになるときは、コンパクトパワーアダプター CA-560をお使いになることをおすすめします。 **➔ p. 21**

1 電源を切る ➔ p. 28

- パワー/モードランプが消えているのを確認してください。

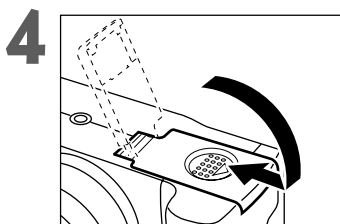
2

バッテリーカバーを矢印の方向にスライドさせて開く

3

バッテリーロック

バッテリーロックを矢印の方向に押しながらバッテリーパックをロックされるまで押し込む

- バッテリーを取り出すときは、バッテリーロックを押して取り出します。

4

バッテリーカバーを倒して元の位置に戻す

- はじめてお使いになるときはバッテリーを充電してください。➔ p. 16
- ファインダー右上のランプが緑色に点滅しているときは、CFカードへの記録/読み出し中/消去中、またはデータ転送中です。カメラの電源を切ったり、バッテリーカバーやCFカードスロットカバーを開けないでください。
- カメラを使用しないときは、バッテリーを取り出しておいてください。

バッテリーの状態について

バッテリーの残量によって表示パネルに以下のアイコンが表示されます。ただし、コンパクトパワーアダプターをお使いの場合は表示されません。

：バッテリーの容量は十分です。

：残量が少なくなっています。

Lb：バッテリーを交換または充電してください。

● バッテリー性能について ➔ p. 195

- この製品には、リチウムイオン電池を使用しています。
- この電池はリサイクル可能な貴重な資源です。
- この電池の回収、リサイクルについては、下記のキヤノンのホームページで確認できます。
  キヤノンサポートページ　canon.jp/support
- 交換後不要になった電池は、ショートによる発煙、発火の恐れがありますので、端子を絶縁するためにテープを貼るか、個別にポリ袋に入れてリサイクル協力店にある充電式電池回収BOXに入れてください。
- リサイクル協力店のお問い合わせは、以下へお願いします。
  製品、リチウムイオン電池をご購入いただいた販売店
  (社)電池工業会 小形二次電池再資源化推進センター及び充電式電池リサイクル協力店くらぶ事務局*

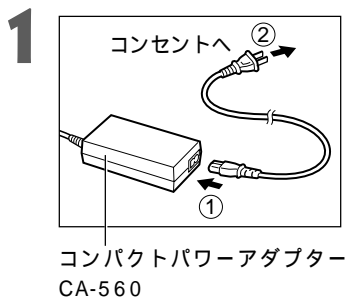
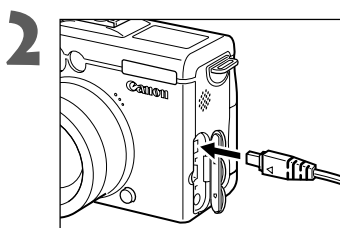
* (社)電池工業会　電話番号　03-3434-0261

リサイクル時のご注意

・電池を分解しないでください。

コンパクトパワーアダプターを使う

カメラを連続して長時間お使いになるときや、パソコン、またはプリンターと接続するときは、コンパクトパワーアダプター CA-560の利用をおすすめします。

コンパクトパワーアダプター
CA-560

コンパクトパワーアダプターに電源ケーブルを接続し、電源プラグをコンセントに差し込む

端子カバーを開き、コンパクトパワーアダプターのDCプラグをカメラのDC IN端子に接続する

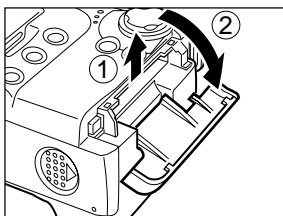
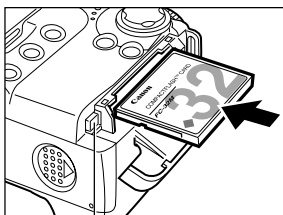
- 使用後は、コンパクトパワーアダプターを取り外してください。

- コンパクトパワーアダプターの取り付けや取り外しは、必ずカメラの電源を切ってから行ってください。
- コンパクトパワーアダプターの使用中（カメラの電源が入っている状態）は、バッテリーの充電はできません。
- コンパクトパワーアダプター CA-560は、バッテリーパック BP-511、BP-512を使用する機器以外には使用しないでください。

- 海外で使うとき ➔ p. 186

CFカードを入れる

1 **電源を切る ➔ p. 28**

- パワー/モードランプが消えているのを確認してください。

2 **CFカードスロットカバーを矢印の方向にスライドさせて開く**

3 **ラベル面を上にして、CFカードを差し込む**

- CFカード取り出しボタンが飛び出すまで、しっかりと差し込んでください。
- CFカードを取り出すときは、このボタンを押して取り出します。

CFカード取り出しボタン

- ファインダー横のランプが緑色に点滅しているときは、CFカードへの記録/読み出し中/消去中、またはデータ転送中ですので、絶対に次のことは行わないでください。画像データが壊れることがあります。
  - カメラ本体に振動や衝撃を与える。
  - カメラの電源を切ったり、バッテリーカバーや**CF**カードスロットカバーを開ける。
- パソコンや、他社のカメラ、アプリケーションソフトウェアで初期化または編集したCFカードを使用すると、誤動作する恐れがありますのでご注意ください。

- CFカードの種類と記録画像数の目安について ➔ p. 196

取り扱いについて

- ＣＦカードは精密電子機器です。曲げたり、強い力を加えたり、衝撃や振動を与えないでください。
- ＣＦカードを分解したり、改造しないでください。
- 温度差の大きな場所へ急に移動すると、ＣＦカードに水滴が付き（結露）、故障の原因になることがあります。結露を防ぐには、移動の前にビニール袋に入れて密閉しておき、周囲の温度に十分慣らしてからお使いください。

  結露したときは、水滴が自然に消えるまで常温で放置してください。
- ＣＦカードを保管するときは、専用のケースに入れてください。
- ＣＦカードは、下記の場所で使用したり、保管しないでください。
  - ほこりや砂ぼこりの立つ場所
  - 高温多湿の場所

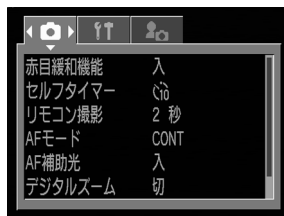
マイクロドライブは、ハードディスクを使用した記録媒体であり、大容量な上に、１ＭＢあたりの単価が安いという利点があります。しかし、フラッシュメモリーを搭載したＣＦカードに比べると振動や衝撃に弱いので、マイクロドライブをお使いになるとき、特に記録や再生中は、カメラに振動や衝撃を加えないよう、十分にご注意ください。

日付/時刻を設定する

はじめてカメラの電源を入れたとき、または、コイン型リチウム電池の容量がなくなったときは、日付/時刻の設定画面が表示されます。手順5から操作してください。

1 電源を入れる → p. 27

2 MENUボタンを押す

- [（撮影）]メニューまたは[（再生）]メニューが表示されます。

オートモードの［（撮影）］メニューです。

3 十字ボタンの▶で[（設定）]メニューを選ぶ

- JUMPボタンを押すと、メニューの切り換えができます。

4 十字ボタンの▲▼で[日付/時刻]を選び、SETボタンを押す

5 日付と時刻を設定する

- 十字ボタンの◀▶で、設定したい項目を選びます。
- 十字ボタンの▲▼で、設定内容を変更します。
- 2030年まで設定できます。

6 SETボタンを押す

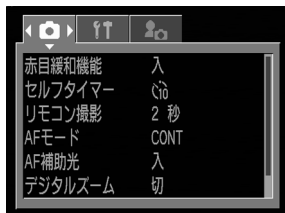
- 設定後、MENUボタンを押して操作を終了します。

- 日付/時刻を設定しても、画像自体に日付/時刻を入れることはできません。
- 日付を入れてプリントしたいとき → p. 138
- コイン型リチウム電池を交換する → p. 184

言語を設定する

1 電源を入れる → p. 27

2 MENUボタンを押す

- [（撮影）]メニューまたは[（再生）]メニューが表示されます。

オートモードの［（撮影）］メニューです。

3 十字ボタンの▶で[（設定）]メニューを選ぶ

- JUMPボタンを押すと、メニューの切り換えができます。

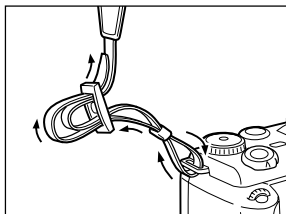
4 十字ボタンの▲▼で[言語]を選び、SETボタンを押す

5 十字ボタンの▲▼または◀▶で言語を選ぶ

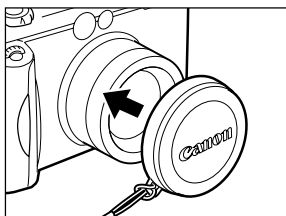
6 SETボタンを押す

- 設定後、MENUボタンを押して操作を終了します。

- カメラが再生モードのときは、SETボタンを押しながらJUMPボタンを押しても、言語を変更することができます（動画再生時、または別売のカメラダイレクト対応プリンター（CPシリーズ）およびカメラダイレクト対応BJプリンタ接続時は設定できません）。

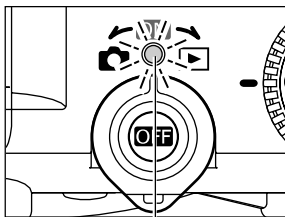
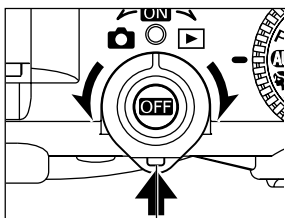
ネックストラップを取り付ける

ストラップの先をストラップ取り付け部の上から通し、さらにストラップに付いている止め具の内側を通します。ストラップを引っ張っても止め具の部分でゆるまないことを確認してください。もう一方のストラップ取り付け部にも、同じようにストラップを取り付けます。

- カメラをネックストラップで下げているときは、振り回すような持ち方を避け、他のものに引っ掛からないように注意してください。

レンズキャップを取り付ける

レンズキャップをレンズにかぶせるようにして取り付けます。カメラの使用後は、レンズキャップを取り付けて保管してください。

- レンズキャップのひもは、ストラップに取り付けます。
- カメラの電源を入れる前に、レンズキャップを外してください。

電源を入れる/切る

カメラに電源が入っていると、パワー/モードランプが点灯します。このランプでカメラの状態が分かります。

パワー/モードランプ

橙点灯　：撮影モード
緑点灯　：再生/プリンター接続モード*
黄点灯　：パソコン接続モード*
消灯　　：電源切

* プリンター接続モードについては「プリンターを接続する」(p. 134)をご覧ください。パソコン接続モードについてはカメラに同梱されているソフトウェアクイックガイドをご覧ください。

ストッパー

モードレバー

電源を入れるときに使用します。

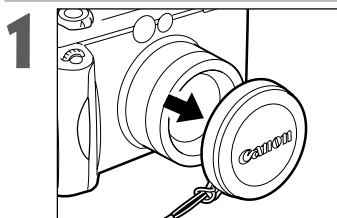
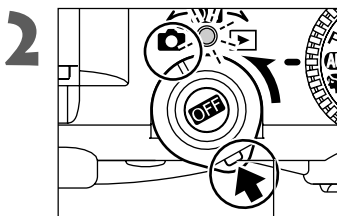
このレバーは、図のように、ストッパーを押しながら操作してください。ストッパーを押さないと動きません。

（撮影）または（再生）で電源が入ったら指を離してください。モードレバーは元の位置（中央位置）に戻ります。

撮影モードで電源を入れる

1

レンズキャップを外す

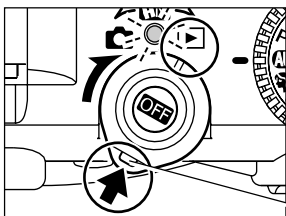
2

ストッパー

ストッパーを押しながらモードレバーを（撮影）側にまわす

- パワー/モードランプが橙色に点灯します。
- 必要に応じて液晶モニターを開きます。➔ p. 31

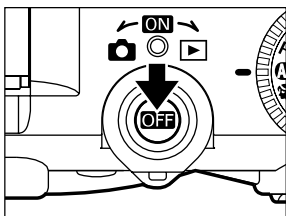
- レンズキャップを付けたまま電源を入れると、表示パネルに「LENS」と表示され、警告音が鳴ります。その場合は、レンズキャップを外し、一度電源を切ってから、再度電源を入れてください。
- 撮影時は、レンズを触らないように注意してください。また、レンズを指で押さえるなど無理な力をかけないようにご注意ください。動作不良や故障の原因となります。その場合は、一度電源を切ってから、再度電源を入れてください。

再生モードで電源を入れる

1

液晶モニターを開き、ストッパーを押しながらモードレバーを▶(再生)側にまわす

- パワー/モードランプが緑色に点灯し、表示パネルにPbが表示されます。

電源を切る

1

OFFボタンを押す

- 電源が切れます。

- 電源を入れると、起動音が鳴り、液晶モニターに起動画面が表示されます。(起動音、起動画面を変更する ➔ p. 29、p. 45、p. 164)
- 撮影モード時に液晶モニターが非表示になっているときや、カメラのA/V OUT端子をテレビ等に接続しているときは、起動画面は表示されません。

起動画面と起動音を消すには

🎤ボタンを押しながら、電源を入れます。

節電機能について

カメラには、節電機能が付いています。節電機能を[入]にしていると、次のようなときに電源が切れます。

撮影モード：約3分間、何も操作をしないと電源が切れます。節電機能を[切]にしている場合でも、液晶モニターを表示して、約3分間、何も操作をしないと、液晶モニターは消えます。

再生モード：約5分間、何も操作をしないと電源が切れます。

プリンター接続モード：
約5分間、カメラの操作を何もせず、また、プリンターで何もプリントしないと電源が切れます。

- 節電機能が働いて電源が切れたときは、モードレバーを📷または▶側に回すと復帰します。
- 節電機能が働いて電源が切れても、微量の電力が消費されますのでご注意ください。
- スライドショーで自動再生中およびパソコン接続時は、節電機能は働きません。➔ p. 122、p. 153
- 設定メニューで節電機能を無効にすることもできます。➔ p. 160

準備・基本操作

撮影/再生を切り換える

撮影モードと再生モードを素早く切り換えることができます。撮影直後に画像を確認したり、消去したりすることができ、またすぐに撮影に戻ることができるので便利です。

● 撮影モードのとき

1 液晶モニターを開き、ストッパーを押しながらモードレバーを▶（再生）側にまわす → p. 28

- 再生モードになります。このときレンズは収納されません。（再度モードレバーを▶側にまわすとレンズが収納されます。）
- ストッパーを押しながらモードレバーを📷（撮影）側にまわすか、シャッターボタンを半押しすると、撮影モードになります。

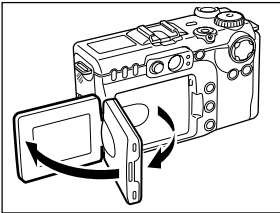
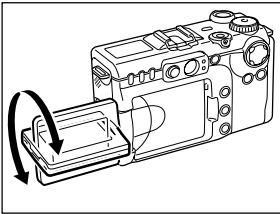
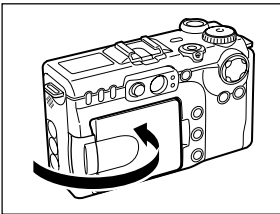
● 再生モードのとき

1 レンズキャップを外す

2 シャッターボタンを半押しする、または、ストッパーを押しながらモードレバーを📷（撮影）側にまわす → p. 27

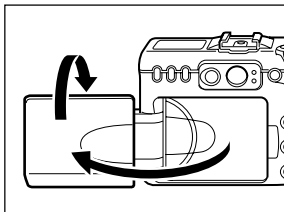
- 撮影モードになります。

液晶モニターの使いかた

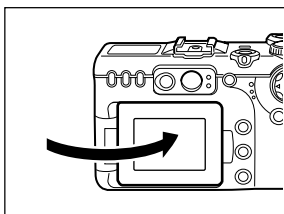
画像を確認しながら撮影したり、撮影した画像を再生するときや、メニュー操作を行うときは液晶モニターを使います。
液晶モニターは次の範囲で動かせます。

左右に１８０度開きます。９０度の位置でいったんロックします。

レンズ側に１８０度、ファインダー側に９０度回転します。

液晶モニターを内側にしてカチッと音がするまで閉じると、液晶モニターの表示は自動的に消えます。液晶モニターの保護のため、カメラを使わないときは、必ずこの状態にしてください。

● コンパクトパワーアダプター使用中は、液晶モニターにＤＣケーブルが触れないようにご注意ください。

次のように回転することもできます。

1

液晶モニターを開き、レンズ側に180度回転させる

- この状態のときは、アイコンやメッセージは液晶モニターに表示されません。
- レンズ側から液晶モニターを見て撮影できるように、画像が鏡像(左右反転)で表示されます。

2

液晶モニターを閉じる

- カチッと音がするまで液晶モニターを閉じてください。きちんと押し込まれていないと、画像が鏡像で表示され、アイコンやメッセージが表示されません。
- 液晶モニターを閉じると、アイコンやメッセージが表示されるようになり、画像の左右が正しくなります。

- 再生モードのとき、画像は鏡像で表示されません。また、アイコンやメッセージは常に表示されます。

表示を切り換える

DISPLAYボタンを押すと、液晶モニター表示の切り換えができます。

● 撮影モードのとき

・DISPLAYボタンを押すたびに、次のように切り換わります。

液晶モニター表示(情報表示なし)➔ 液晶モニター表示(情報表示あり)*➔ 液晶モニター非表示

* 液晶モニターの位置によっては、情報が表示されないことがあります。

- 撮影直後は、液晶モニターに画像が表示されている間にSET ボタンを押し、続けてDISPLAYボタンを押すと、再生時と同様に撮影した画像の詳細表示を確認できます。
- 液晶モニター表示（情報表示なし）/ 液晶モニター表示（情報表示あり）/ 液晶モニター非表示の設定は、カメラの電源を切っても記憶され、次回電源を入れたとき、直前の状態で使用できます。ただし、液晶モニターをつけて撮影しているとき、バッテリー残量低下アイコン（ ）が表示された場合は、次回電源を入れたときに液晶モニターが表示されないことがあります。
- 液晶モニター表示（情報表示なし）のときでも、次の操作を行うと、情報が約6秒間表示されます。
  ・電源を入れたとき
  ・ 、 、 、 ボタンのいずれかを押したとき
  ・マニュアルフォーカスでフォーカスを設定したとき
  ・メイン電子ダイヤルで絞り数値、シャッター速度を変更したとき
  ・撮影モードを変更したとき
- モードダイヤルを や にしたときは、設定に関わらず、液晶モニターがつきます。

- 光量不足のときは、撮影準備完了時に液晶モニターに （手ブレ警告）が表示されます。ストロボをオートまたは常時発光にするか、三脚などでカメラを固定して撮影してください。

● 再生モードのとき

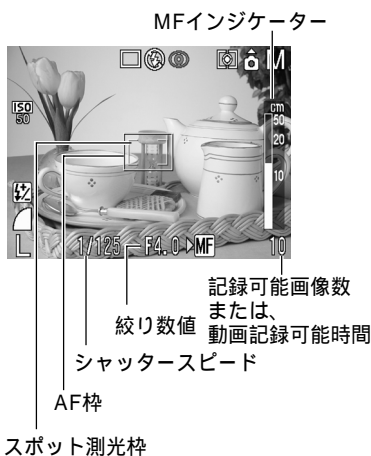
・ DISPLAYボタンを押すたびに、情報表示の切り換えができます。

シングル再生（p. 113） ：簡易表示 → 詳細表示 → 非表示（→ 簡易表示）

インデックス再生（p. 115） ：簡易表示 ↔ 非表示

液晶モニターに表示される情報

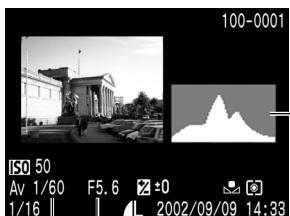
撮影や再生時、カメラの設定状態や撮影可能画像数、撮影日時などが表示されます。

● 撮影モードのとき

情報表示のときは、次の情報が表示されます。

-2･･･+2	露出補正	p. 84
	ホワイトバランス(WB)	p. 85
	ドライブモード	p. 71/73
ISO 50 ISO 100 ISO 200 ISO 400	ISO感度	p. 91
	色効果	p. 88
	ブラケット	p. 93/95
	ストロボ調光補正/ストロボ発光量	p. 100
	圧縮率	p. 56
L M1 M2 S 320 160	記録画素数	p. 56
RAW	記録形式	p. 59
4.0x 5.1x 6.5x 8.1x 10x 12x 16x	ズーム倍率 *	p. 72
	バッテリー残量低下	p. 20
	ストロボ	p. 61
	赤目緩和	p. 62
	マクロモード	p. 70
	測光方式	p. 82
	縦横自動回転	p. 111
AUTO P Tv Av M C1 C2	撮影モード	p. 13
ND	NDフィルター	p. 110
	手ブレ警告	p. 33
	AEロック/FEロック	p. 97/99
MF	マニュアルフォーカス	p. 105/106
● (赤)	動画撮影	p. 69

- **□のアイコンは、情報表示なしのときも表示されます。**
- **これら以外に左上の図のように、メッセージ、AF枠、スポット測光枠、シャッタースピード、絞り数値、MFインジケーター(マニュアルフォーカス時)が表示されます。**

* 光学ズームとデジタルズームを組み合わせた倍率です。デジタルズーム時に表示されます。(「4.0x」は、光学ズームのテレ端です。)

● 再生モードのとき

簡易表示では、次の情報が表示されます。

S ◢ ▟	圧縮率	p. 56
L M1 M2 S	記録画素数	p. 56
RAW	記録形式	p. 59
♪	WAVE形式の音声メモ	p. 121
AVI	動画	p. 117
O┳	プロテクト情報	p. 126

詳細表示では、さらに次の情報が表示されます。

ISO 50 100 200 400	ISO感度	p. 91
	色効果	p. 88
AUTO P Tv Av M	撮影モード	p. 13
320 160	記録画素数(動画)	p. 56
-2…±0…+2	露出補正	p. 84
-2…±0…+2	ストロボ調光補正	p. 100
AWB	ホワイトバランス	p. 85
	測光方式	p. 82
	マクロモード	p. 70
MF	マニュアルフォーカス	p. 105/106

- **これら以外に左の図のように、シャッター速度、絞り数値、動画記録時間、ヒストグラム、高輝度警告が表示されます。**

画像によっては、以下の情報を表示することがあります。

♪?	WAVEファイル以外の音声ファイル、または、認識できないファイルが付いています。
▲	DCF (p.194) の規格と異なる構造を持つJPEGファイルです。
?	認識できない形式のデータです。

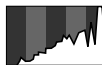
- このカメラで撮影した画像を他のカメラで再生する場合、あるいは他のカメラで撮影した画像を、このカメラで再生する場合、情報を正しく表示できないことがあります。

ヒストグラムについて

ヒストグラムは、撮影した画像の明るさを判断するためのグラフです。グラフが左に寄るほど暗い画像になり、右に寄るほど明るい画像になります。
暗いほうに偏っているときは、露出をプラス側に補正し、明るいときは、マイナス側に補正して撮影します。➔ p. 84

ヒストグラム例

暗い画像

普通の明るさの画像

明るい画像

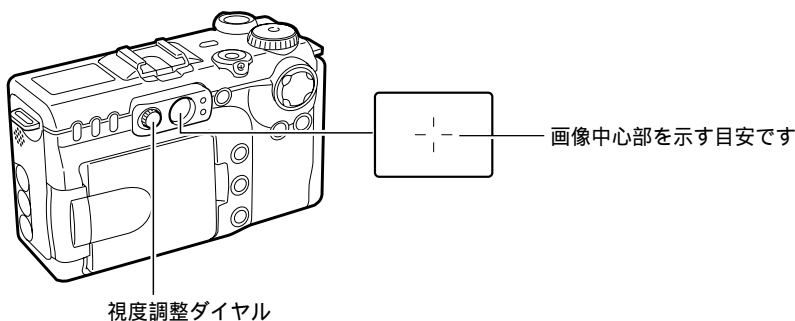
高輝度警告について

情報表示にしたとき、撮影画像に露出オーバー部分があると、その個所が点滅表示されます。

ファインダーを使って撮る

液晶モニターを非表示にし(p. 31)、ファインダーを使って撮影すると、消費電力を抑えることができます。

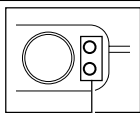
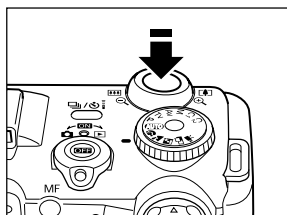
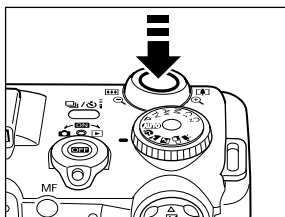
● ファインダーから被写体がはっきり見えるように、視度調整ダイヤルで調整してください。－3～＋1m⁻¹(ディオプトリ相当)の範囲で調整できます。
● ファインダーの視野率*は、約83%です。

* 実際に撮影される範囲に対して、ファインダーで確認できる範囲の比率です。

ファインダーで見える範囲と撮影範囲の違いについて
ファインダーを使って撮影するときは、ファインダーの特性上、ファインダーで見える範囲と実際に撮影される範囲にズレ(パララックス)が生じます。特に被写体の距離が近い場合には、パララックスが大きくなり、ファインダーで見える範囲でも撮影されない場合があります。マクロモードでは、液晶モニターを使って撮影してください。

AF枠を選択しているとき
AF枠を任意の位置に設定して撮影するときは、液晶モニターをつけてください。(AF枠を移動する ➔ p. 81)

シャッターボタンの押しかた

シャッターボタンは、半押しと全押しの2段階で動作します。

ランプ

● 半押し－浅く押したとき

露出、フォーカス、ホワイトバランスを自動設定します。

- ランプで設定状態がわかります。

  ランプ（上）
  - 緑点灯：撮影準備完了（電子音が2回鳴ります。）
  - 橙点灯：ストロボ発光
  - 橙点滅：手ブレ警告/露出不足

  ランプ（下）
  - 黄点灯：マクロ撮影/マニュアルフォーカス撮影
  - 黄点滅：ピントが合いにくいとき*（電子音が1回鳴ります。）

  * 黄点滅したときは、フォーカスロック、またはマニュアルフォーカスで撮影してください。➔ p. 106

AF枠

- AF枠は、次のようになります。（液晶モニターがついているとき）
  - 緑色：撮影準備完了
  - 黄色：ピントが合いにくいとき

● 全押し－深く押したとき

撮影します。

- CFカードに記録中はランプが緑色に点滅します。
- 撮影が終了するとシャッター音が鳴ります。シャッター音が鳴るまでカメラを動かさないでください。

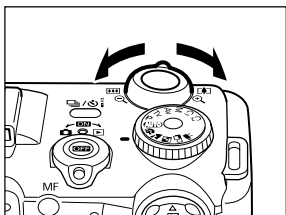
- シャッターボタンを半押ししたときに、橙色、または黄色のランプが点滅していても、そのまま全押しして撮影できます。
- 撮影した画像は、いったん内部メモリーに保存され、順次CFカードに書き込まれていきます。内部メモリーに空きがある間は、撮影後、すぐに次の撮影ができます。
- 電子音、シャッター音の[入/切]は、メニューで設定できます。➔ p. 160、161
- シャッター音を[切]にしていても、電子音を[入]に設定している場合は、全押しするとピッという電子音が1回鳴ります。
- 動画撮影時は、シャッター音は鳴りません。
- ストロボ充電中は撮影できません。

AF補助光について

- 暗い場所などでシャッターボタンを半押ししたとき、ピントを合わせやすくするために、AF補助光投光部が光ることがあります。
- AF補助光を切ることもできます。➔ p. 157
  例えば、暗い場所で動物を撮るときなど、AF補助光で動物を驚かせて逃がすことなく撮影できます。ただし、以下のことに注意してください。
  - AF補助光を切ると、ピントが合いにくくなることがある
  - AF補助光を切っても、シャッターボタンを半押しすると赤目緩和ランプが光ることがある

  ストロボが発光する前に何も光らないようにするためには、撮影メニューの赤目緩和機能とAF補助光を[切]にしてください。

ズームを調節する

35mmフィルム換算で、35～140mmの範囲で画角を調節できます。

望遠/広角

ズームレバーを[🌲]側に押すと、被写体を大きく写します。（望遠）

[🌲🌲🌲]側に押すと、被写体を小さく写します。（広角）

デジタルズーム

光学ズームと合わせて、最大約16倍に拡大して撮影できます。➔ p. 72

● モードによっては、デジタルズームが使えないことがあります。➔ p. 208

● デジタルズームは、拡大するほど画質が粗くなります。

メニューの選択と設定のしかた

撮影時や再生時の設定や、日付/時刻、電子音などのカメラの設定は、メニューを使って操作します。メニューを表示させるには、FUNC.ボタンを押す場合と、MENUボタンを押す場合があります。液晶モニターを見ながら、次のように操作してください。

FUNC.ボタンを押して設定する（撮影モードのときのみ）

1 モードレバーを（撮影）側にまわす

2 DISPLAYボタンを押して液晶モニターをつける

- 機能によっては、表示パネルだけでも操作できます。

3 FUNC.ボタンを押す

- 液晶モニターの左端に、変更可能な設定のアイコンが表示されます。
- アイコンはその時設定されている内容が表示されます。

4 十字ボタンの▲▼を押して、メニュー項目を選ぶ

5 電子ダイヤルをまわす、または十字ボタンの◀▶を押して、設定したい内容を選ぶ

- メニューによっては、電子ダイヤルをクリック、またはSET ボタンを押して次のメニューを表示してから設定します。設定後、再度電子ダイヤルをクリック、またはSET ボタンを押して、設定内容を確定します。

6 電子ダイヤルをクリックするか、FUNC.ボタンを押す

- メニューが終了します。
- 手順5のあと、すぐにシャッターボタンを押して撮影することもできます。

- 手順5、6では、電子ダイヤルを使うことで、簡単に設定できます。

MENUボタンを押して設定する

1 MENUボタンを押す

● カメラが撮影モードのときは[（撮影）]メニューが表示され、再生モードのときは[（再生）]メニューが表示されます。

2 十字ボタンの◀▶でメニューを切り換える

● メニューは次のように切り換わります。
[（撮影）]または[（再生）] ↔ [（設定）] ↔ [（マイカメラ）]
● JUMP ボタンやズームレバーでも、同様にメニューの切り換えができます。

3 十字ボタンの▲▼でメニュー項目を選ぶ

4 十字ボタンの◀▶で設定したい内容を選ぶ

● 「...」のある項目では、**SET** ボタンを押して次のメニューを表示してから設定します。設定後、再度**SET** ボタンを押して設定内容を確定します。

5 MENUボタンを押す

● メニューが終了します。
● 撮影モードのときは、シャッターボタンを半押ししてもメニューを終了できます。（再生モードのときにシャッターボタンを半押しすると、メニューが終了し、撮影モードになります。）

● 電子ダイヤルでは設定できません。

メニュー設定項目と初期設定

各メニューで設定できる項目と初期設定は、次の通りです。

FUNC.ボタンで設定できる項目

メニュー項目	設定内容	参照先
ISO感度	AUTO/50*/100/200/400	91
色効果	OFF*/V/N/LS/S/BW/C	88
ブラケット撮影	OFF*/ /	93/95
ストロボ調光補正/ストロボ発光量	-2～±0*～+2 / 1～3(FULL)	100/101
記録画素数、記録形式、圧縮率	(静止画)L*/M1/M2/S/RAW (動画) 320*/ 160 (圧縮率) S / * /	56/59

MENUボタンで設定できる項目

	メニュー項目	設定内容	参照先
撮影メニュー	ストロボ発光	先幕*/ 後幕	102
	スローシンクロ	入 / 切*	62
	ストロボ自動調光	入*/ 切	100
	赤目緩和機能	入*/ 切	62
	連続撮影方式	*(通常連続撮影)/ (高速連続撮影)	73
	セルフタイマー	10秒*/2秒	71
	リモコン撮影	0秒/2秒*/10秒	172
	スポット測光枠	中央固定*/AF枠連動	82
	NDフィルター	入 / 切*	110
	MF拡大表示	入*/ 切	106
	AFモード	CONT*/ SINGLE	108
	AF補助光	入* / 切	157
	デジタルズーム	入 / 切*	72
	撮影の確認	切 / 2秒*～10秒	55
	インターバル撮影	一定の間隔で自動的に撮影します。	103
	カスタム登録	使い方に合わせた設定を登録します。	109
再生メニュー	プロテクト	プロテクトを設定します。	126
	回転	回転して表示します。	120
	全消去	すべての画像を消去します。	128
	スライドショー	自動再生します。	122
	プリント指定	プリント指定をします。	143
	送信指定	送信指定をします。	150

*初期設定

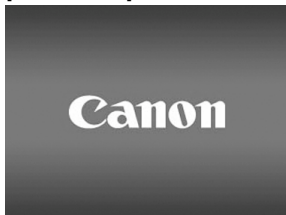
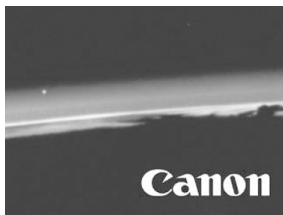
	メニュー項目	設定内容	参照先
設定メニュー	電子音	入* / 切	160
	液晶の明るさ	*/	160
	節電	入* / 切	160
	日付/時刻	日付/時刻を設定します。	24
	カードの初期化	CFカードを初期化します。	129
	シャッター音量	切 / 1 / 2*/ 3 / 4 / 5	161
	再生音量	切 / 1 / 2*/ 3 / 4 / 5	161
	起動音量	切 / 1 / 2*/ 3 / 4 / 5	161
	操作音量	切 / 1 / 2*/ 3 / 4 / 5	162
	セルフタイマー音	切 / 1 / 2*/ 3 / 4 / 5	162
	番号リセット機能	入 / 切*	112
	縦横自動回転	入* / 切	111
	距離表示	m/cm* / ft/in	162
	言語	English / Deutsch / Français / Nederlands / Dansk / Suomi / Italiano / Norsk / Svenska / Español / 汉语 / 日本語*	25
	ビデオ出力方式	NTSC* / PAL	163
マイカメラメニュー	セット	/ 1*/ 2 / 3	45/164
	起動画面	/ 1*/ 2 / 3	45/164
	起動音	/ 1*/ 2 / 3	45/164
	操作音	/ 1*/ 2 / 3	45/164
	セルフタイマー音	/ 1*/ 2 / 3	45/165
	シャッター音	/ 1*/ 2 / 3	45/165

*初期設定

- **撮影モードによって、選択できないメニュー項目があります。**
- **マイカメラメニューの設定内容「2」と「3」には、パソコンと接続して好きな画面や音を登録できます。詳しくは「マイカメラコンテンツを登録する（p. 47）」、またはソフトウェアクイックガイドをご覧ください。**
- **［日付/時刻］、［言語］、［ビデオ出力方式］以外のメニュー設定と、ボタン操作によるカメラの設定を、一度にすべて初期設定に戻すことができます。→ p. 166**

カメラをカスタマイズする（マイカメラ機能）

カメラの起動画面や起動音、シャッター音、操作音、セルフタイマー音を「マイカメラコンテンツ」と呼びます。このカメラでは起動画面や音をそれぞれ3種類から選べます。

[例：起動画面]

[1]

[2]

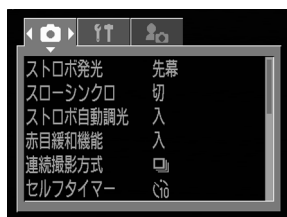
[3]

初期設定時は、マイカメラコンテンツの[2]にはSF関連、[3]には動物関連のコンテンツが入っています。

マイカメラコンテンツを変更する

1 電源を入れる → p. 27

2 MENUボタンを押す

- [ ](撮影)] メニューまたは[ ](再生)] メニューが表示されます。

3 十字ボタンの▶で[(マイカメラ)]メニューを選ぶ

- JUMP ボタンを押すと、メニューの切り換えができます。

4 十字ボタンの▲▼でメニュー項目を選ぶ

準備・基本操作

5 十字ボタンの◀▶で設定したいコンテンツを選ぶ

6 MENUボタンを押す

- MENUボタンを押すとメニューが終了し、設定が有効になります。
- 撮影モードのときは、シャッターボタンを半押ししてもメニューを終了できます。（再生モードのときにシャッターボタンを半押しすると、メニューが終了し、撮影モードになります。）

- 手順5で[セット]を選ぶと、[起動画面]、[起動音]、[シャッター音]、[操作音]、[セルフタイマー音]のすべてを同じテーマで選択できます。
- [起動音]、[シャッター音]、[操作音]、[セルフタイマー音]を[（切）]に設定していても、[（設定）]メニューの[電子音]が[入]になっているときは、電子音が鳴ります。➔ p. 160

マイカメラコンテンツを登録する

各コンテンツの[ ][ ]には、CFカードに記録してある画像や新たに録音した音声をマイカメラコンテンツとして、その場ですぐにカメラに登録できます。また、同梱のソフトウェアを使ってパソコンにある画像や音声を登録したり、Canon Image Gateway (オンラインフォトサービス → p. 50)から、同梱のソフトウェアを通じて、コンテンツをお使いのパソコンにダウンロードし、それをカメラに登録することもできます。
コンテンツを登録できる項目は、次のとおりです。

- 起動画面
- 起動音
- 操作音
- セルフタイマー音
- シャッター音

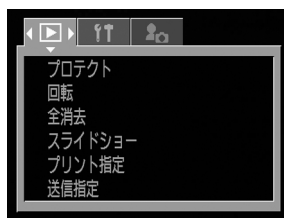
準備・基本操作

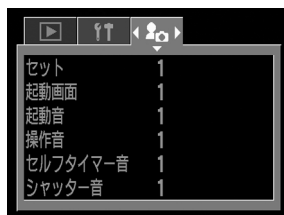
CFカード内の画像や音声を登録する

1 モードレバーを（再生）側にまわす

- 再生モードになります。

2 MENUボタンを押す

- [（再生）]メニューが表示されます。

3 十字ボタンの▶で[（マイカメラ）]メニューを選ぶ

- JUMP ボタンを押すと、メニューの切り換えができます。

4 十字ボタンの▲▼で登録したいメニュー項目を選ぶ

5 十字ボタンの◀▶で[2]または[3]を選ぶ

- DISPLAY [登録]が表示されます。

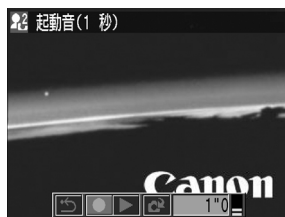
6 DISPLAYボタンを押す

- 画面が表示されます。
  [起動画面]→手順7a、8a
  [起動音][シャッター音][操作音][セルフタイマー音]→手順7b、8b

7a 十字ボタンの◀▶で登録したい画面を選ぶ

8a SETボタンを押す

7b 十字ボタンの◀▶で[●（録音）]を選び、SETボタンを押す

- 録音が開始されます。
- 一定時間が経過すると、自動的に録音が終了します。
  起動音：1秒
  操作音：0.3秒
  セルフタイマー音：2秒
  シャッター音：0.3秒

8b 十字ボタンの◀▶で[登録（登録）]を選び、SETボタンを押す

9 十字ボタンの◀▶で[OK]を選び、SETボタンを押す

- ＲＡＷ画像や動画、音声メモ機能(p.１２１)で記録した音声は、マイカメラコンテンツに登録できません。
- 新しいマイカメラコンテンツを登録すると、以前に登録されていたコンテンツは消去されます。

マイカメラコンテンツのファイルフォーマット

マイカメラコンテンツは、以下のファイルフォーマットにしたがっていることが必要です。ただし、このカメラで撮影したCFカード内の画像は、下記フォーマットに関係なく登録できます。

● 起動画面

- 記録画像フォーマット　JPEG （ベースライン JPEG)
- サンプリングレート　4:2:0または4:2:2
- 画像サイズ　320 X 240画素
- ファイル容量　20KB以下

● 起動音、操作音、セルフタイマー音、シャッター音

- 記録フォーマット　WAVE(モノラル)
- 量子化ビット　8bit
- サンプリング周波数　11.025kHzまたは8.000kHz
- 記録時間

	11.025kHz	8.000kHz
起動音	1.0秒以下	1.3秒以下
操作音	0.3秒以下	0.4秒以下
セルフタイマー音	2.0秒以下	2.0秒以下
シャッター音	0.3秒以下	0.4秒以下

上記フォーマット以外のファイルは、カメラに登録できません。

たとえば、[セルフタイマー音]で、「はい、チーズ!」などの掛け声を登録すると、シャッターが切れる2 秒前にカメラが発声し、また他にもさまざまな音をお楽しみいただけます。陽気なリズムの音楽を登録すれば、目元もほころび、自然な笑顔を撮影できるかもしれません。演奏に合わせてポーズを決めるのも、マイカメラならではの撮影方法です。

マイカメラコンテンツの登録、作成についての詳細は、同梱のソフトウェアクイックガイドをご覧ください。

Canon Image Gatewayを活用する

このカメラをお買い求めになられた皆様には、インターネットサイト「Canon Image Gateway」から、以下のようなオンラインフォトサービスをご利用いただけます。サービスを利用するときには、まず会員登録（オンライン登録：無料）が必要です。最新のサービス内容や会員登録方法は、http://www.imagegateway.net/でご確認いただけます。また、会員登録方法については、ソフトウェアクイックガイドでもご確認いただけます。

＊インターネットに接続できる環境（プロバイダとの契約やブラウザソフトのインストール、各種回線接続が完了済み）が必要です。

＊プロバイダとの接続料金およびプロバイダのアクセスポイントへの通信料金は別途かかります。

Canon Image Gatewayの会員になるとできること

●バージョンアップなどサポート情報の電子メール配信サービスの利用

ご登録いただいているカメラのファームウェア/ソフトウェアのバージョンアップに関する最新情報をご希望になられた方にお届けしています。

●オンラインアルバムサービスの利用（無料）

撮影した動画*や静止画の画像をCanon Image Gatewayにアップロードし、ネット上に自分のアルバムを作成できます。画像に付けたコメントや音声などをアップロードすることもできますので、個性的なアルバムを作れます。また、作成したアルバムをお友達やご家族に公開したい場合は、Canon Image GatewayからURL付きのお知らせメールをパソコンや携帯電話へ簡単に送ることができます。メールで通知されたＵＲＬを使ってパソコンや携帯電話からオンラインアルバムを直接見られるので、楽しい思い出を共有することができますし**、パソコンからは動画を見ることもできます。携帯電話ではお使いの機種に合わせて、画像の大きさや色数が自動的に調整されます。

*** 動画のアップロードにあたっては、ZoomBrowser EX（Windows用）かImageBrowser（Macintosh用）をご利用の上、追加ソフトウェア（無料）をCanon Image Gatewayからダウンロードして事前にパソコンにインストールする必要があります。**

**** 携帯電話の通信料金は使用された方のご負担となります。また、カラー表示可能な携帯電話をご利用ください。**

●オンラインアルバムからのプリントサービス利用

オンラインアルバムからは次のプリントサービスが利用できます。

ホームプリンティングサービス（無料）

画面上の印刷ボタンを押すだけで、オンラインアルバム上のお好きな画像を、ご自身だけでなく、お知らせメールを受けたお友達やご家族も対応のキヤノン製プリンターで印刷できます。あらかじめ画像データをダウンロードして、プリント用紙サイズに合わせてレイアウトするといった面倒な操作は一切不要です*。

*** ご利用の際にはプラグインモジュールをCanon Image Gatewayからダウンロードして、パソコンにインストールする必要があります。**

オンラインプリントサービス（有料）

オンラインアルバムの画像はインターネットから、24時間いつでもプリントを注文できます。プリントは提携のプリントサービス会社から指定の場所に配送されてきます。また、代金はクレジットカードもしくは最寄りのコンビニエンスストアに設置されているマルチメディア端末を使って（コンビニ決済）、簡単にお支払いいただけます*。公開されたアルバムを見たお友達やご家族の人たちからも注文できます。プリントサイズはDP判、L判、2L判、A4判、A3判、ポストカードサイズに対応しており、また携帯電話からもプリントを注文できます。

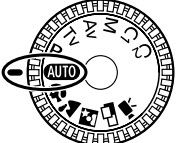
*** ご利用いただけないコンビニエンスストアもあります。また、別途手数料と消費税がかかります。**

オリジナル写真集（マイブック）作成サービス（有料）

Canon Image Gatewayのオンラインアルバムをプリント/製本して、本格的なオリジナル写真集を注文できます。公開されたアルバムを見たお友達やご家族の人たちからも注文できます。なお、代金はクレジットカードもしくはコンビニ決済でもお支払いいただけます*。

*** ご利用いただけないコンビニエンスストアもあります。また、別途手数料と消費税がかかります。**

●マイカメラコンテンツのダウンロード（無料）

マイカメラコンテンツをダウンロードし、カメラに登録できます。Canon Image Gatewayには、多彩なコンテンツが用意されていますので、お好きなものをダウンロードしてください。（コンテンツは随時更新されますので、時々確認してみてください。）ダウンロードしたコンテンツを、カメラに登録することができ、ご自分だけのオリジナルカメラを楽しめます。

撮影 - カメラまかせの簡単撮影

各撮影モードでどのような設定が変更できるかは、巻末の「各撮影モードで設定できる機能一覧」(p. 208)をご覧ください。

AUTO オートで撮る

シャッターボタン以外の操作をする必要がなく、カメラまかせの撮影ができます。

1 撮影モードになっていることを確認する → p. 27

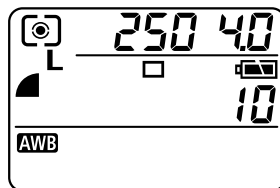
2 モードダイヤルを AUTO にする

3 被写体にカメラを向ける

4 ズームレバーで画角（画面内の被写体の大きさ）を決める

5 シャッターボタンを半押しする → p. 38

- シャッターボタンを押してピントを合わせます。撮影準備が完了すると、電子音が2回鳴り、ファインダー横のランプが緑色または橙色に点灯します。液晶モニターがついているときは、緑色のAF枠が点灯します。
- シャッタースピードと絞り数値が自動的に決まり、表示パネルに表示されます。液晶モニターがついている場合、液晶モニターにも表示されます。
- ピントが合いにくいときは、電子音が1回鳴りランプが黄色に点滅します。このときAF枠が黄色になります。

AF枠

シャッターボタンを全押しする ➔ p. 38

- シャッター音が1回鳴り、撮影が完了します。
- 液晶モニターがついている場合、撮影した画像が約2秒表示されます。

- 各撮影モードで設定できる機能一覧 ➔ p. 208
- 撮影後、液晶モニターに撮影画像が表示される時間を変更したり、表示されないように設定できます。➔ p. 55

撮影直後に画像を確認する

撮影した画像を確認する

撮影直後、シャッターボタンを離しても約2秒間（秒数は変更できます ➔ p. 55）、撮影した画像が表示されますが、次の方法で確認することもできます。

● シャッターボタンを全押しし続ける

シャッターボタンを全押しし続けている間、液晶モニターに画像を表示できます。

● 画像表示中にSETボタンを押す

撮影した画像が表示されている間にSETボタンを押すと、シャッターボタンを離しても、画像が表示され続けます。

シャッターボタンを半押しすると解除され、撮影できます。

● 画像確認中に次のようなことができます。参照先をご覧ください。

- 画像を消去する ➔ p. 9、127
- 画像の詳細情報を表示する ➔ p. 33
- 画像を拡大表示する ➔ p. 114
- 記録形式を変更する ➔ p. 55
- 音声を録音する ➔ p. 121

撮影直後に記録形式を変更する

P、Tv、Av、M、C1、C2のときは、撮影直後に以下の操作を行うと、JPEG形式で撮影した画像をRAW形式（p. 59）で記録できます。*
RAW形式で保存すると、画像を劣化させることなく、ホワイトバランス、色効果、記録画素数などを、再度パソコンを使ってお好みの画像に加工しやすくなります。
＊ JPEG形式の画像は記録されません。

1 撮影直後、液晶モニターに画像が表示されている間にFUNC.ボタンを押す

2 十字ボタンの◀▶で[OK]を選びSETボタンを押す

- RAW形式で記録されます。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影画面に戻ります。

- すでに記録形式に RAW が選ばれているとき、またはデジタルズームを使って撮影したときは、上記の操作を行うことはできません。

撮影した画像の確認時間を変更する

画像の確認時間を、[切]または[2秒]～[10秒]のいずれかに変更できます。

1 [📷（撮影）]メニューから[撮影の確認]を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 41

2 確認時間を選び、MENUボタンを押す

- [切]の場合、画像は表示されません。
- [2秒]から[10秒]の場合、シャッターボタンを離しても、設定した時間、画像が表示されます。
- シャッターボタンを全押しし続けると、設定に関わらず画像を表示できます。
- 画像の表示中でも撮影できます。

記録画素数と圧縮率を変更する

目的に応じて、記録画素数、圧縮率（動画を除く）を変更できます。
CCDのオリジナルデータを記録したい場合は、[RAW]を選んでください。**→ p. 59**

記録画素数			撮影の目安
L（ラージ）	2592×1944 画素	大きい	• A4サイズ以上をプリントするとき
M1（ミドル1）	1600×1200 画素	↕	• Lサイズ、またはA5サイズをプリントするとき
M2（ミドル2）	1024× 768 画素		• カードサイズをプリントするとき
S（スモール）	640× 480 画素	小さい	• 電子メールで画像を送るとき • より多くの画像を撮影するとき

圧 縮 率			撮影の目安
(S)	スーパーファイン	きれい	より良い画質で撮影するとき
◢	ファイン	↕	通常の撮影をするとき
▟	ノーマル	普通	より多くの画像を撮影するとき

●動画の場合は、次の記録画素数で撮影できます。

記録画素数	
320	320×240画素
160	160×120画素

1 DISPLAYボタンを押して液晶モニターをつける

● 液晶モニターをつけなくても変更できます。

2 FUNC.ボタンを押す

3 十字ボタンの▲▼で、◢*（圧縮率）または**L***（記録画素数）を選ぶ

* 現在の設定が表示されます。

4 電子ダイヤル、または十字ボタンの◀▶で、設定したい圧縮率または記録画素数を選ぶ

- 設定したあとシャッターボタンを押せば、すぐに撮影できます。また、撮影後は再びこの画面が表示されます。

記録画素数（🎥以外）

記録画像数
（記録画素数、圧縮率、記録形式を選択したときのみ表示）

圧縮率

5 電子ダイヤルをクリックするか、FUNC.ボタンを押す

- 液晶モニターと表示パネルに選択した記録画素数や圧縮率が表示されます。

6 撮影する

- 撮影モードによっては設定できないこともあります。「各撮影モードで設定できる機能一覧」（p. 208）をご覧ください。
- 1画像の容量（目安）について ➔ p. 196
- CFカードの種類別、記録画像数について ➔ p. 196
- 記録画素数や圧縮率は、撮影モードを変更した場合、次のようになります（ は、記録画素数のみ）。

変更前の撮影モード	変更後の撮影モード	変更後の記録画素数、圧縮率
AUTO C1 C2	AUTO P Tv Av M C1 C2	変更したモードの設定内容に変わります。
		設定内容は変わりません。
	AUTO P Tv Av M C1 C2	変更したモードの設定内容に変わります。
P Tv Av M	P Tv Av M	設定内容は変わりません。
	AUTO C1 C2	変更したモードの設定内容に変わります。

記録形式を変更する

あらかじめ記録形式をRAWに変更してから撮影できます。
通常のＪＰＥＧ形式は、適正な画質になるようにカメラ内で画像処理を行っています。またＣＦカードに多くの画像を記録できるように、ファイルサイズを圧縮しています。これは非可逆圧縮ですので、オリジナルと完全に同一のデータを復元することはできません。
一方、ＲＡＷ形式は、カメラ内で画像処理することなく、ＣＣＤからの画像データをそのまま記録します。またＪＰＥＧ形式と同じく記録時に圧縮していますが、オリジナルデータを完全に復元*できる可逆圧縮ですので、非圧縮ファイルと同等のデータ劣化がまったくない高品位な画像が得られます。そのうえ、ＲＡＷ形式のファイルサイズは、非圧縮ファイルであるRGB TIFF形式の約１/４*と、大変コンパクトです。
RGB TIFF形式など一般の非圧縮ファイルの場合、カメラ内で画像処理をしており、さらに画質を調整するには、レタッチソフトウェアでの処理が必要ですが、その際、画質が劣化してしまいます。しかしRAW形式は、専用のソフトウェア**によりオリジナルの画像データ上で画質（ホワイトバランス、コントラスト、シャープネス、色の濃さ）を調整できるため、高品位を保ったまま、お好みの画像を作り出すことができます。ＲＡＷ形式を選択すると、記録画素数や圧縮率は選択できません。記録画素数は、２５９２×１９４４に固定されます。

* 当社測定条件によります。

** ＲＡＷ形式データで記録した画像をパソコンで開いたり、画質を調整するには、同梱のソフトウェアを使います。詳しくは、ソフトウェアクイックガイドをご覧ください。

1 モードダイヤルをP、Tv、Av、M、C1、C2のいずれかにする

2 DISPLAYボタンを押して液晶モニターをつける

3 FUNC.ボタンを押す

4 十字ボタンの▲▼で、L*（液晶モニター）またはL*（表示パネル）を選ぶ

* 現在の設定が表示されます。

撮影―カメラまかせの簡単撮影

5 電子ダイヤル、または十字ボタンの◀▶で、RAW（液晶モニター）または r（r）（表示パネル）を選ぶ

- 設定したあとシャッターボタンを押せば、すぐに撮影できます。また、撮影後は再びこの画面が表示されます。

6 電子ダイヤルをクリックするか、FUNC.ボタンを押す

- 液晶モニターにRAWが表示されます。

7 撮影する

- JPEG形式で撮影した画像でも、撮影直後の画像表示中であれば、あとからRAW形式に変更できます。➔ p. 55

内蔵ストロボを使って撮る

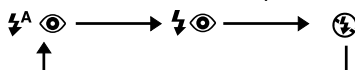
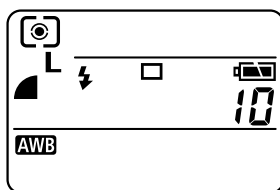
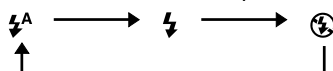
撮影状況に合わせて、ストロボを使って撮影できます。

*	**赤目緩和オート**	明るさに応じて自動的にストロボを発光して撮影します。ストロボ発光の際には、常に赤目緩和ランプを発光します。
*	**オート**	明るさに応じて自動的にストロボを発光して撮影します。
*	**常時発光(赤目緩和)**	常に赤目緩和ランプとストロボを発光して撮影します。
	常時発光	常にストロボを発光して撮影します。
	発光禁止	撮影時にストロボは発光しません。

* 表示パネルには表示されません。
- 外部ストロボについては、p. 175をご覧ください。

1 ボタンを押してストロボモードを切り換える

- 選択したストロボモードが表示パネルに表示されます。液晶モニターがついている場合、液晶モニターにも表示されます。
- ボタンを押すごとに設定が切り換わります。

赤目緩和機能[入]のとき ➔ p. 62

赤目緩和機能[切]のとき ➔ p. 62

2 撮影する

- シャッターボタンを半押ししたときに、ファインダー横のランプが橙色に点灯した場合は、ストロボが発光します。(では発光しません)
- 撮影手順は、「AUTO オートで撮る(p. 52)」と同じです。

- 撮影モードによっては設定できないこともあります。「各撮影モードで設定できる機能一覧」(p. 208)をご覧ください。

赤目緩和機能を設定する

暗いところでストロボを発光するとき、赤目緩和ランプを発光します。ストロボの光が目に反射して目が赤く光るのを防ぎます。

1 [◙(撮影)]メニューの[赤目緩和機能]で[入]を選ぶ

● 液晶モニターに◉が表示されます。

● 写される人が赤目緩和ランプを見ていないと効果がありません。ランプを見るように声をかけてください。また、「レンズを広角側にする」、「室内を明るくする」、「写したい人に近づく」と、より効果があがります。

スローシンクロを設定する

遅いシャッタースピードで、ストロボを発光して撮影します。夜景や室内の照明を利用した撮影などで、背景だけが暗くなるのを軽減できます。

1 [◙(撮影)]メニューの[スローシンクロ]で[入]を選ぶ

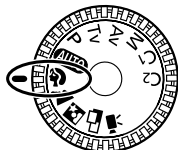
● ISO感度を上げてストロボ撮影する場合、被写体との距離が近いほど、白飛びしやすくなります。

● スローシンクロ設定時は、手ブレしやすいので、三脚をお使いになることをおすすめします。
● 撮影モードによっては設定できないこともあります。「各撮影モードで設定できる機能一覧」(p. 208)をご覧ください。
● ストロボの発光は、プリ発光とメイン発光の2回行われます。プリ発光(ストロボ撮影に必要な露出情報を得るための予備的な発光)で得た被写体の露出情報をもとにして、メイン発光(ストロボ撮影を行うための発光)に必要な発光量が決められ、最適な発光量でストロボ撮影が行われます。
● ストロボ同調最高シャッタースピードは1/250秒です。1/250秒よりも高速のシャッタースピードを設定した場合は、自動的に1/250秒に再設定され、撮影されます。

- 撮影メニューの[ストロボ自動調光]が[入]のときは、自動調光で発光します。**M**のとき、または[ストロボ自動調光]が[切]のときは、マニュアル発光します。
- 内蔵ストロボの充電には約１０秒かかる場合があります。充電時間は使用状況やバッテリーの残量などにより変わります。
- ストロボ充電中は撮影できません。
- ストロボ調光補正量、ストロボ発光量を変えられます。➔ p. １００
- **P**、**Tv**、**Av**、**M**の場合、設定したストロボモードは、カメラの電源を切っても解除されません。

ポートレートを撮る

背景をぼかして人物を浮き立たせたいときに使います。

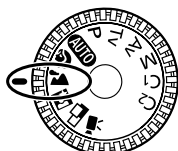
1

モードダイヤルを にする

- 撮影手順は、「AUTO オートで撮る(p. 52)」と同じです。

- 各撮影モードで設定できる機能一覧 ➔ p. 208
- 被写体の上半身が、ファインダーまたは液晶モニターいっぱいになるくらいにすると、背景を効果的にぼかすことができます。
- レンズを望遠側にすると、背景をさらにぼかすことができます。

風景を撮る

広がりのある風景を撮影するときに使います。

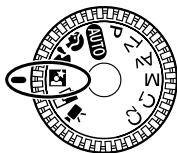
1

モードダイヤルを にする

- 撮影手順は、「AUTO オートで撮る(p. 52)」と同じです。

- 各撮影モードで設定できる機能一覧 ➔ p. 208
- ではシャッタースピードが遅くなりやすいので、液晶モニターに(手ブレ警告)が表示されたら、三脚を使用して撮影してください。

夜景を撮る

夕暮れや夜景をバックにした人物を撮影するときに使います。人物にはストロボ光があたり、背景は遅いシャッタースピードで、それぞれをきれいに撮影することができます。

1

モードダイヤルを にする

- 撮影手順は、「AUTO オートで撮る（p. 52）」と同じです。

- 手ブレを防ぐために必ず三脚をお使いください。

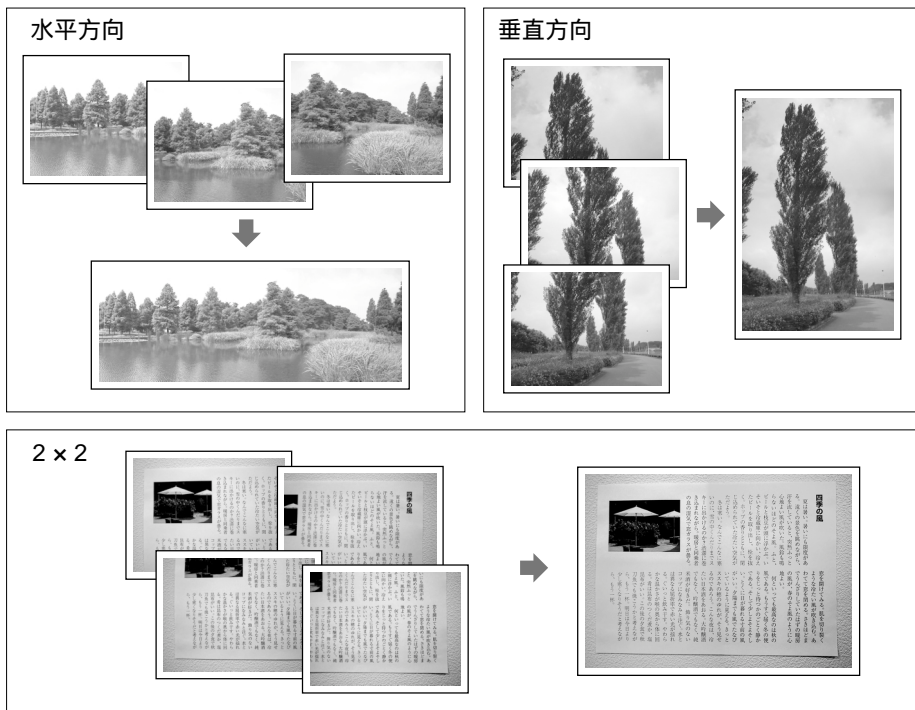
- 各撮影モードで設定できる機能一覧 ➔ p. 208
- シャッタースピードが遅いので、ストロボが発光してもすぐに動かないように、写される人に声をかけてください。
- で日中に撮影すると、AUTOと同じ撮影効果になります。
- のときは、自動的にスローシンクロ[入]になります。➔ p. 62

スティッチアシストで撮る

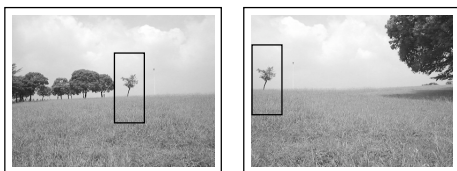
撮影した画像をパソコンで合成（スティッチ）し、パノラマ画像を作るときに使います。

水平方向

垂直方向

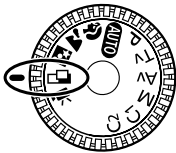
2×2

●パソコンでの画像合成には、同梱の「PhotoStitch」をお使いください。

被写体のとらえかた

PhotoStitchは、隣り合う画像の共通部分を見つけて合成処理を行います。共通部分には、できるだけ特徴のある被写体（目印となる被写体）を入れて撮影してください。

- 隣り合う画像の共通部分は、画像の幅の30〜50%になるように撮影します。また、上下のズレは、画像の高さの10%以内で撮影します。
- 共通部分には、動いている被写体などが入らないように注意してください。
- 遠くの被写体と近くの被写体が混在する画像をスティッチしないでください。物体がゆがんだり、二重に写ったりすることがあります。
- 撮影時の明るさはできるだけ揃えてください。画像の明るさが違いすぎると、不自然な画像になってしまうことがあります。
- 遠くの風景を撮るときは、カメラを中心に回転して撮影します。
- 至近距離では、カメラをスライド（カメラを被写体に対して平行移動）させます。

撮影する

スティッチアシストモードには、次の5つの撮影方向があります。

⊟	左から右方向へ水平に撮影します。
⊟	右から左方向へ水平に撮影します。
⊟	下から上へ垂直に撮影します。
⊟	上から下へ垂直に撮影します。
⊟	左上を基点に時計回りに撮影します。

1 液晶モニターを開き、モードダイヤルを にする

- 液晶モニターがつきます。

2 十字ボタンの◄►で撮影方向を選び、SETボタンを押す

- SETボタンの代わりに、シャッターボタンを押して撮影することもできます。

3 最初の画像を撮影する

- 1画像目の撮影で、露出やホワイトバランスがロックされます。

4 最初の画像に重ね合わせ、次の画像を撮影する

- 画像が重なる部分は、多少ずれても合成時に修正されます。
- 十字ボタンの◄ ► を押すと撮影済みの画像に戻り、撮影のやり直しができます。

のとき

のとき

5 同様の操作で3画像目以降を撮影する

- 水平/垂直方向の撮影では、最大26画像まで撮影できます。

6 最後の画像の撮影後、SETボタンを押す

- マニュアルホワイトバランス（p. 86）の場合、では基準となる白データの取り込みができません。あらかじめ他の撮影モードで白データを取り込んでおいてください。
- 2画像目以降の撮影では、最初の設定が保持されます。
- テレビと接続しても、液晶モニターの画像をテレビに表示して撮影することはできません。

- 各撮影モードで設定できる機能一覧 ➔ p. 208

動画を撮る

動画を撮影するときに使います。記録画素数は、[320(320×240(初期設定))]、または、[160(160×120)]を選べます。➔ p. 56

1

液晶モニターを開き、モードダイヤルを動画にする

- 液晶モニターがつき、記録可能時間(秒数)が表示されます。

2 シャッターボタンを全押しする

- 撮影が開始され、同時に音声も記録されます。
- 撮影中は、液晶モニター右上に赤丸が表示されます。

3 撮影を終了するときは、再度シャッターボタンを全押しする

- 1回の最長撮影時間(約15フレーム/秒)は、3分*です。これらの時間が経過するか、またはCFカードの容量がいっぱいになると、自動的に撮影が終了します。
  * 当社測定条件によるもので、被写体、撮影条件などにより変わります。

- 撮影中は、マイクに触れないようにしてください。
- AE、AF、ホワイトバランス、ズーム(画角)は、撮影を開始したとき(最初のフレーム)の設定値に固定されます。
- 撮影後、CFカードへの記録中はファインダー横のランプが緑色に点滅します。このときは撮影できません。

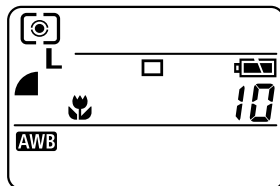
- 各撮影モードで設定できる機能一覧 ➔ p. 208
- 音声は、モノラルで録音されます。
- 動画撮影時は、シャッター音は鳴りません。
- 動画ファイル(ファイル形式:AVI、圧縮形式:Motion JPEG)をパソコンで再生するには、QuickTime 3.0以上が必要です。(同梱のDigital Camera Solution Diskには、Windows版のQuickTimeが収められています。なお、Mac OS 8.5以降には標準装備されています。)

至近距離で撮る

レンズ前面から被写体までの距離が5cm（ワイド端）/15cm（テレ端）〜50cmのときは、マクロモードで撮影します。

1 DISPLAYボタンを押して液晶モニターをつける

2 ボタンを押す

- 表示パネルと液晶モニターに、が表示されます。
- 再度ボタンを押すと、マクロモードを解除できます。

3 撮影する

- シャッターボタンを半押しすると、ファインダー横のランプが黄色に点灯します。
- 撮影手順は、「AUTO オートで撮る（p. 52）」と同じです。

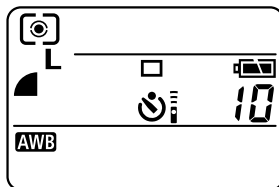
- マクロモードでストロボ撮影すると、画像の明るさが適切にならないことがあります。マクロモードでストロボ撮影するときは、NDフィルターを［入］にして、別売のマクロリングライト MR-14EXまたはマクロツインライト MT-24EXをお使いになることをおすすめします。撮影状況に応じ、AvまたはMで、絞りを絞って撮影してください。

- 撮影モードによっては設定できないこともあります。「各撮影モードで設定できる機能一覧」（p. 208）をご覧ください。
- マクロモードでは、必ず液晶モニターを使って撮影してください。ファインダーを使っても撮影できますが、その場合は撮影範囲がずれます。
- 被写体に最も近づいたときの撮影範囲は、ワイド端で約75×55mm、テレ端では約56×42mmとなり、ほぼ名刺サイズが画面いっぱいに撮影できます。また、マクロモード時にクローズアップレンズ 250D 58mm（p. 180）を使用した場合は、約37×28mm（テレ端時）の範囲を撮影できます。

セルフタイマーを使って撮る

セルフタイマーを使って撮影します。どの撮影モードでも使えます。

1 ボタンを押す

- 表示パネルにが表示されるまで/ボタンを押します。液晶モニターがついている場合、液晶モニターにも表示されます。
- 再度/ボタンを押すと、セルフタイマー撮影を解除できます。

2 撮影する

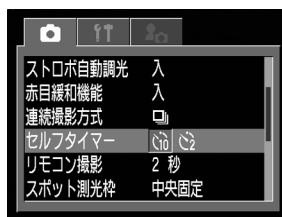
- [セルフタイマー]が[10秒]に設定されているときは、シャッターボタンを全押しすると、セルフタイマーランプが点滅します。撮影2秒前になるとセルフ音が鳴り、点滅が速くなります。
- [セルフタイマー]が[2秒]に設定されているときは、シャッターボタンを全押しすると、セルフタイマーランプが最初から速く点滅し、2秒後に撮影されます。
- 撮影手順は、「AUTO オートで撮る(p. 52)」と同じです。

- 撮影モードによっては設定できないこともあります。「各撮影モードで設定できる機能一覧」(p. 208)をご覧ください。
- セルフ音は、[(マイカメラ)]メニューの[セルフタイマー音]で変更できます。
➔ p.162

撮影までの秒数を設定する

シャッターボタンを押してから、撮影されるまでの秒数を10秒または2秒に設定できます。

1 [(撮影)]メニューから[セルフタイマー]を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 41

2 十字ボタンの◀▶で、[10秒]または[2秒]を選ぶ

3 SETボタンを押す

撮影ーカメラまかせの簡単撮影

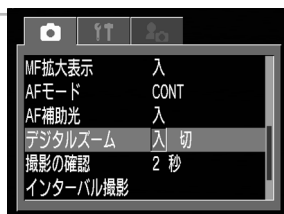
デジタルズームで撮る

光学ズームと組み合わせて、次の倍率（目安）に拡大できます。
5.1倍、6.5倍、8.1倍、10倍、12倍、16倍

1 DISPLAYボタンを押して、液晶モニターをつける

2 モードダイヤルを［ ］、［ ］以外の任意の位置にする

3 ［ （撮影）］メニューから［デジタルズーム］を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 41

4 ［入］を選び、MENUボタンを押す

5 ズームレバーを［ ］側に押す

- 最も望遠側（テレ端）まで拡大すると、いったん停止します。再度、ズームレバーを［ ］側に押すと、さらに拡大できます。
- ［ ］側に押すと、倍率が下がります。

光学ズームとデジタルズームを組み合わせた倍率を表示

6 撮影する

- 撮影手順は、「AUTO オートで撮る（p. 52）」と同じです。

- 液晶モニターが消えているとき、またはRAW形式のときは、デジタルズームは使えません。

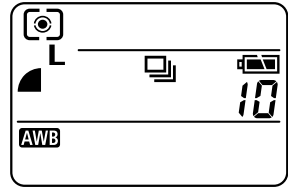
- 撮影モードによっては設定できないこともあります。「各撮影モードで設定できる機能一覧」（p. 208）をご覧ください。
- デジタルズームは、拡大するほど画質が粗くなります。

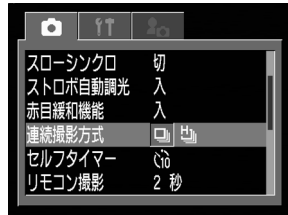
連続して撮る

シャッターボタンを全押ししている間、連続して撮影します。

	通常連続撮影	画像を確認しながら連続撮影したいときにおすすめします。ただし、シャッター間隔はより長くなります。
	高速連続撮影	早いシャッター間隔で連続撮影したいときにおすすめします。ただし、画像を確認しながら連続撮影できません。

1 / ボタンを押す

- 表示パネルにが表示されるまで/ボタンを押します。液晶モニターがついている場合、液晶モニターにも表示されます。
- 再度/ボタンを押すと、連続撮影を解除できます。

2 [（撮影）]メニューから[連続撮影方式]を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 41

3 []または[]を選び、SETボタンを押す

4 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせる

5 シャッターボタンを全押しして撮影する

- シャッターボタンを離すと撮影が終了します。
- 連続撮影速度は、次のようになります。
  []のとき･･･約1.5画像/秒*
  []のとき･･･約2.0画像/秒*
  * ラージ/ファイン、液晶モニター非表示時

（当社測定条件によるもので、被写体、撮影条件などにより変わります。）

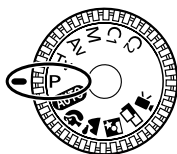
- 撮影モードによっては設定できないこともあります。「各撮影モードで設定できる機能一覧」（p. 208）をご覧ください。
- 内部メモリーがいっぱいになると、撮影間隔が多少遅くなることがあります。
- 内蔵ストロボは使用できますが、撮影のたびにストロボの充電時間がかかるため撮影間隔は長くなります。
- 外付けストロボを取り付けている場合、ストロボは発光しません
- 電源を切ると通常の撮影に戻りますが、連続撮影方式の設定は保持されます。次回、同じ連続撮影方式で撮影する場合は、手順2、3の操作は必要ありません。

シャッタースピード、絞り数値を選択するなど、カメラの設定を自由に変えて撮影できます。

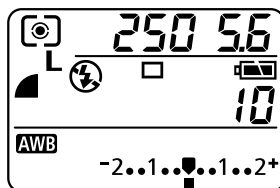
各撮影モードでどのような設定が変更できるかは、巻末の「各撮影モードで設定できる機能一覧(p. 208)」をご覧ください。

- 設定を変更した後の撮影の手順は、「AUTOオートで撮る(p. 52)」をご覧ください。

P プログラムAEで撮る

被写体の明るさに応じて、シャッタースピードと絞り数値をカメラが自動的に設定します。

1 モードダイヤルを P にする

2 撮影する

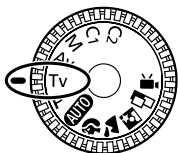
- シャッタースピードと絞り数値が自動的に決まり、表示パネルに表示されます。液晶モニターがついている場合、液晶モニターにも表示されます。
- 液晶モニター上のシャッタースピードと絞り数値が白字で表示されているときは、適正露出です。

- 各撮影モードで設定できる機能一覧 ➔ p. 208
- 適正露出が得られない場合、液晶モニター上のシャッタースピードと絞り数値が赤字で表示されます。次の方法で撮影すると、適正露出が得られ、白字で表示されることがあります。
  - ストロボを使用する
  - ISO感度を変更する
  - 測光方式を変更する

PとAUTOの違い

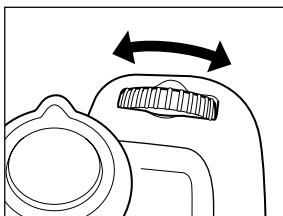
- **P**とAUTOは、自動的に決まるシャッタースピードと絞り数値の組み合わせは同じです。
- **P**では、次の機能を使用できますが、AUTOではできません。
  ・露出補正　・ホワイトバランス　・ISO感度の変更　・ブラケット撮影
  ・ストロボ調光補正
  ・内蔵ストロボ(常時発光、スローシンクロ、後幕発光)　・色効果
  ・連続撮影　・記録形式の変更　・測光方式の変更
  ・マニュアルフォーカス　・AF枠の変更
  ・AEロック　・FEロック　・NDフィルター

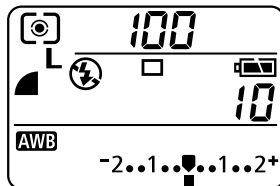
Tv シャッタースピードを決めて撮る

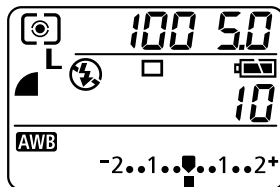
シャッタースピードを選ぶと、被写体の明るさに応じて、カメラが適正露出になる絞り数値を自動的に設定します。シャッタースピードを速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができ、シャッタースピードを遅くすると流動感を表現したり、暗いところでもストロボを発光せずに撮影できます。

1

モードダイヤルを Tv にする

● シャッタースピードが表示パネルに表示されます。液晶モニターがついている場合、液晶モニターにも表示されます。

2

電子ダイヤルをまわして、シャッタースピードを選ぶ

3

撮影する

● 液晶モニター上のシャッタースピードと絞り数値が白字で表示されているときは、適正露出です。

● 液晶モニター上の絞り数値が赤字で表示されたときは、露出アンダー（露出不足）または露出オーバー（露出過多）です。
白字で表示されるまで、電子ダイヤルでシャッタースピードを調節してください。
● シャッタースピードが遅くなると、CCDの特性により撮影した画像にノイズが増えますが、このカメラは、シャッタースピードが1.3秒より遅くなると、このノイズを除去する処理を行い、高画質が得られます（ただし、次の撮影までにしばらく時間がかかります）。

- 各撮影モードで設定できる機能一覧 ➔ p. 208
- シャッタースピードが遅くなると、手ブレしやすくなります。液晶モニターに (手ブレ警告)が表示されたら、三脚を使って撮影してください。
- ストロボ同調最高シャッタースピードは1/250秒です。1/250秒よりも高速のシャッタースピードを設定した場合は、自動的に1/250秒に再設定され、撮影されます。
- ズームによって絞り数値とシャッタースピードは次のように変わります。

	絞り数値	シャッタースピード(秒)
ワイド端	F2.0～3.5	～1/1250
	F4.0～8.0	～1/2000
テレ端	F3.0～5.0	～1/1250
	F5.6～8.0	～1/2000

シャッタースピードの表示

表示パネルに表示されるシャッタースピードの2000から4までは、分数の分母を表します。例えば、160は1/160秒を表します。また、0"3は0.3秒を、2"は2秒を表しています。

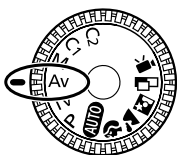
2000 1600 1250 1000 800 640 500 400 320 250
200 160 125 100 80 60 50 40 30 25 20 15
13 10 8 6 5 4
0"3 0"4 0"5 0"6 0"8 1" 1"3 1"6 2" 2"5 3"2 4"
5" 6" 8" 10" 13" 15"

表示パネルと液晶モニターでは、1/4～1/2000秒は、表示方法が異なります。

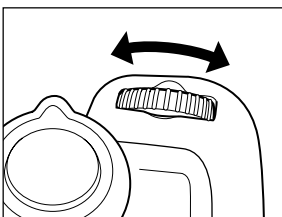
シャッタースピード	1/2000秒・・・ 1/4秒 ・・・ 0.8秒・・・15秒
表示パネル	2000 ・・・ 4 ・・・0"8・・・15"
液晶モニター	**1/2000 ・・・ 1/4 ・・・0"8・・・15"**

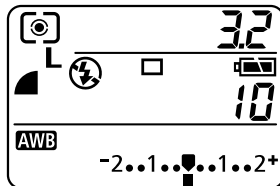
Av 絞りを決めて撮る

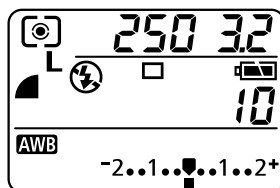
絞り数値を選ぶと、被写体の明るさに応じて、カメラが適正露出になるシャッタースピードを自動的に設定します。
絞り数値を小さくする（絞りを開く）と、背景をぼかした美しいポートレートが撮影できます。絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）と、奥行きのある風景の手前から遠くまでが鮮明に写ります。絞り数値を大きくするほど、鮮明に写る範囲が広くなります。

1

モードダイヤルを Av にする

- 絞り数値が表示パネルに表示されます。液晶モニターがついている場合、液晶モニターにも表示されます。

2

電子ダイヤルをまわして、絞り数値を選ぶ

3

撮影する

- 液晶モニター上のシャッタースピードと絞り数値が白字で表示されているときは、適正露出です。

- 液晶モニター上のシャッタースピードが赤字で表示されたときは、露出アンダー（露出不足）または露出オーバー（露出過多）です。
  白字で表示されるまで、電子ダイヤルで絞り数値を調節してください。
- ズーム位置によっては、選べない絞り数値があります。

- 各撮影モードで設定できる機能一覧 ➔ p. 208
- 絞り数値を大きくすると、シャッタースピードが遅くなり、手ブレしやすくなります。液晶モニターに（手ブレ警告）が表示されたら、三脚を使って撮影してください。
- ストロボ同調シャッタースピードは、1/60～1/250秒になります。従って、ストロボを発光して撮影する場合、あらかじめ絞り数値を設定していても、ストロボ同調シャッタースピードに応じて絞り数値が自動的に変更されることがあります。
- 絞り数値とシャッタースピードについて ➔ p. 77

絞り数値の表示

表示された数値が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。

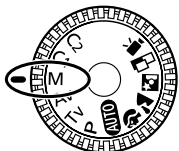
F2.0　F2.2　F2.5　F2.8　F3.0　F3.2　F3.5　F4.0　F4.5　F5.0
F5.6　F6.3　F7.1　F8.0

表示パネルと液晶モニターでは、表示方法が異なります。

絞り数値	F2.0 ・・・ F8.0
表示パネル	2.0 ・・・ 8.0
液晶モニター	**F2.0** ・・・ **F8.0**

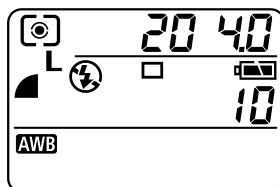
M 自由にシャッタースピード/絞りを決めて撮る

シャッタースピードや絞り数値を自分で決定し、狙い通りの撮影ができます。花火の撮影など露出の設定が難しいときに使うと便利です。

1

モードダイヤルを M にする

- シャッタースピードと絞り数値が表示パネルに表示されます。液晶モニターがついている場合、液晶モニターにも表示されます。

2 電子ダイヤルをクリックして、設定項目（シャッタースピードまたは絞り数値）を選ぶ

- 電子ダイヤルをクリックするたびに切り替わります。

3 電子ダイヤルをまわして、シャッタースピードまたは絞り数値を選ぶ

4 撮影する

- シャッターボタンを半押しすると、表示パネルには露出補正バーと指標が、液晶モニターには標準露出*からのずれが表示されます。このずれが±2 段を超えると、液晶モニターに赤字で「－2 」または「＋2 」と表示されます。

* 設定されている測光方式を元にAEを行って、標準露出を算出します。

赤字

- 各撮影モードで設定できる機能一覧 ➔ p. 208
- 絞り数値とシャッタースピードについて ➔ p. 77
- 露出を変更したい場合は、電子ダイヤルでシャッタースピード、絞り数値を変更してください。
- 液晶モニターは設定した絞り数値、シャッタースピードに応じた明るさで表示されます。速いシャッタースピードを設定した場合や、被写体が暗い場合、ストロボを（常時発光（赤目緩和））または（常時発光）にするか、外付けストロボを取り付けると、常に明るく表示されます。

AF枠を移動する

AF枠は、オートフォーカスでピントを合わせるための枠で、任意の位置に手動で設定できます（アクティブフレームコントロール）。狙った被写体に確実にピントを合わせたり、構図を楽しむのに便利です。
ただし、デジタルズームをお使いのときや、液晶モニターを消してファインダーを使って撮影するときは、AF枠を任意の位置にして設定しても、中央1点に固定されます。

1 DISPLAYボタンを押して液晶モニターをつける

2 ボタンを押す

- 液晶モニターにAF枠が緑色で表示されます。

3 十字ボタンの▲▼◀▶で、設定したい位置にAF枠を移動する

4 ボタンを押す

- ボタンの代わりに、シャッターボタンを押して、設定したAF枠で撮影することもできます。

5 撮影する

- 撮影モードによっては設定できないこともあります。「各撮影モードで設定できる機能一覧」（p. 208）をご覧ください。
- ボタンを押し続けると、AF枠は元の位置（中央）に戻ります。
- マクロモードでもAF枠を移動できます。
- 通常モードとマクロモードで、それぞれ別にAF枠を設定できます。
- マニュアルフォーカス（p. 106）中は、AF枠を移動できません。
- 測光方式が[スポット測光]のときは、AF枠をスポット測光枠と連動させることができます。➔ p. 82
- AF枠の色については、p. 38をご覧ください。

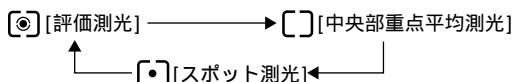
測光方式を切り換える

測光方式を切り換えて撮影できます。通常は[評価測光]に設定されています。

	評価測光		逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。画面内を多分割して測光します。被写体の位置、明るさ、背景、順光、逆光など複雑な光の要素をカメラが判断し、主被写体を常に適正な露出にします。
	中央部重点平均測光		画面中央部の被写体に重点を置きながら、画面全体を平均的に測光します。
	スポット測光	**中央固定**	液晶モニター中央部の「スポット測光枠」内を測光します。逆光などで被写体の周囲に強い光があるときに利用します。
		AF枠連動	AF枠に連動した「スポット測光枠」内を測光して撮影します。

1 DISPLAYボタンを押して液晶モニターをつける

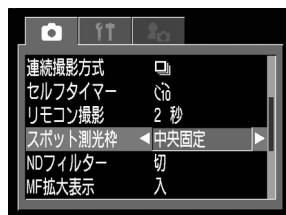
2 ボタンを押して、測光方式を切り換える

- ボタンを押すたびに次のように測光方式が切り換わります。

- 現在選ばれている測光方式が表示パネルに表示されます。液晶モニターがついている場合、液晶モニターにも表示されます。

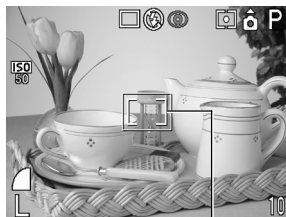
[スポット測光]を選ぶ→手順3

[評価測光][中央部重点平均]を選ぶ→手順5

3 [(撮影)]メニューから[スポット測光枠]を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 41

4 [中央固定]または[AF枠連動]を選び、MENUボタンを押す

画面例：[中央固定]　スポット測光枠

● [中央固定]のときは、液晶モニター中央にスポット測光枠が表示されます。[ＡＦ枠連動]のときは、常にＡＦ枠にスポット測光枠が表示されます。

5 撮影する

● 撮影モードによっては設定できないこともあります。「各撮影モードで設定できる機能一覧」(p. 208)をご覧ください。

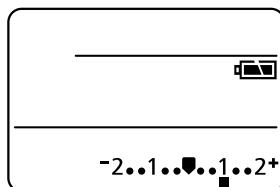
露出を補正する

逆光や背景が明るい場所での撮影で、被写体が暗くなってしまうようなときに露出を調整します。

1 (十字ボタンの▲)を押す

● 表示パネルに露出補正バーが表示されます。液晶モニターがついている場合、液晶モニターにも表示されます。

2 電子ダイヤル、または十字ボタンの◀▶で露出を調整する

● 補正量は、−2〜+2の範囲で1/3段ずつ変更できます。
● 設定したあとシャッターボタンを押せば、すぐに撮影できます。また、撮影後は再びこの画面が表示され、設定を変更できます。

3 電子ダイヤルをクリック、またはを押す

● 露出補正を解除するときは、電子ダイヤルまたは十字ボタンの◀▶で、補正量をに戻します。

4 撮影する

● 撮影モードによっては設定できないこともあります。「各撮影モードで設定できる機能一覧」(p. 208)をご覧ください。

WB ホワイトバランスを設定する

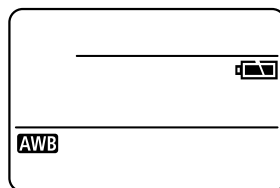
撮影時の光源に応じてホワイトバランスを設定すると、その光源に合った適正な色になります。

AWB	**オート**	カメラが自動的にホワイトバランスを設定します。
☀	**太陽光**	晴天の屋外で撮影するときに設定します。
☁	**くもり**	曇天や日陰、薄暮などで撮影するときに設定します。
	電球	電球、電球色タイプ(3波長型)の蛍光灯のもとで撮影するときに設定します。
	蛍光灯	昼白色蛍光灯、白色蛍光灯、昼白色タイプ(3波長型)の蛍光灯のもとで撮影するときに設定します。
	蛍光灯H	昼光色蛍光灯、昼光色タイプ(3波長型)の蛍光灯のもとで撮影するときに設定します。
/	**ストロボ**	ストロボを使って撮影するときに設定します。
1 / 1	**マニュアル1**	白紙などを使って、その撮影状況下で最適なホワイトバランスを設定します。マニュアル1、マニュアル2の2種類を設定できます。
2 / 2	**マニュアル2**	

1 WB(十字ボタンの▼)を押す

- 表示パネルにホワイトバランスモードが表示されます。液晶モニターがついている場合、ホワイトバランス設定メニューが表示されます。

2 電子ダイヤル、または十字ボタンの◄►で、設定したいホワイトバランスを選ぶ

- (マニュアル)について ➔ p. 86
- 設定したあとシャッターボタンを押せば、すぐに撮影できます。また、撮影後は再びこの画面が表示され、設定を変更できます。

3 電子ダイヤルをクリック、またはWBを押す

4 撮影する

- (セピア)、(白黒)では設定できません。

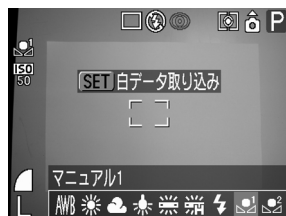
マニュアルホワイトバランスを設定する

白い紙や布など、白の基準としたいものをカメラに記憶させ、その撮影状況下で最適なホワイトバランスを設定できます。2種類の設定を記憶できます。特に、次のような場合、AWB（オート）ではホワイトバランスが調整できないことがありますので、（マニュアル1）または（マニュアル2）で白データを取り込んでから、撮影してください。

- **至近距離（マクロ）で撮影するとき**
- **単一な色の被写体（空、海、森など）を撮影するとき**
- **水銀灯などの特殊な光源で撮影するとき**

1 WB（十字ボタンの▼）を押す

- 表示パネルにホワイトバランスモードが、液晶モニターがついている場合、ホワイトバランス設定メニューが表示されます。

2 電子ダイヤル、または十字ボタンの◄►で、（マニュアル1）または（マニュアル2）を選ぶ

3 カメラを白い紙や布に向け、SETボタンを押す

- 液晶モニターの画面いっぱいに、またファインダーを使う場合は、ファインダーいっぱいに白い紙や布が表示されるよう構図を決めてから、SETボタンを押してください。SET ボタンを押すと、白データが取り込まれます。
- 設定したあとシャッターボタンを押せば、すぐに撮影できます。また、撮影後は再びこの画面が表示され、設定を変更できます。

4 電子ダイヤルをクリック、またはWBを押す

5 撮影する

- 撮影モードによっては設定できないこともあります。「各撮影モードで設定できる機能一覧」(p. 208)をご覧ください。
- 撮影モードを**P**にし、露出補正、ストロボ調光補正をともに±0にすることをおすすめします。適正露出でない場合(真っ黒や真っ白)は、白データを正しく取り込めないことがあります。
- 液晶モニターを使い、ズームをテレ端の位置にすることをおすすめします。このとき、デジタルズームは[切]にしてください。
- では、白データの取り込みはできませんので、あらかじめ、他の撮影モードで白データを取り込んでおいてください。
- 白データを取り込んだときと同じ条件で撮影してください。条件が異なると、最適なホワイトバランスが設定できないことがあります。特に以下の条件は変更しないでください。
  - ストロボ
    ストロボは、常時発光または発光禁止にしておくことをおすすめします。ストロボが赤目緩和オート/ オートに設定されているときに、マニュアルホワイトバランスを設定する場合、白データ取り込みの際にストロボが発光したときは、撮影時もストロボを発光させてください。
  - ISO感度
- 設定したマニュアルホワイトバランスは、設定リセットを行っても解除されません。➔ p. 166

色効果を切り換える

色効果を切り換えて撮影できます。

OFF / OFF	効果切	通常はこの設定で撮影します。
1 / V	くっきりカラー	コントラストと色の濃さを強調し、くっきりした色合いで撮影します。
2 / N	すっきりカラー	コントラストと色の濃さを抑え、すっきりとした色合いで撮影します。
3 / LS	ソフト	輪郭の強調を抑えて撮影します。
4 / S	セピア	セピア色で撮影します。
5 / BW	白黒	白黒で撮影します。
6 / C	カスタム	コントラスト、シャープネス、色の濃さを自由に設定できます。

1 DISPLAYボタンを押して液晶モニターをつける

- 液晶モニターをつけなくても変更できます。ただし、カスタムの内容は変更できません。

2 FUNC.ボタンを押す

3 十字ボタンの▲▼で、OFF*(液晶モニター) または OFF*(表示パネル)を選ぶ

* 現在の設定が表示されます。

- 液晶モニターに、色効果設定メニューが表示されます。

4 電子ダイヤル、または十字ボタンの◀▶で、設定したい色効果を選ぶ

を選んだとき

SETボタンを押すとコントラスト、シャープネス、色の濃さを設定する画面が表示されます。
この画面では、▲▼で設定したい項目を選び、◀▶で設定を変更します。

コントラスト

● −（弱め）、0（標準）、＋（強め）から選びます。
● 明るさの度合を調節できます。

シャープネス

● −（弱め）、0（標準）、＋（強め）から選びます。
● 輪郭のくっきり度合を調節できます。

色の濃さ

● −（薄い）、0（標準）、＋（濃い）から選びます。
● 色の濃淡を調節できます。

● 設定したあとシャッターボタンを押せば、すぐに撮影できます。また、撮影後は再びこの画面が表示され、設定を変更できます。

5 電子ダイヤルをクリックするか、FUNC.ボタンを押す

6 撮影する

● (セピア)、(白黒)を選んだときは、ホワイトバランスは設定できません。

● 撮影モードによっては設定できないこともあります。「各撮影モードで設定できる機能一覧」(p. 208)をご覧ください。

ISO ISO感度を変更する

撮影場所が暗いときやシャッタースピードを速くしたいときは、ISO感度を上げます。感度は、AUTO、50、100、200、400から選べます。

1 DISPLAYボタンを押して液晶モニターをつける

2 FUNC.ボタンを押す

3 十字ボタンの▲▼で、ISO AUTO*(液晶モニター)または ISO Auto*(表示パネル)を選ぶ

* 現在の設定が表示されます。

- 液晶モニターに、ISO感度設定メニューが表示されます。

4 電子ダイヤル、または十字ボタンの◀▶で、設定したい感度を選ぶ

- 設定したあとシャッターボタンを押せば、すぐに撮影できます。また、撮影後は再びこの画面が表示され、設定を変更できます。

5 電子ダイヤルをクリックするか、FUNC.ボタンを押す

6 撮影する

撮影ー目的に合わせた応用撮影

- ISO感度を上げすぎると、画像にノイズが増えます。きれいに撮りたいときは、なるべく低い感度を選んでください。
- AUTOを選択すると、最適な画質になる感度に設定されます。
  また、被写体を照らすストロボ発光量が十分でない場合は、自動的に感度が上がります。

- 撮影モードによっては設定できないこともあります。「各撮影モードで設定できる機能一覧」(p. 208)をご覧ください。

露出を自動的に変えて撮る（AEB撮影）

設定した露出補正量の幅に従って、カメラが自動的に露出を変えながら3画像撮影します。標準露出を中心に－2～＋2の範囲で1/3段ずつ補正量を設定できます。また露出補正（p. 84）をしている場合は、その設定値を中心に補正量を設定できます。標準露出、マイナス補正、プラス補正の順で撮影します。

1 DISPLAYボタンを押して液晶モニターをつける

- 液晶モニターをつけなくても設定できます。ただし、補正量は調整できません。

2 FUNC.ボタンを押す

3 十字ボタンの▲▼で、*（液晶モニター）またはBKT OFF*（表示パネル）を選ぶ

* 現在の設定が表示されます。

- 液晶モニターに、ブラケット設定メニューが表示されます。

4 電子ダイヤル、または十字ボタンの◀▶で、（液晶モニター）またはBKT AE-b（表示パネル）を選び、SETボタンを押す

- 液晶モニターがついていないときは、SET ボタンを押しても補正量は調整できません。FUNC.ボタンを押して操作を終了します。現在設定されている補正量でAEB操作できます。

5 電子ダイヤル、または十字ボタンの◀▶で、補正量を調整する

- ▶を押すと間隔が広くなり、◀を押すと狭くなります。
- SETボタンを押すと、手順4の画面に戻ります。
- 設定したあとシャッターボタンを押せば、すぐに撮影できます。また、撮影後は再びこの画面が表示され、設定を変更できます。

6 電子ダイヤルをクリックするか、FUNC.ボタンを押す

- AEB撮影を解除するときは、手順4で[アイコン]または[BKT] OFFを選びます。

7 撮影する

- ストロボ発光時は、AEB撮影はできません。ストロボを発光して撮影した場合は、通常の1画像撮影になります。

- 撮影モードによっては設定できないこともあります。「各撮影モードで設定できる機能一覧」（p. 208）をご覧ください。

フォーカスを自動的に変えて撮る（フォーカスブラケット撮影）

マニュアルフォーカス（p.106）のときに、フォーカスを自動的に変えながら3画像撮影します。変更量は、大・中・小の3段階から選択できます。設定したフォーカス位置、後ろ寄りに変更、前寄りに変更の順で撮影します。

1 DISPLAYボタンを押して液晶モニターをつける

- 液晶モニターをつけなくても設定できます。ただし、変更量は調整できません。

2 FUNC.ボタンを押す

3 十字ボタンの▲▼で、*（液晶モニター）またはBKT OFF*（表示パネル）を選ぶ

* 現在の設定が表示されます。

- 液晶モニターに、ブラケット設定メニューが表示されます。

4 電子ダイヤル、または十字ボタンの◀▶で、（液晶モニター）またはBKT FC-b（表示パネル）を選び、SETボタンを押す

- 液晶モニターがついていないときは、SET ボタンを押しても変更量は調整できません。FUNC. ボタンを押して操作を終了します。現在設定されている変更量でフォーカスブラケット撮影できます。

5 電子ダイヤル、または十字ボタンの◀▶で、変更量を選ぶ

- ▶を押すと間隔が広くなり、◀を押すと狭くなります。
- SETボタンを押すと手順4の画面に戻ります。
- 設定したあとシャッターボタンを押せば、すぐに撮影できます。また、撮影後は再びこの画面が表示され、設定を変更できます。

撮影―目的に合わせた応用撮影

6 電子ダイヤルをクリックするか、FUNC.ボタンを押す

7 マニュアルフォーカスで撮影する → p. 106

- ストロボ発光時は、フォーカスブラケット撮影はできません。ストロボを発光して撮影した場合は、通常の1画像撮影になります。

- 撮影モードによっては設定できないこともあります。「各撮影モードで設定できる機能一覧」（p. 208）をご覧ください。

✱ 露出を固定して撮る（AEロック）

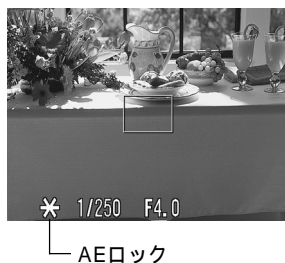
露出とピントを別々に決めて撮影することができます。被写体と背景のコントラストが極端に強いときや、逆光下での撮影などに有効です。

1 DISPLAYボタンを押して液晶モニターをつける

2 露出を固定したい被写体にAF枠またはスポット測光枠を合わせ、シャッターボタンを半押しする

- AF枠を移動する ➔ p. 81
- 測光方式を切り換える ➔ p. 82

3 シャッターボタンを半押ししたまま✱ボタンを押す

- 露出が固定（AEロック）され、液晶モニターに✱が表示されます。
- 電子ダイヤル以外のボタンやレバーを操作すると、AEロックを解除できます。

AEロック

4 構図を決め直して撮影する

- AF枠内の被写体にピントが合います。

撮影―目的に合わせた応用撮影

✳ 露出を固定して撮る（AEロック）（つづき）

● 液晶モニターが消えているときは、AEロックできません。

● 撮影モードによっては設定できないこともあります。「各撮影モードで設定できる機能一覧」（p. 208）をご覧ください。
● 自動的に設定されたシャッタースピードと絞り数値の組み合わせを、同じ露出のままで自由に変えて撮影することができます。次のように操作します。
  1. モードダイヤルを**P**、**Tv**、**Av**のいずれかにする
  2. **DISPLAY**ボタンを押して液晶モニターをつける
  3. 露出を固定したい被写体にピントを合わせる
     ・シャッターボタンを半押しします。
  4. ✳ボタンを押す
     露出が固定され、液晶モニターに✳が表示されます。
  5. 電子ダイヤルをまわして、希望するシャッタースピードまたは絞り数値になるまで変える
  6. 構図を決め直して撮影する
     撮影が終了し、設定は解除されます。

✱ FEロックして撮る

被写体が構図のどこにあっても、適正な露出でストロボ撮影できます。

1 DISPLAYボタンを押して液晶モニターをつける

2 ⚡ボタンを押してストロボを設定する → p. 61

- 外付けストロボをお使いの場合は、お使いのストロボの取扱説明書をご覧ください。

3 露出を固定したい被写体にAF枠またはスポット測光枠を合わせ、シャッターボタンを半押しする

4 シャッターボタンを半押ししたまま✱ボタンを押す

- 露出が固定（FEロック）され、液晶モニターに✱が表示されます。
- ストロボがプリ発光し、被写体に必要な露光量を記憶します。
- ✱ボタンを押すたびにプリ発光し、そのとき必要な露光量をFEロックします。
- 電子ダイヤル以外のボタンを押すと、FEロックを解除できます。

5 構図を決め直して撮影する

- FEロックは、内蔵ストロボ、スピードライトEXシリーズ、マクロリングライトおよびマクロツインライトを使用する場合のみ機能します。
- [ストロボ自動調光]が[切]のときは、FEロックできません。
- 撮影モードによっては設定できないこともあります。「各撮影モードで設定できる機能一覧」(p. 208)をご覧ください。

ストロボの自動調光設定を切り換える

内蔵ストロボと外付けストロボ*は自動調光で発光されます（Mを除く）が、自動調光しないように設定することもできます。

*** スピードライト 220EX/380EX/420EX/550EX、マクロリングライト MR-14EX 、マクロツインライト MT-24EX**

1 [（撮影）]メニューから[ストロボ自動調光]を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 41

2 [入]または[切]を選び、MENUボタンを押す

ストロボ調光量を補正する（ストロボ調光補正）

[ストロボ自動調光]が[入]のときは、ストロボ調光量を変更できます。標準調光を中心に－2～＋2の範囲で、1/3段ずつ変更できます。カメラの露出補正と併用することにより、背景の露出も補正したストロボ撮影ができます。

1 DISPLAYボタンを押して液晶モニターをつける

2 FUNC.ボタンを押す

3 十字ボタンの▲▼でを選ぶ

4 電子ダイヤル、または十字ボタンの◀▶で補正量を調整する

- 設定したあとシャッターボタンを押せば、すぐに撮影できます。また、撮影後は再びこの画面が表示され、設定を変更できます。

5 電子ダイヤルをクリックするか、FUNC.ボタンを押す

- 調光補正を解除するときは、電子ダイヤルまたは十字ボタンの◀▶で、補正量を0に戻します。

6 撮影する

ストロボ発光量を補正する

Mモードまたは、[ストロボ自動調光]が[切]のときは、ストロボの発光量をフル発光から3段階で制御して撮影できます。また、プリ発光しないので、複数のストロボをいろいろな方向から被写体に同時にあてるスレーブストロボの撮影のときなどに有効です。外付けストロボ装着時は、外付けストロボの発光量を制御（フル発光から1/16まで、1/3段ずつ）できます。

1 DISPLAYボタンを押して液晶モニターをつける

2 FUNC.ボタンを押す

3 十字ボタンの▲▼で を選ぶ

4 電子ダイヤル、または十字ボタンの◀▶で発光量を調整する

- 設定したあとシャッターボタンを押せば、すぐに撮影できます。また、撮影後は再びこの画面が表示され、設定を変更できます。

内蔵ストロボ発光量設定画面

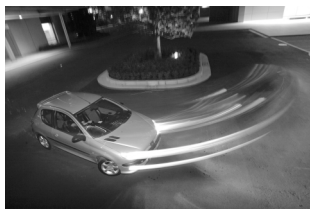
5 電子ダイヤルをクリックするか、FUNC.ボタンを押す

6 撮影する

- 撮影モードによっては設定できないこともあります。「各撮影モードで設定できる機能一覧」（p. 208）をご覧ください。

撮影―目的に合わせた応用撮影

ストロボの発光するタイミングを切り換える

先幕	シャッター速度に関わらず、シャッターが開いた直後にストロボが発光します。通常は、こちらで撮影します。
後幕	シャッターが閉じる直前にストロボが光ります。先幕発光に比べてストロボが発光するタイミングを遅くすることで、車のテールランプが後方に流れるような画像を撮影できます。

先幕設定で撮影した画像

後幕設定で撮影した画像

1 [(撮影)]メニューの[ストロボ発光]で[先幕]または[後幕]を選ぶ

● 撮影モードによっては設定できないこともあります。「各撮影モードで設定できる機能一覧」(p. 208)をご覧ください。

間隔をあけて自動的に撮影する（インターバル撮影）

一定の間隔で自動的に撮影できます。これにより、開花する植物の観測などの定点観測ができます。設定できる撮影間隔は約1分〜約60分、撮影画像数は2〜100画像です。

- 長時間、連続しての使用になるので、コンパクトパワーアダプター CA-560の利用をおすすめします。➔ p. 21

1 [(撮影)]メニューから[インターバル撮影]を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 41

2 十字ボタンの◀▶で撮影間隔を選ぶ

- 十字ボタンを押し続けると、撮影間隔が5 分単位で増えます。

3 十字ボタンの▼を押す

4 十字ボタンの◀▶で撮影枚数を選ぶ

- 十字ボタンを押し続けると、撮影枚数が5 枚単位で増えます。
- CFカードの残り容量によって、そのときの最大撮影枚数*が決まります。

* 実際に撮影した画像によっては、少なくなる場合もあります。

5 SETボタンを押す

- 液晶モニターにInt.、表示パネルに Int が表示されます。

シャッターボタンを押す

- 1枚目が撮影されインターバル撮影が始まります。
- 設定した枚数の撮影が終わると、節電機能の設定にかかわらず、電源が自動的に切れます。
- インターバル撮影の途中で、以下の操作を行うと、インターバル撮影が中止されます。
  - 次の撮影を行うまでの待機状態のときに、モードダイヤルを変更する
  - 次の撮影を行うまでの待機状態のときに、シャッターボタンを半押しする
  - CFカードスロットカバーやバッテリーカバーを開く
  - 再生モードにする
  - 電源を切る

- インターバル撮影が始まってからのボタン操作は受け付けません。モードダイヤルを変更すると、インターバル撮影が中止されます。
- 次の撮影までの間、レンズは繰り出されたままとなりますので、ご注意ください。
- 撮影直後、液晶モニターに撮影画像は表示されません。
- 日付/時刻が設定されていないときは、インターバル撮影はできません。
- 連続撮影（通常、高速）、セルフタイマー撮影はできません。
- AEB、フォーカスブラケットの設定はできません。
- カメラにバッテリーを入れて、コンパクトパワーアダプター CA-560を接続しても、バッテリーは充電されません。

- 撮影モードによっては設定できないこともあります。「各撮影モードで設定できる機能一覧」（p. 208）をご覧ください。

ピントが合いにくい被写体を撮る

次のような被写体は、ピントが合わないことがあります。
- **コントラストが極端に低い被写体**
- **近いものと遠いものが混在する被写体**
- **画像中央部が極端に明るい被写体**
- **高速で移動する被写体**

これらの被写体を撮影する場合は、その被写体とほぼ同じ距離にある別の被写体でフォーカスロック撮影するか、マニュアルフォーカスで撮影してください。

フォーカスロックで撮る

フォーカスロック撮影・方法1

1 ピントを合わせたい被写体と同じ撮影距離にある異なる被写体を、ファインダー中央、またはAF枠が選択されている場合は、そのAF枠に合わせる

2 シャッターボタンを半押しし、ピントを合わせる

- このときAEもロックされます。撮影したい被写体と、その被写体と同じ距離にあるフォーカスロックに用いた被写体との輝度の差が大きいと、適正露出が得られない場合があります。この場合は、方法2で撮影するか、またはAEロックで撮影してください。

3 そのままカメラの向きを変えて構図を決め、シャッターボタンを全押しして撮影する

フォーカスロック撮影・方法2

1 DISPLAYボタンを押して液晶モニターをつける

2 シャッターボタンを半押しし、ピントを合わせ、そのままMFボタンを押す

- 液晶モニターにMFが表示されます。
- シャッターボタン、MFボタンを離しても、フォーカスは固定されています。
- 再度MFボタンを押すと、フォーカスロックは解除されます。

3 カメラの向きを変えて構図を決め、シャッターボタンを全押しして撮影する

● AUTOのときはフォーカスロックできません。

● 方法2は、シャッターボタンを離して構図を決められるので便利です。
● ガラス越しの被写体は、できるだけガラスに近寄り、反射による写り込みのない状態で撮影してください。

マニュアルフォーカスで撮る

手動でピントを合わせて撮影します。

1 DISPLAYボタンを押して液晶モニターをつける

2 MFボタンを押す

● ▶MFとMFインジケーターが表示されます。

MFインジケーター

3 電子ダイヤルをまわして、ピントを合わせる

● [📷(撮影)]メニューの[MF拡大表示]が[入]のとき、AF枠範囲が拡大表示*されます。
  * 、、デジタルズーム、テレビに表示しているときは、拡大表示されません。
  * 拡大表示しない設定にもできます。➔ p. 157
● MFインジケーターはピント位置の目安です。表示される数値を目安に撮影してください。
● 液晶モニター内の被写体がはっきり見えるまで、電子ダイヤルをまわしてピントを合わせてください。
● **Tv**、**Av**、**M**のとき、電子ダイヤルをクリックするたびに、シャッター速度、絞り数値、マニュアルフォーカスの選択を切り換えられます。選択できる項目の左に▶(緑色)が表示されます。
● 再度MFボタンを押すと、マニュアルフォーカスは解除されます。

4 撮影する

- シャッターボタンを半押しすると、ファインダー横のランプが黄色に点灯します。

マニュアルフォーカスとAFを組み合わせて使う

手動で合わせた現在のフォーカス位置から、最もピントの合う位置が自動的に探し出されます。

1 マニュアルフォーカスでピントを合わせる

2 SETボタンを押す

- 現在のピント位置の近くから、最もピントの合う位置にピントが自動的に設定されます。

- マニュアルフォーカス中はAF枠の変更はできません。AF枠を変更するときは、一度マニュアルフォーカスを解除してください。

- 撮影モードによっては設定できないこともあります。「各撮影モードで設定できる機能一覧」(p. 208)をご覧ください。
- マニュアルフォーカス時は、マクロモードの撮影距離[5cm(ワイド端)/15cm(テレ端)〜50cm]もフォーカスできます。MFインジケーターの単位は細かくなります。
- MFインジケーターの表示単位を変更できます。➔ p. 162

フォーカス設定を切り換えて撮る

AFの設定を選択します。

CONT（コンティニュアス）	シャッターボタンを押さなくても、カメラを向けた位置へ常にピントを合わせます。とっさのシャッターチャンスを逃さずに撮影できます。初期状態は、こちらが選択されています。
SINGLE（シングル）	シャッターボタンを半押ししたときだけ、ピントを合わせます。通常はピント合わせを行わないため、消費電力を抑えることができます。

1 [（撮影）]メニューから、[AFモード]を選ぶ

● メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 41

2 [CONT]または[SINGLE]を選び、MENUボタンを押す

3 撮影する

● 液晶モニターが非表示の場合は、SINGLE（シングル）に固定されます。

C1 C2 カスタム登録する

よく使う撮影モードや撮影時のさまざまな設定を、あらかじめC（カスタム）モードに登録しておくことができます。このカメラは「C1」「C2」2 つのモードが用意されており、2種類のカスタム登録ができます。必要なとき、モードダイヤルをC1またはC2に合わせるだけで、事前に登録した設定内容で撮影できます。他の撮影モードに切り換えたり、電源を切ると解除されてしまう設定（マクロやドライブモードなど）も保持されます。

C1/C2 に登録できる設定

- 撮影モード（P、Tv、Av、M）
- 撮影メニューの設定
- マニュアルフォーカス位置
- P、Tv、Av、Mモードで設定可能な項目 ➔ p. 208
- ズーム位置

1 モードダイヤルをP、Tv、Av、M、C1、C2のいずれかにする

2 登録したい内容を設定する

3 [（撮影）]メニューから[カスタム登録]を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 41

4 [C1]または[C2]を選び、SETボタンを押す

- 登録先のカスタムモード（C1またはC2）を選びます。

5 MENUボタンを押す

- **C1**/**C2**に登録した設定の一部（撮影モード以外）を変更し、再度登録し直すときは、手順1で**C1**/**C2**を選びます。
- 設定内容は、他の撮影モードには反映されません。
- 登録内容をリセットできます。➔ p. 166

NDフィルターを使う

NDフィルターを[入]にすると、光量を減少させることができます。これにより、通常よりもシャッター速度を遅くしたり、絞り値を小さくしたりできるようになります。

1 DISPLAYボタンを押して液晶モニターをつける

2 [◎(撮影)]メニューから[NDフィルター]を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 41

3 [入]を選び、MENUボタンを押す

- 表示パネルにNDが表示されます。液晶モニターがついている場合、液晶モニターにもNDが表示されます。

- 手ブレを防ぐために必ず三脚をお使いください。

- 撮影モードによっては設定できないこともあります。「各撮影モードで設定できる機能一覧」(p. 208)をご覧ください。
- NDフィルターを[入]にすると、通常の約1/8の光量に減少します。例えば、適正な絞り値が5.6の場合、[入]にすると2になります。

縦横自動回転の設定をする

このカメラにはSIセンサーが装備されており、縦位置で撮影した画像は、再生時に正しい縦位置に回転して表示されます。この機能の入/切を設定できます。

1 [(設定)]メニューから[縦横自動回転]を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 41

2 [入]を選び、MENUボタンを押す

- [入]に設定すると、液晶モニター表示（情報表示あり）のとき、画面右上にカメラの向きを示すアイコンが表示されます。

	通常
	右が下
	左が下

- カメラを真上や真下に向けて撮影すると、正しく機能しない場合があります。アイコン()を確認し、正しく天地を判断しない場合は、[切]にしてお使いください。
- 縦横自動回転の設定が[入]のときに縦位置で撮影した画像をパソコンに取り込む場合、取り込みに使用するソフトウェアによっては、回転結果が反映されないことがあります。

- このカメラは、SIセンサーにより、縦位置で構えて撮影する場合、上側を「天」、下側を「地」と判断し、縦位置に最適な露出、ホワイトバランス制御を行います。この機能は、縦横自動回転の入/切に関係なく有効です。
- カメラの縦・横の向きを変えると、その向きを検出する機構により、音がすることがありますが、故障ではありません。

ファイル番号をリセットする

ファイル番号の設定方法を選択します。

入	新しいCFカードを入れるたびに、ファイル番号が初期値（100-0001）に戻ります。記録済みのCFカードを入れたときは、続きの番号になります。
切	最後に撮影した画像のファイル番号が記憶され、新しいCFカードを入れても続きのファイル番号になります。

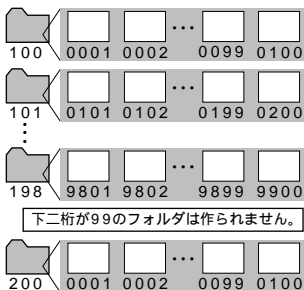
1 [(設定)]メニューから[番号リセット機能]を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 41

2 [入]または[切]を選び、MENUボタンを押す

- 番号リセット機能を[切]にして撮影すると、ファイル番号が重複しないため、パソコンでまとめて管理するような場合に便利です。

ファイル番号およびフォルダ番号について

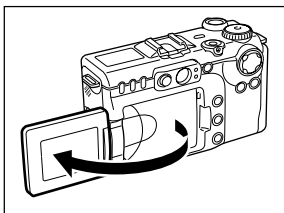
撮影した画像には、0001〜9900までのファイル番号が割り振られ、各フォルダには、100〜998までの番号が割り振られます。(下2桁が99のフォルダは作られません。)

ファイル数について

ひとつのフォルダに100画像ずつ保存されます。

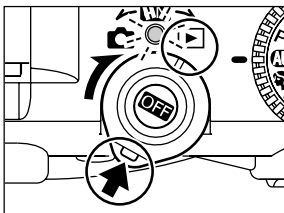
なお、連続撮影やステッチアシストモードで撮影した画像は、必ずひとつのフォルダに保存されるため、フォルダ内に101画像以上保存されることがあります。また、他のカメラで撮影したり、パソコンから画像をコピーすると、ひとつのフォルダ内に101画像以上を保存できますが、2001以上の画像が保存されているフォルダ内の画像は、このカメラで再生できませんのでご注意下さい。

1画像ずつ見る（シングル再生）

撮影した画像を液晶モニターに表示します。

1

液晶モニターを開く

- 液晶モニターの向きは、自由に調整できます。
  ➔ p. 31

2

モードレバーを▶側にまわす

- 最後に撮影した画像が表示されます。（シングル再生）
- 表示パネルには、Pbが表示されます。

3

十字ボタンの◀▶を押す、または電子ダイヤルをまわして、表示画像を切り換える

- ◀で前の画像、▶で次の画像が表示されます。ボタンを押し続けると早く進みます。ただし、表示される画像は粗くなります。
- 電子ダイヤルを左にまわすと前の画像、右にまわすと次の画像が表示されます。
- JUMP ボタンを押したあと、十字ボタンの◀▶を押すか電子ダイヤルをまわすと、前または次の10個目の画像が表示されます。もう一度、JUMPボタンを押すと、シングル再生の画面に戻ります。

- DISPLAYボタンを押すと、表示されている画像の情報が表示されます。➔ p. 32
- 🗑ボタンを押すと、表示されている画像を簡単に消去できます。➔ p. 127

拡大して見る

シングル再生時、表示している画像を最大約10倍に拡大表示します。

1 モードレバーを▶側にまわす

2 ズームレバーを側に押す

表示位置の目安

- 十字ボタンの◀▶ または▲▼で表示位置を変更できます。
- SETボタンを押しながらズームレバーを側に押すと、画像が約2.5倍➔約5倍➔約10倍の順に拡大表示されます。

拡大表示を解除する

1 ズームレバーを側に押す

- ボタンを押すと、すぐに拡大表示が解除されます。

- 動画、インデックス再生時は拡大表示できません。

- 撮影直後に液晶モニターに表示される画像も、拡大して見ることができます。
➔ p. 54

9画像ずつまとめて見る(インデックス再生)

撮影した画像を、9画像ずつまとめて表示します。

1 モードレバーを▶側にまわす

2 ボタンを押す

- 9画像ずつまとめて表示されます。(インデックス再生)
- ズームレバーを🔍側に1回押しても同じ表示になります。

3 電子ダイヤルをまわす、または十字ボタンの▲▼◀▶を押して、選択画像を切り換える

4 ボタンを押す

- インデックス再生を終了し、シングル再生に戻ります。
- ズームレバーを🔍側に1回押しても同じ表示になります。

- DISPLAYボタンを押すと、選択されている画像の情報が表示されます。➔ p. 32

再生・消去

JUMP 9画像ずつ表示を切り換える

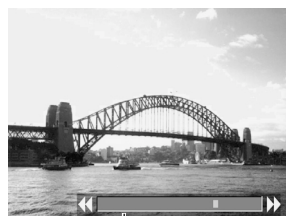
シングル再生またはインデックス再生時、画像をジャンプして表示します。

1 シングル再生時(p. 113)またはインデックス再生時(p. 115)に、JUMPボタンを押す

- ジャンプバーが表示されます。

2 画像を切り換える

シングル再生のとき

- 電子ダイヤルをまわすか、十字ボタンの◀ ▶ を押して、前または次の10画像目を表示します。

ジャンプバー

インデックス再生のとき

- 電子ダイヤルをまわすか、十字ボタンの◀ ▶ を押して、前または次の9画像を表示します。

ジャンプバー

3 JUMPボタンを押す

- ジャンプバーが消え、シングル再生、またはインデックス再生に戻ります。

動画を見る

🎥で撮影した動画を再生します。

1 モードレバーを▶側にまわす

- インデックス再生のときは、動画は再生されません。

2 電子ダイヤルをまわす、または十字ボタンの◀▶を押して、動画を選び、SETボタンを押す

- SET 🎥が表示されている画像が動画です。
- 動画再生パネルが表示されます。

3 十字ボタンの◀▶で▶(再生)を選び、SETボタンを押す

音量

- 動画と音声が再生されます。
- 十字ボタンの▲▼で音量を調節できます。
- 再生が終了すると、最後のフレームが表示されたままで停止します。その状態で**SET**ボタンを押すと、動画再生パネルが表示されます。再度**SET**ボタンを押すと、最初のフレームから再生されます。

再生の一時停止/再開

- **SET**ボタンを押すと再生を一時停止します。再度**SET**ボタンを押すと、再生を続けます。

画像送り/戻し

- 十字ボタンの◀▶で次のいずれかの操作を選び、**SET**ボタンを押します。
  - ↩：シングル再生に戻る
  - ⏮：最初のフレームを表示
  - ◀II：フレーム戻し(**SET**ボタンを押し続けると巻き戻ります)
  - II▶：フレーム送り(**SET**ボタンを押し続けると早送りします)
  - ⏭：最後のフレームを表示

- パソコンで動画を再生するとき、パソコンの性能によっては、画像がフレーム落ちしたり、音声が途切れることがあります。

- 再生モード時、設定メニューでも、動画の再生音量を調節できます。→ p. 161
- テレビで動画を再生するときの音量は、テレビで調節してください。

動画を編集する

撮影した動画の前部、後部の不要な部分を削除できます。

1 編集したい動画を選び、SETボタンを押す

- 動画を見る ➔ p. 117

2 十字ボタンの◀▶で✂（編集）を選び、SETボタンを押す

- 動画編集パネルと、動画編集バーが表示されます。

3 十字ボタンの▲▼で編集方法を選ぶ

[前部削除アイコン]：動画の前部を削除
[後部削除アイコン]：動画の後部を削除
[戻るアイコン]：動画編集を中止し、動画再生パネルに戻る

4 十字ボタンの◀▶で編集位置を選ぶ

5 十字ボタンの▲▼で▶（再生）を選び、SETボタンを押す

- 仮編集された動画が再生されます。
- 再生中にSETボタンを押すと、再生が停止します。

6 十字ボタンの▲▼で[保存アイコン](保存)を選び、SETボタンを押す

- [戻るアイコン]を選ぶと、編集内容を保存せずに動画再生パネルに戻ります。

7 十字ボタンの◀▶で[上書き保存]または[新規保存]を選び、SETボタンを押す

- [上書き保存]：編集前の画像と同じファイル名で保存されます。編集前のデータは残りません。
- [新規保存]：編集した画像に新しいファイル名をつけて保存されます。編集前のデータは残ります。
- CFカードの空き容量が足りないときは、上書き保存しかできません。このとき、動画編集バーのカウンターに▲が表示されます。

- プロテクトされている動画は編集できません。
- 編集した動画を保存するとき、約3分かかることがあります。途中でバッテリーがなくなると、編集した動画が保存できないことがありますので、動画を編集するときはフル充電のバッテリーあるいはコンパクトアダプター CA-560の利用をおすすめします。➔ p. 21

- 編集前の長さが2秒以上の動画を編集できます。
- 編集した動画の最少時間は1秒です。

回転して表示する

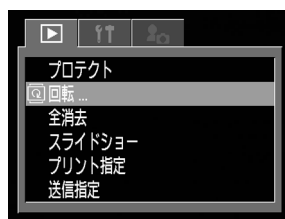
時計方向に９０度、２７０度に回転して表示します。

元画像

９０度

２７０度

1 [▶(再生)]メニューから[回転]を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 41

2 電子ダイヤルをまわす、または十字ボタンの◀▶を押して、回転したい画像を選び、SETボタンを押す

- SETボタンを押すたびに、９０度→２７０度→元画像が表示されます。

3 MENUボタンを押す

- メニュー画面表示に戻ります。もう一度MENUボタンを押すと、メニュー画面が消えます。

- 動画は回転表示できません。
- カメラで回転した画像をパソコンに取り込む場合、取り込みに使用するソフトウェアによっては回転結果が反映されないことがあります。

- 画像を回転したあとで、拡大することもできます。➔ p. 114
- 縦横自動回転の設定（p. １１１）が[入]のとき、縦位置で撮影した画像をカメラの液晶モニターに表示すると、画像は自動的に縦位置に回転して表示されます。

音声メモを付ける

再生中(シングル再生、インデックス再生、拡大再生、撮影直後の画像表示中)に、再生中の画像に最長60秒の音声メモを付けることができます。音声データはWAVE形式で保存されます。

1 画像再生中に、🎤ボタンを押す

- AVパネルが表示されます。

2 十字ボタンの◀▶で ● を選び、SETボタンを押す

- 録音が始まり、録音時間が表示されます。カメラのマイクに向かって音声を発してください。
- 停止するときはSETボタンを押します。引き続き録音をするときは、もう一度SETボタンを押します。
- 一画像につき、合計が60秒に達するまで何度でも録音を追加することができます。
- 音声メモ設定を終了するには、🎤ボタンを押します。

音声メモを再生するには

上記手順2で、▶ を選びます。音声メモの付いた画像には ♪ が表示されています。(画像情報表示ありのとき)

停止するときは SETボタンを押します。引き続き再生するときは、もう一度SETボタンを押します。十字ボタンの▲▼で、音量を調節できます。

音声メモを消去するには

上記手順2で、🗑 を選びます。

- 動画には音声メモを付けられません。
- 画像に互換性のない音声ファイルが添付されている場合、録音、再生はできません。録音、再生をしようとすると、「互換性のないＷＡＶＥです」のメッセージが表示されます。なお、不明な音声データはこのカメラで削除できます。
- プロテクトされている画像の音声メモは消去できません。➔ p. 126

- 設定メニューでも、音声メモの音量を調節できます。➔ p. 161

画像を自動再生する（スライドショー）

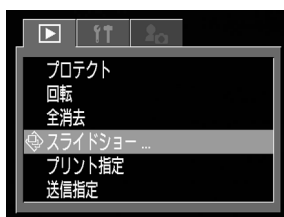
スライドショーの画像指定はDPOF(Digital Print Order Format)に準拠しています。
➔ p. 132

スライドショーを始める

CFカード内の全画像または選択した画像を自動再生します。

全画像	CFカード内のすべての画像を順に再生します。
ショー1～ショー3	各ショーでマークされている画像を順に再生します。

1 [▶(再生)]メニューから[スライドショー]を選んでSETボタンを押す

- メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 41

2 十字ボタンの▲ ▼ で[スライド]を選び、◀ ▶ で[全画像]、[ショー1]～[ショー3]のいずれかを選ぶ

3 十字ボタンの▲▼で[スタート]を選び、SETボタンを押す

- スライドショーが開始され、再生後、自動的にスライドショーが終了します。

スライドショーの一時停止/再開

- SETボタンを押すと自動再生を一時停止します。再度SETボタンを押すと、再生を続けます。

画像送り/戻し

- 十字ボタンの◀▶を押すか、メイン電子ダイヤルをまわすと、前または次の画像へ進めます。

スライドショーの中止

- 再生中にMENUボタンを押すとスライドショーが中止され、スライドショーメニューが表示されます。

4 スライドショーが終了したら、MENUボタンを押す

- メニュー画面表示に戻ります。もう一度MENUボタンを押すと、メニュー画面が消えます。

- 動画は、設定した再生間隔にかかわらず、記録した時間で再生されます。
- スライドショーで自動再生中は、節電機能は働きません。➔ p. 29

再生する画像を選ぶ

スライドショーで再生したい画像だけをマークし、[ショー1]から[ショー3]に保存します。最大998画像まで指定でき、選択した順番に自動再生されます。

1 スライドショーメニューを表示する ➔ p. 122

2 十字ボタンの▲ で[スライド]を選び、◄ ► で[ショー1]〜[ショー3]のいずれかを選ぶ

- すでに画像指定されているショーには、チェックマーク(✓)が付いています。

3 十字ボタンの▼と◄►で[画像指定]を選んでから、SETボタンを押す

4 再生する画像を選ぶ

シングル再生のとき

- 電子ダイヤルまたは十字ボタンの◄ ► で画像を選びます。▲▼で選択、選択の解除ができます。
- 選択した画像の上部には、選択順の番号とチェックマーク(✓)が表示されます。

インデックス再生のとき

- ▦ボタンを押してインデックス再生（3 画像表示）に切り換えます。
- 電子ダイヤルまたは十字ボタンの◀ ▶ で画像を選びます。▲▼で選択、選択の解除ができます。
- 選択した画像の下部には、選択順の番号とチェックマーク（✓）が表示されます。
- **SET** ボタンを押したあと、十字ボタンの▲ ▼ で［全画像指定］を選び、再度**SET**ボタンを押すと、すべての画像が指定できます。（［全指定解除］を選ぶと、すべての指定を解除できます。）
- ［全画像指定］または［全指定解除］を行ったあと、十字ボタンの◀ ▶ または電子ダイヤルで特定の画像を選び、▲▼で設定変更できます。

5 MENUボタンを押す

- 画像指定が終了します。

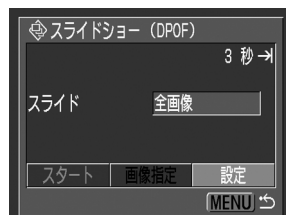
再生間隔やリピート設定をする

再生間隔やリピート設定をします。

再生間隔	スライドショーで1画像を表示する時間を指定します。3〜10秒、15秒、30秒、手動を指定できます。
リピート	スライドショーが一巡したら終了するか、繰り返し再生するかを設定します。

1 スライドショーメニューを表示する

2 十字ボタンの◀▶で［設定］を選び、SETボタンを押す

3 十字ボタンの▲▼で［再生間隔］または［リピート］を選ぶ

4 十字ボタンの◀▶で設定する

再生間隔

● 再生時間を選びます。

リピート設定

● [入]または[切]を選びます。

5 MENUボタンを押す

● 設定が終了します。

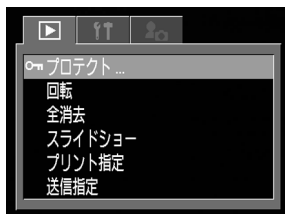
再生・消去

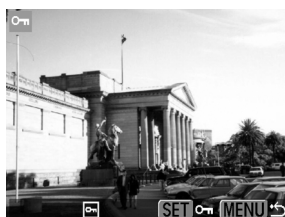
● 画像によっては、設定した時間と多少異なる再生間隔で再生されることがあります。
● 同梱されているソフトウェアを使用すると、スライドショーの編集が簡単に行えます。

画像をプロテクトする

大切な画像を誤って消去しないように、プロテクトを設定できます。

1 [▶(再生)]メニューから[プロテクト]を選び、SETボタンを押す

- メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 41

2 電子ダイヤルをまわす、または十字ボタンの◀▶を押して、プロテクトしたい画像を選び、SETボタンを押す

- プロテクトを設定した画像には、O╖が表示されます。
- プロテクトを設定した画像でSETボタンを押すと、プロテクトを解除します。
- ▦ ボタンでシングル再生とインデックス再生を切り換えて指定できます。

3 MENUボタンを押す

- 設定が終了します。

- CFカードを初期化(p.129)すると、プロテクトした画像も消去されますので、CFカードを初期化するときはCFカード上の記録内容を十分に確認してから行ってください。

1画像ずつ消去する

- 消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。

1 再生モードにする ➔ p. 30

2 電子ダイヤルをまわす、または十字ボタンの◀▶を押して、消去したい画像を選び、🗑ボタンを押す

3 十字ボタンの◀▶で[消去]を選び、SETボタンを押す

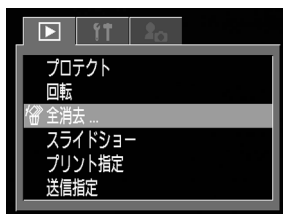
- 消去を取り消すときは、[キャンセル]を選び、SETボタンを押します。

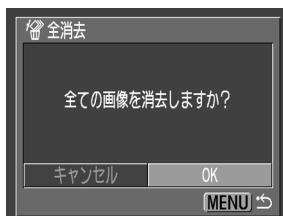
- プロテクトされている画像は消去できません。➔ p. 126

全画像を消去する

● 消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。

1 [▶(再生)]メニューから[全消去]を選び、SETボタンを押す

● メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 41

2 十字ボタンの◀▶で[OK]を選び、SETボタンを押す

● 消去を取り消すときは、[キャンセル]を選び、SETボタンを押します。

● プロテクトされている画像は消去できません。➔ p. 126

CFカードを初期化する

新しいＣＦカードをお使いになるときや、ＣＦカード内の画像だけでなく、他のデータもすべて削除したいときは、CFカードを初期化します。CFカードにエラーがあり、表示パネルに「CF」と表示されたときにＣＦカードを初期化すると、再びお使いいただけることがあります。

● CFカードを初期化すると、CFカードの記録内容はすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、あらかじめ記録内容を十分に確認してから行ってください。

1 [(設定)] メニューから[カードの初期化]を選び、SETボタンを押す

● メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 41

2 十字ボタンの◄►で[OK]を選び、SETボタンを押す

● 初期化を取り消すときは、[キャンセル]を選び、SETボタンを押します。

● 初期化するとき、お使いのCFカードのラベルに記載された容量よりも少ない数値が表示されますが、CFカード、またはカメラの故障ではありません。

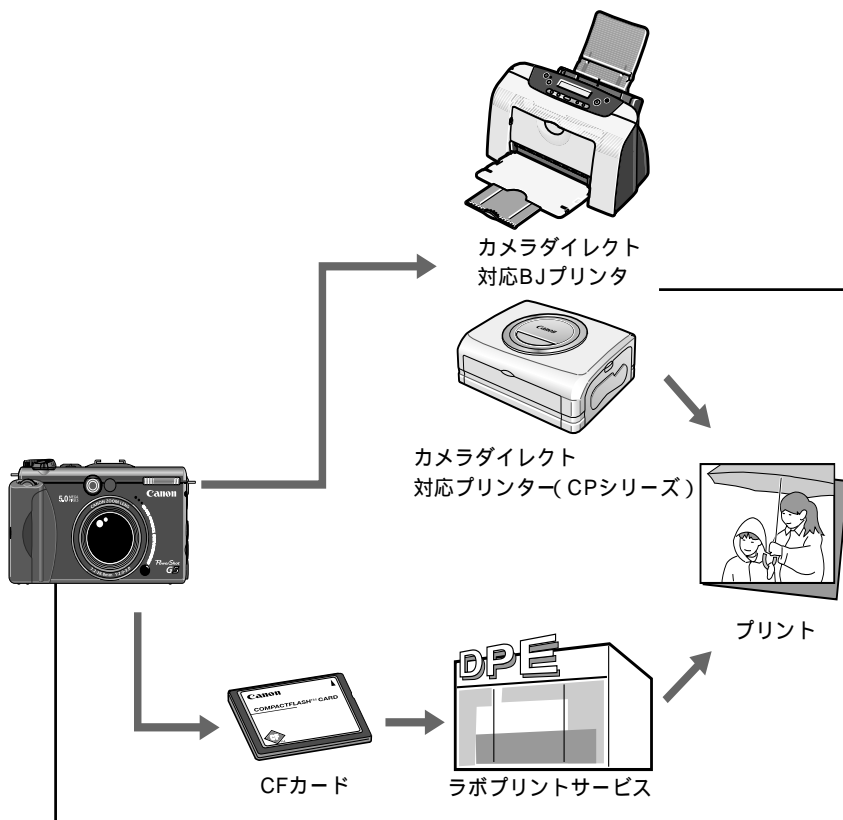
● カメラが正しく動作しないときは、CFカードが壊れている可能性があります。初期化すると正しく動作する場合もあります。

● キヤノン製以外のCFカードで正しく動作しないときは、初期化することでお使いになれることがあります。

● 他のカメラやパソコン、周辺機器で初期化したCFカードを使用すると、正しく動作しない場合があります。その際は、このカメラで初期化してください。正しく初期化されないときは、電源を切ってから、CFカードを入れ直し、再度初期化してください。

プリントについて

このカメラをカメラダイレクト対応プリンター（CPシリーズ、別売）*1、またはカメラダイレクト対応BJプリンタ（別売）とケーブルで直接つないで、CFカード内の画像をカメラのボタン操作だけで簡単にプリントできます（ダイレクトプリント）。また、あらかじめカメラでプリントする画像や枚数などを設定（DPOF*2プリント設定）しておけば、CFカードをラボプリントサービスにお持ちいただくだけで、指定どおりにプリントされるので、大変便利です。

*1カメラダイレクト対応のCPプリンターには、ダイレクトプリントマークが付いています。
*2Digital Print Order Formatの略

このカメラで使えるカメラダイレクト対応プリンター（CPシリーズ）については、システムマップでご確認ください（また、このカメラで使えるカメラダイレクト対応BJプリンタについては、カメラユーザーガイド裏表紙に記載されているホームページやBJプリンタ総合カタログでご確認いただくか、キヤノン販売お客様ご相談センターにお問い合わせください）。

ダイレクトプリント時のプリント設定

- プリント枚数を決める → p. 138

- プリントスタイルを決める → p. 138
  - 1画面/分割画面（カメラダイレクト対応プリンター（CPシリーズ））
  - ペーパー　L判、2L判、はがき、A4、カード
（カメラダイレクト対応BJプリンタ）
  - フチ　あり/なし
  - 日付　入/切

- プリント領域を選ぶ（トリミング） → p. 141

DPOFプリント指定

- プリントしたい画像を選ぶ → p. 143

- プリント枚数を決める → p. 144

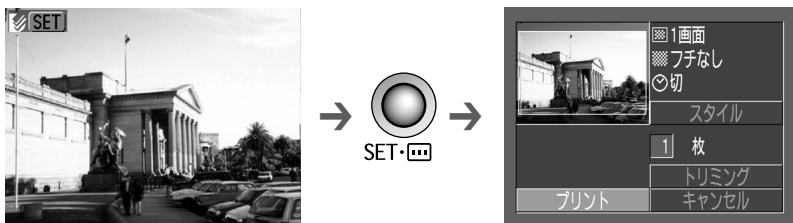
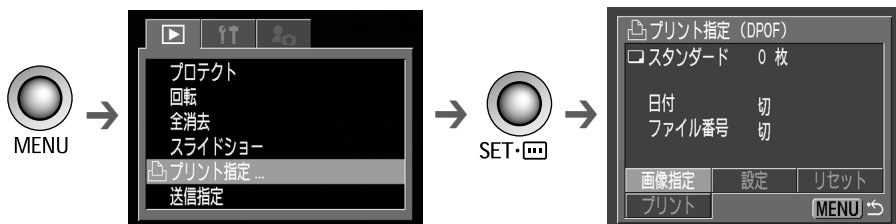
- プリントスタイルを決める → p. 145
  - スタンダード/インデックス
  - 日付　入/切
  - ファイル番号

DPOF送信指定

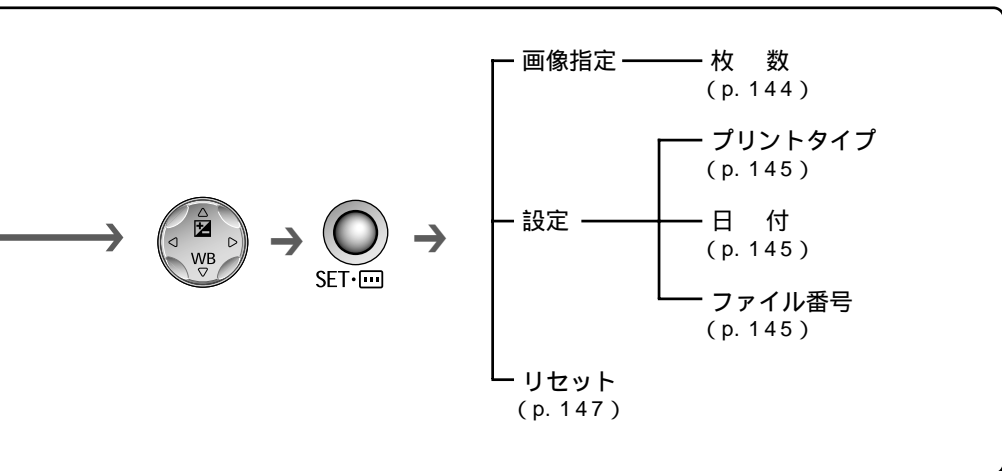
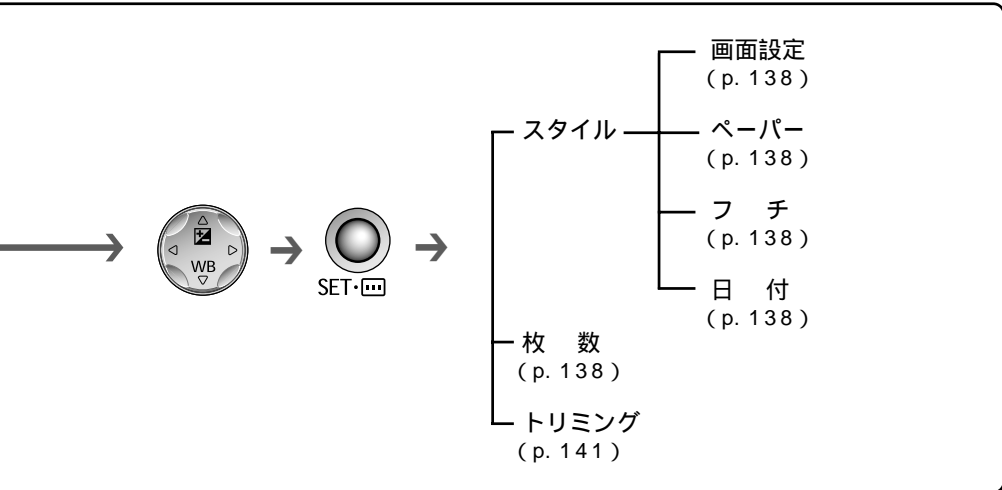
- パソコンに取り込む画像を決める → p. 150

プリントメニューの選択と設定のしかた

プリント関連の設定は、プリントメニューを使って操作します。
プリントメニューを使った操作は、下図のように行います。なお、あらかじめ、カメラとプリンターを接続しておいてください。

ダイレクトプリントの場合

DPOF設定の場合

：メニューの表示／非表示を切り換えます。

：項目、設定内容を選びます。

：項目、設定内容を確定します。

プリンターを接続する

カメラダイレクト対応プリンター（CPシリーズ、別売）、またはカメラダイレクト対応BJプリンタ（別売）とカメラを接続すると、簡単な操作で、きれいに、しかも素早くプリントできます。また、DPOFのプリント設定でプリントできます。

- カメラをプリンターに接続する場合、カメラの電源には、コンパクトパワーアダプター CA-560をお使いになることをおすすめします。バッテリーをお使いになるときは、フル充電されたバッテリーをお使いください。プリントする際は、バッテリーの残量にご注意ください。

- このカメラでお使いになれるカメラダイレクト対応プリンター（CPシリーズ）は、システムマップ（別紙）をご覧ください。
- ペーパーやインクカセットの取り付け方は、使用説明書（プリンターに同梱）をご覧ください。

カメラダイレクト対応プリンター（CPシリーズ）に接続する

カメラに同梱されているケーブル（IFC-300PCU）をお使いください。

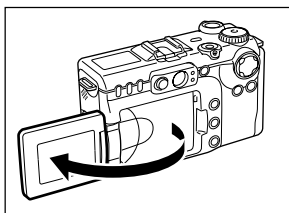
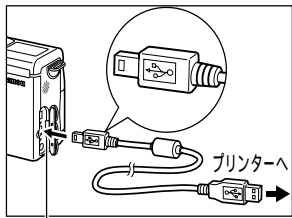
- CP-100/CP-10 をお使いの場合
  CP-100/CP-10 に同梱されているダイレクトインターフェースケーブルをお使いください。ケーブルは2本同梱されていますが、このカメラと接続するときは、コネクターに「⭠」マークがついているケーブル（DIF-100）をお使いください。

1 **カメラの電源を切る** **→ p. 27**

2 **プリンターに電源ケーブルを接続し、電源プラグをコンセントに差し込むか、プリンター用の充電式バッテリーを取り付ける**

- 充電式バッテリーがお使いになれるかどうかは、プリンターによって異なります。プリンターに同梱されているユーザーガイドもお読みください。

3 **液晶モニターを開く**

4

接続ケーブル*で、プリンターとカメラを接続する

- ケーブルを差し込むときは、「⇠」マークがカメラの前面になるように差し込んでください。

* 接続ケーブル
カメラに同梱のインターフェースケーブルIFC-300PCU
• CP-100/CP-10 をお使いの場合
プリンターに同梱のダイレクトインターフェースケーブル DIF-100

5

プリンターのメインスイッチを押して電源を入れる

- プリンターが正しく接続されていると、カメラの電源が入り、カメラの液晶モニターにが表示され、パワー/モードランプが緑色に点灯します。
- メインスイッチのないプリンターをお使いのときは、手順2 でプリンターに電源ケーブルを接続した時点でプリンターの電源が入ります。

BJプリンタに接続する

- お使いのBJプリンタがカメラダイレクトに対応しているかどうか、また接続ケーブルやBJプリンタ全般に関することは、BJプリンタに同梱されている使用説明書も合わせてご覧ください。

1

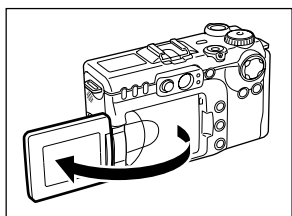
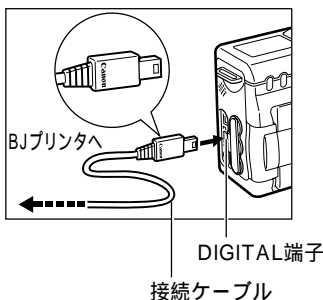
カメラの電源を切る → p. 27

2

BJプリンタに電源ケーブルを接続し、電源プラグをコンセントに差し込んだあと、BJプリンタの電源を入れる

3

液晶モニターを開く

プリント・送信

4

接続ケーブルでカメラとBJプリンタを接続する

● 接続ケーブルを差し込むときは、「Canon」がカメラの背面になるように差し込んでください。

● ＢＪプリンタが正しく接続されていると、カメラの液晶モニターに が表示され、パワー/ モードランプが緑色に点灯します。

● カメラのDIGITAL端子からケーブルを取り外すときは、必ずコネクターの側面を持って引いてください。

● 操作パネルのあるＢＪプリンタをお使いのとき、カメラと接続した場合、ＢＪプリンタの操作パネルからのプリントはできません。
● プリンターを接続しているときは、次の操作ができません。
  • 動画再生
  • **SET**ボタン+ **JUMP**ボタンを使った言語の設定
● プリンターとの接続を解除すると、液晶モニター左上の 、または が消え、通常の再生モードになります。
● カメラとプリンターのケーブルを取り外すときは、次の手順で操作してください。
  1. プリンター側のケーブルを取り外す
  2. カメラの電源を切る
  3. カメラ側のケーブルを取り外す

プリントする

＊以下の説明では、カメラダイレクト対応プリンター（CPシリーズ）接続時の画面例を使用しています。BJプリンタ接続時は［スタイル］の一部が異なります。

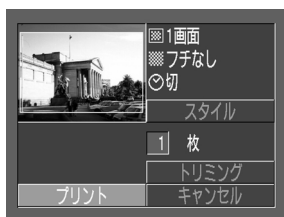
シングル再生またはインデックス再生中の画像をプリントします。

1 電子ダイヤルをまわす、または十字ボタンの◀▶を押して、プリントしたい画像を表示し、SETボタンを押す

2 必要に応じてプリント枚数、プリントスタイル、トリミングの指定をする

- プリント枚数を指定する ➔ p. 138
- プリントスタイルを指定する ➔ p. 138
- トリミング（画像の一部分をプリント）を指定する ➔ p. 141

3 十字ボタンの▲▼または◀▶で[プリント]を選び、SETボタンを押す

- JUMPボタンでも[プリント]を選べます。
- プリントが開始され、プリントが正常に終了すると再生画面に戻ります。

- 記録形式がRAWの画像や、動画はプリントできません。

プリントを中止するとき

- プリント中にSETボタンを押します。確認の画面が表示されるので、十字ボタンの◀▶で[OK]を選び、SETボタンを押します。
  - カメラダイレクト対応プリンター（CPシリーズ）
    プリント中の画像のプリントは中止できません。次のプリントから中止され、再生画像に戻ります。
  - BJプリンタ
    プリントが中断され、プリント中のペーパーは排紙されます。

エラーが発生したとき

- プリント中、何らかのエラーが発生したときは、エラー画面が表示されます（p.169、171）。十字ボタンの◀▶で[中止]または[再開]を選び、SETボタンを押します。（BJプリンタの場合、エラー内容を解決すると、自動的にプリントを再開します。）
  - カメラダイレクト対応プリンター（CPシリーズ）
    エラーの内容によっては、[再開]が表示されないこともあります。その場合は、[中止]を選びます。
  - BJプリンタ
    - エラーの内容によっては[続行]と[中止]が表示されます。
    - 操作パネルがあるＢＪプリンタでは、ＢＪプリンタの操作パネルに、エラー番号が表示されます。エラー番号に対応した対処方法については、ＢＪプリンタの使用説明書をご覧ください。

プリントの設定をする（ダイレクトプリント時）

プリント枚数を設定する

1 **再生画面でSETボタンを押し、十字ボタンの▲▼で[枚]を選ぶ**

2 **十字ボタンの◀▶で枚数を指定する**

- 1～99まで指定できます。

プリントスタイルを設定する

次のスタイルを設定できます。

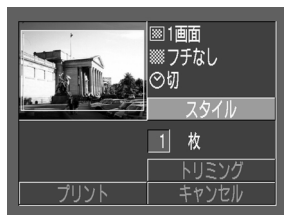
カメラダイレクト対応プリンター（CPシリーズ）

画面設定	1画面	ペーパー1枚に1画像をプリントします。
	分割画面*	ペーパー1枚に同一の画像を8画面プリントします。
フチ	フチなし	ペーパーいっぱいにプリントします。
	フチあり	フチを付けてプリントします。
日付		日付を入れてプリントします。

*カードサイズのペーパーにプリントするときのみ設定できます。

BJプリンタ

ペーパー		ペーパーサイズを、L判、2L判、はがきサイズ、A4サイズ、カードサイズから選べます。使用できるペーパーについては、BJプリンタの使用説明書をご覧ください。
フチ	フチなし	ペーパーいっぱいにプリントします。
	フチあり	フチを付けてプリントします。
日付		日付を入れてプリントします。

1 プリント指定画面で、十字ボタンの▲▼で[スタイル]を選び、SETボタンを押す

2 十字ボタンの▲▼で[画面設定](あるいは[ペーパー])、[フチ]、[日付]のいずれかを選ぶ

3 十字ボタンの◀▶で設定する

画面設定
(カメラダイレクト対応プリンター(CP シリーズ))

[1 画面]または[分割画面]を選びます。

ペーパー
(BJ プリンタ)

[L 判]、[2L 判]、[はがき]、[A4] または [カード] を選びます。

フチ

[フチなし]または[フチあり]を選びます。

日付

[入]または[切]を選びます。

4 MENUボタンを押し、設定を終了する

- ［フチなし］や［分割画面］を選ぶと、撮影した画像の上下左右がカットされてプリントされます。トリミング設定をしていないときは、プリント領域枠が表示されるので、カットされる部分が確認できます。

プリント領域枠

- カメラダイレクト対応プリンター（ＣＰシリーズ）をお使いの場合、［分割画面］で日付とフチは設定されません。（日付［切］、［フチなし］でプリントされます。）
- ［フチあり］を選ぶと、撮影した（液晶モニターに表示される）画像とほとんど同じ領域がプリントされます。

プリント領域を設定する（トリミング）

プリントする領域を指定できます。

トリミングする前に
プリントスタイル（画面設定、ペーパー、フチ、日付など）を指定してください。
➔ p. 138

1 再生画面でSETボタンを押し、十字ボタンの▲▼で[トリミング]を選び、SETボタンを押す

- トリミング枠が画面中央に表示されます。すでにトリミングが設定されている画像の場合は、設定されたトリミング枠が表示されます。

2 トリミングする

トリミング枠の大きさを変更する

- ズームレバーを🔍＋側または🔍－側に押します。
- トリミング枠は、最小で表示画面のほぼ半分、最大で表示画面とほぼ同じ大きさまで変更できます。
- トリミング枠が最大のとき、さらにズームレバーを🔍－側に押すと、トリミングは解除されます。
- トリミングで画像を拡大プリントする場合、拡大率によっては、プリントの画質が粗くなります。このとき、カメラダイレクト対応プリンターをお使いの場合、トリミング枠が赤くなります。

トリミング枠の位置を指定する

- 十字ボタンの▲▼または◀▶でトリミング枠を移動します。

トリミング枠を回転する

- DISPLAYボタンを押すと、トリミング枠を回転し、縦横を変更できます。

トリミング枠を解除する

- MENUボタンを押すか、トリミング枠が最大のとき、さらにズームレバーを🔍－側に押すと、トリミングは解除されます。

3 SETボタンを押し、設定を終了する

トリミング枠

- トリミングは1画像にのみ設定できます。
- トリミング設定は、以下の操作を行うと解除されます。
  - 他の画像にトリミング設定をする
  - プリントモードを終了する(カメラの電源を切る、モードを変更する、接続ケーブルを取り外す)
  - トリミング枠を最大よりも大きくする

- トリミングの枠の形状は、画面設定、ペーパー、フチの設定で決まります。
- トリミングはカメラの液晶モニターで確認しながら行ってください。テレビを使用すると、トリミング枠を正しく表示できないことがあります。

DPOFのプリント指定

CFカードに記録されている画像の中から、プリントする画像や枚数をあらかじめカメラで指定できます。カメラダイレクト対応プリンター（CPシリーズ）や、カメラダイレクト対応のBJプリンタに一括でプリントするときや、ラボプリントサービスに注文するときに大変便利です。

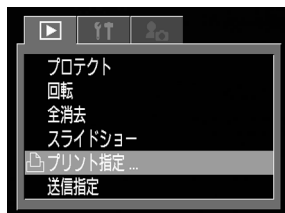
- DPOF対応の他のカメラでプリント指定されたCFカードの場合、⚠が表示されます。このカメラでそれらのプリント指定を変更すると、設定済みのプリント指定は、すべて書き換えられます。
- プリンターまたはラボプリントサービスによっては、指定内容が反映されないことがあります。
- 動画、記録形式がRAWの画像は、プリント指定できません。

プリントする画像を選ぶ

1 [▶（再生）]メニューから[プリント指定]を選んでSETボタンを押す

- メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 41

2 十字ボタンの◀▶で[画像指定]を選び、SETボタンを押す

プリント・送信

3 プリントする画像を選ぶ

1画像ずつ指定するとき

- プリントタイプ(p. 145)が[スタンダード]/[両方]の場合、電子ダイヤルまたは十字ボタンの◀▶で画像を選びます。十字ボタンの▲▼で、プリント枚数が指定できます(最大99枚まで)。

- プリントタイプ(p. 145)が[インデックス]の場合、電子ダイヤルまたは十字ボタンの◀▶で画像を選び、▲▼で、指定、指定解除を行います。指定したときは、チェックマークが表示されます。
- ボタンを押してインデックス再生(3画像表示)に切り換えても、同じ方法で指定できます。

CFカード内のすべての画像を指定するとき

- ボタンを押してインデックス再生(3画像表示)に切り換えます。
- SETボタンを押した後で、十字ボタンの▲▼で[全画像指定]を選び、再度SETボタンを押すと、すべての画像に対して1枚ずつプリント指定されます。
- プリントタイプが[スタンダード]/[両方]の場合、各画像のプリント枚数を変更できます。[インデックス]の場合は、プリント指定の解除ができます。変更方法は、手順3のはじめからもう一度ご覧ください。
- [全指定解除]を選ぶと、すべての指定を解除できます。

4 MENUボタンを押す

- プリント指定が終了し、[プリント指定]メニューに戻ります。

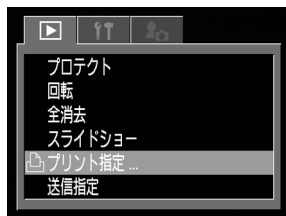
- 撮影日時の古い画像から順にプリントされます。
- 最大998画像まで指定できます。
- [プリントタイプ]が[両方]の場合、プリント枚数は指定できますが、[インデックス]の場合は指定できません。[インデックス]では1枚のみプリントされます。
- 同梱されているソフトウェアでもプリント指定ができます。

プリントスタイルを設定する

必ずプリントしたい画像を選んでから、プリントスタイルを指定してください。
次のプリントスタイルを設定できます。

プリントタイプ	スタンダード	ペーパー1枚に1画像をプリントします。
	インデックス	インデックス形式で画像を縮小してプリントします。
	両方	スタンダードとインデックスの両方をプリントします。
日付		日付を入れてプリントします。
ファイル番号		ファイル番号を入れてプリントします。

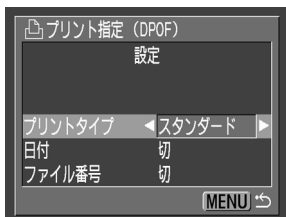
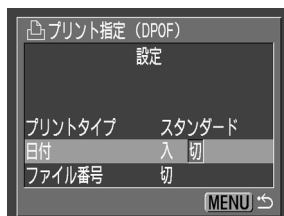
1 [(再生)]メニューから[プリント指定]を選んでSETボタンを押す

- メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 41

2 十字ボタンの◀▶で[設定]を選び、SETボタンを押す

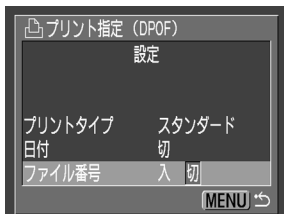
3 十字ボタンの▲▼で[プリントタイプ]、[日付]、[ファイル番号]のいずれかを選ぶ

4 十字ボタンの◀▶で設定する

プリントタイプ

- ［スタンダード］、［インデックス］、［両方］のいずれかを選びます。

日付

● [入]または[切]を選びます。

ファイル番号

● [入]または[切]を選びます。

5 MENUボタンを押す

● 設定が終了し、プリント指定メニューに戻ります。

● [プリントタイプ]が[インデックス]の場合、[日付]と[ファイル番号]を同時に[入]に設定することはできません。

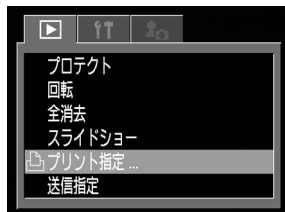
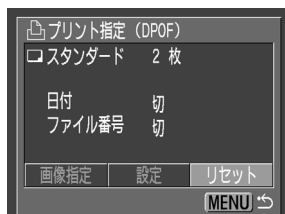
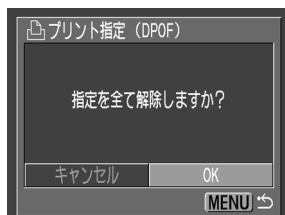
● [プリントタイプ]が[両方]の場合、[日付]と[ファイル番号]を同時に[入]に設定できますが、インデックスプリントには、[ファイル番号]のみプリントされます。

● 日付は、[日付/時刻]で設定した日付スタイルでプリントされます。➔ p. 24

プリントの設定をリセットする

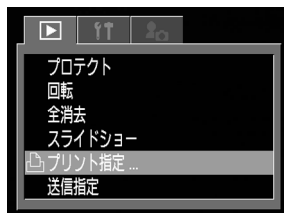
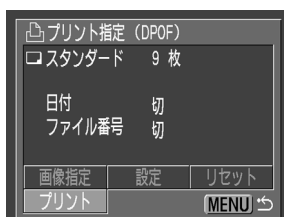
プリント指定された画像をすべて解除し、プリントタイプを［スタンダード］、日付を［切］、ファイル番号を［切］に戻します。

1 ［▶（再生）］メニューから［プリント指定］を選んでSETボタンを押す

- メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 41

2 十字ボタンの◀▶で［リセット］を選び、SETボタンを押す

3 十字ボタンの◀▶で［OK］を選んだ後、SETボタンを押す

DPOFのプリント指定でプリントする

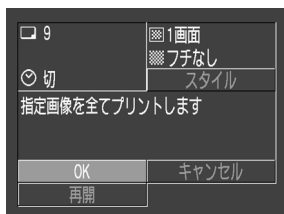
DPOFのプリント指定内容を、別売のカメラダイレクト対応プリンター(CPシリーズ)、またはカメラダイレクト対応BJプリンタでプリントできます。

1 [▶(再生)]メニューから[プリント指定]を選んでSETボタンを押す

- メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 41

2 十字ボタンの▲▼または◀▶で[プリント]を選び、SETボタンを押す

3 必要に応じてプリントスタイルを指定する

- プリントスタイルを指定する ➔ p. 138
- DPOFのプリント指定で、プリントタイプに[インデックス]を選択している画像では、プリントスタイルは指定できません。(BJプリンタでは、ペーパーの種類を設定できます。)

4 十字ボタンの▲▼または◀▶で[OK]を選び、SETボタンを押す

- プリントが開始され、正常に終了すると再生画面に戻ります。

- 日付をプリントする場合は、手順2の[設定]で[日付]を[入]にします。手順3の[スタイル]では、[日付]の設定はできません(p. 138)。なお、プリントタイプが[インデックス]の場合、手順2で[日付]を[入]に設定しても、日付はプリントされません。
- プリントタイプで[両方]を設定すると、カメラ上では、[日付]、[ファイル番号]ともに[入]の設定ができます。ただし、この場合、[インデックス]プリントには、ファイル番号のみプリントされます。(BJプリンタでは、[インデックス]プリントには、日付もファイル番号もプリントできません。)
- プリントタイプが[スタンダード]の場合、ファイル番号を[入]にしてもファイル番号はプリントされません。

- プリントタイプが[インデックス]の場合、ペーパー1 枚にプリントされる画像数は、ペーパーによって異なります。
  - クレジットカードサイズ ： 20画像
  - Lサイズ ： 42画像
  - ポストカードサイズ ： 63画像

  (BJプリンタでプリントしたときの画像数については、BJプリンタの使用説明書でご確認ください。)

プリントを中止するとき ➔ p. 137

プリントを再開するとき

- プリント指定メニューで、十字ボタンの◀▶で[再開]を選び、**SET**ボタンを押します。残りの画像をプリントできます。
- 次のような場合は、プリントの再開はできません。
  - 再開する前に、プリント指定を変更した場合
  - 再開する前に、プリント指定した画像を削除した場合
  - プリントを中断したときに、CFカードの空き容量が少なかった場合

  このような場合は、プリント画面で[OK]を選択すると、1枚目から再プリントできます。

  バッテリーの容量がなくなって中断した場合は、コンパクトパワーアダプターCA-560をお使いになることをおすすめします。バッテリーをお使いになるときは、フル充電されたバッテリーをお使いください。その上で、再度、カメラの電源を入れてください。

エラーが発生したとき ➔ p. 137

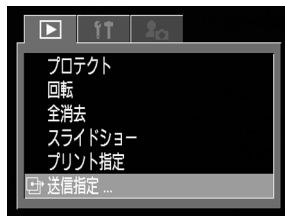
画像の送信設定（DPOF 送信指定）

パソコンに取り込む画像を、あらかじめカメラ側で指定しておくことができます。
この指定は、DPOF（Digital Print Order Format）に準拠しています。

- DPOF対応の他のカメラで送信指定されたCFカードの場合、⚠が表示されます。このカメラでそれらの送信指定を変更すると、設定済みの送信指定は、すべて書き換えられます。

送信する画像を選ぶ

1 [▶(再生)] メニューから [送信指定] を選び、SETボタンを押す

- メニューの選択と設定のしかた ➔ p. 41

2 十字ボタンの◀▶で [画像指定] を選び、SETボタンを押す

- [リセット] を選ぶと、送信指定された画像をすべて解除します。

3 送信する画像を選ぶ

1画像ずつ指定するとき

- 電子ダイヤルまたは十字ボタンの◀▶で画像を選び、▲ ▼ で、指定、指定解除を設定します。指定したときは、チェックマークが表示されます。
- ボタンを押してインデックス再生（3 画像表示）に切り換えても、同じ方法で指定できます。

CFカード内のすべての画像を指定するとき

- ボタンを押してインデックス再生（3 画像表示）に切り換えます。
- **SET** ボタンを押したあと、十字ボタンの▲ ▼ で［全画像指定］を選び、再度**SET**ボタンを押すと、すべての画像が指定されます。（［全指定解除］を選ぶと、すべての指定を解除できます）
- ［全画像指定］または［全指定解除］を行ったあと、十字ボタンの◀ ▶ または電子ダイヤルで特定の画像を選び、▲▼で設定変更できます。

4 MENUボタンを押す

- 送信指定が終了し、送信指定メニューに戻ります。

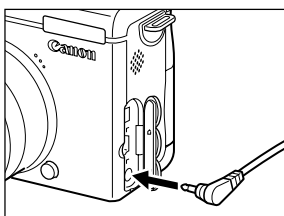
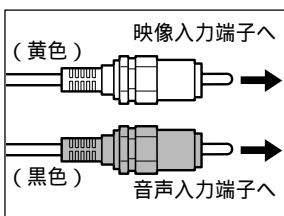
プリント・送信

- 撮影日時の古い画像から順に送信されます。
- 最大998画像まで指定できます。

テレビを使って撮影/再生する

同梱のAVケーブル AVC-DC100を使用すると、テレビに画像を表示して撮影や再生ができます。
ビデオ出力形式は、日本国内で採用しているNTSC方式に設定されています。

1 カメラの電源を切る ➔ p. 28

- テレビの電源も切ってください。

2 カメラのA/V OUT端子にAVケーブルを接続する

3 テレビの映像入力端子と音声入力端子にAVケーブルを接続する

4 テレビの電源を入れ、入力切り換えをビデオ入力にする

5 モードレバーを📷または▶に合わせる ➔ p. 27、28

- 画像がテレビに表示されます。通常の撮影や再生ができます。
- 撮影時、テレビに画像が表示されていないときは、DISPLAYボタンを押します。

- テレビ表示中は、液晶モニターに画像は表示されません。
- 海外で使うとき ➔ p. 186
- AVケーブルをステレオ対応のテレビに接続する場合は、音声入力端子の左右どちらかに接続してください。詳しくは、お使いのテレビの取扱説明書でご確認ください。
- ⧉では使用できません。

パソコンへの画像の取り込み

カメラで撮影した画像をパソコンに取り込む方法は、次の通りです。

- **カメラとパソコンを接続して画像を取り込む**
  カメラとパソコンを接続するだけで、簡単に画像を取り込めます。
- **CFカードから直接画像を取り込む**
  ノートパソコンやカードリーダーをお使いの場合は、CFカードから、直接、パソコンに画像を取り込めます。

カメラとパソコンを接続して画像を取り込む

重要

以下のOSをお使いの場合、カメラとパソコンを接続する前に、必ず同梱のCanon Digital Camera Solution Diskに収められているドライバとソフトウェアをインストールしてください。

Windows 98 (Second Edition を含む)/Windows 2000/Windows Me/Mac OS 9.0〜9.2

同梱のソフトウェアをインストールしたあと、 そのソフトウェアで、簡単に画像を取り込み、プリントしたり、メールに添付して送付できます。

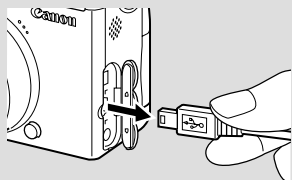
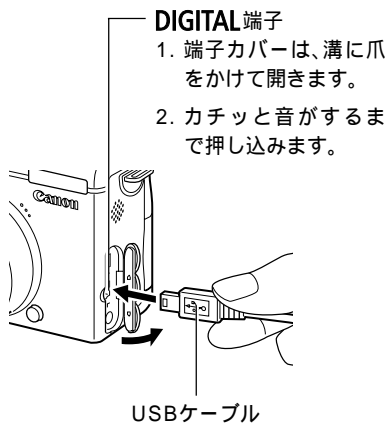
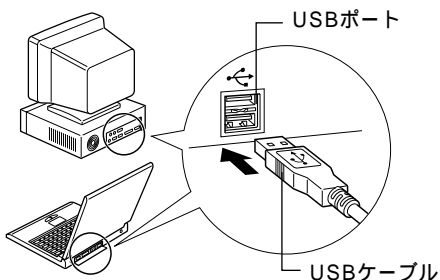
- ドライバとソフトウェアをインストールする前にカメラとパソコンを接続すると、カメラが正しく認識されません。このような場合には、ソフトウェアクイックガイドの「困ったときには」をご覧ください。

接続

1 Canon Digital Camera Solution Diskから、ドライバとソフトウェアをインストールする

- パソコンに必要なシステム構成や、インストールの手順は、ソフトウェアクイックガイドをご覧ください。

2 同梱のUSBケーブルで、パソコンのUSBポートとカメラのDIGITAL端子を接続する

- カメラやパソコンの電源を切る必要はありません。
- USBポートの位置は、お使いのパソコンの取扱説明書で確認してください。
- パソコンへの接続が完了すると、液晶モニターは消え、パワー/モードランプが黄色に点灯します。

カメラのDIGITAL端子からケーブルを取り外すときは、必ず、コネクターの側面を持って、取り外してください。

この後の操作については、ソフトウェアクイックガイドをご覧ください。

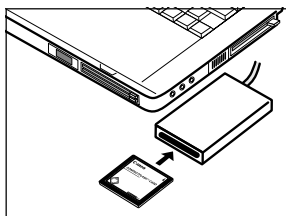
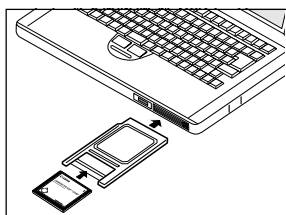
ソフトウェアをインストールしないで画像を取り込む
（Windows XP、Mac OS X(10.1/10.2)のみ）

Windows XPまたはMac OS X (10.1/10.2)をお使いの場合、OSに標準で組み込まれているソフトウェアを使用するので、Canon Digital Camera Solution Diskからソフトウェアをインストールしなくても、画像（JPEG形式のみ）を取り込むことができます。会社やお友達のパソコンに画像を取り込むときに便利です。

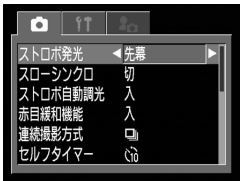
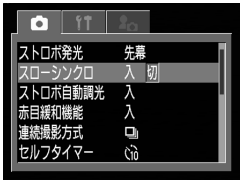
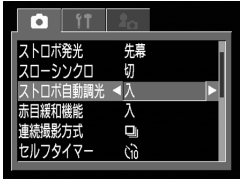
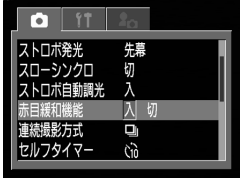
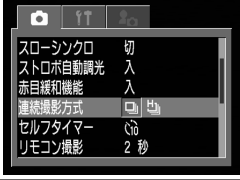
ただし、この方法で画像を取り込む場合、いくつかの制限事項があります。詳細は、同梱の「Windows® XP、Mac OS X をお使いの方へ」でご確認ください。

1. 同梱のUSBケーブルで、パソコンのUSBポートとカメラのDIGITAL端子を接続する（p. 153　手順2を参照してください。）
2. パソコンに表示されるメッセージにしたがって画像を取り込む

- カメラをパソコンに接続する場合、カメラの電源にはコンパクトパワーアダプター CA-560をお使いになることをおすすめします。➔ p. 21
- カメラの電源が入っている状態でUSBケーブルを取り外すと、カメラの電源は切れます。
- USB 2.0対応ボードとの接続は、全ての動作を保証するものではありません。

CFカードから直接画像を取り込む

1 カメラからCFカードを取り出し、パソコンに接続されたCFカードリーダーに入れる

- PCカードリーダーをお使いの場合は、まずCFカードをPCカードアダプター（別売）に差し込んでから、PCカードリーダーに入れてください。

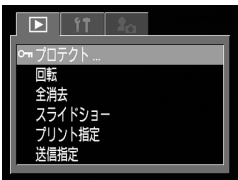
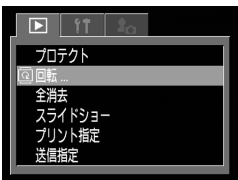
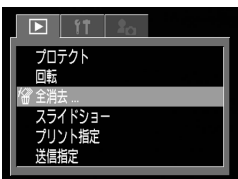
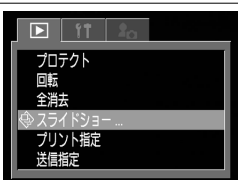
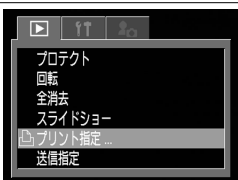
2 CFカードを接続したドライブをダブルクリックして開く

3 撮影した画像をハードディスクの任意の場所にコピーする

- 画像は、CFカード内の[DCIM]フォルダの中の[xxxCANON]フォルダ（xxxは100～998の数字が入ります）にあります。（p.112）

撮影メニュー

● 撮影モードによって表示されない項目もあります。→ p. 208

*初期設定

項　目	画　面	内　容	参照先
ストロボ発光		ストロボ発光のタイミングを設定します。 ・先幕* ・後幕	102
スローシンクロ		スローシンクロを設定します。 ・入 ・切*	62
ストロボ自動調光		ストロボの自動調光を設定します。 ・入* ・切	100
赤目緩和機能		ストロボ発光のときの赤目緩和ランプの発光の有無を設定します。 ・入* ・切	62
連続撮影方式		連続撮影の方式を設定します。 ・ * ・	73
セルフタイマー		セルフタイマー撮影のとき、シャッターボタンを押してから撮影されるまでの時間を設定します。 ・2秒 ・10秒*	71

項　目	画　面	内　容	参照先
リモコン撮影		リモコンのシャッターボタンを押してから撮影されるまでの時間を設定します。 ・0秒 ・2秒* ・10秒	173
スポット測光枠		測光方式で[スポット測光]を選んだときに、測光を中央枠内に固定するか、選択されているAF枠内にするかを選びます。 ・中央固定* ・AF枠連動	82
NDフィルター		NDフィルターを設定します。 ・入 ・切*	110
MF拡大表示		マニュアルフォーカスのときの、拡大表示の有無を設定します。 ・入* ・切	106
AFモード		撮影時のフォーカス動作を設定します。液晶モニターが非表示の場合は、SINGLEに固定されます。 ・CONT* ・SINGLE	108
AF補助光		AFのときに、必要に応じてAF補助光の発光を設定します。 ・入* ・切	39

項　目	画　面	内　容	参照先
デジタルズーム	MF拡大表示 入 AFモード CONT AF補助光 入 デジタルズーム 入 切 撮影の確認 2 秒 インターバル撮影	光学ズームと合わせて、拡大するかどうかを設定します。 ・入 ・切*	72
撮影の確認	AFモード CONT AF補助光 入 デジタルズーム 切 撮影の確認 ◀2 秒▶ インターバル撮影 カスタム登録	撮影してシャッターボタンを離したあと、撮影した画像を液晶モニターに表示する時間を設定します。 ・切 ・2秒*～10秒	54
インターバル撮影	AFモード CONT AF補助光 入 デジタルズーム 切 撮影の確認 2 秒 インターバル撮影 ... カスタム登録	一定の間隔をあけて自動的に撮影します。	103
カスタム登録	AFモード CONT AF補助光 入 デジタルズーム 切 撮影の確認 2 秒 インターバル撮影 カスタム登録 ...	撮影メニュー、ファンクションメニューで設定した内容をモードダイヤル上の **C1** または **C2** に登録します。	109

再生メニュー

*初期設定

項　目	画　面	内　容	参照先
プロテクト	プロテクト… 回転 全消去 スライドショー プリント指定 送信指定	画像を消去できないようプロテクトを設定します。	126
回転	プロテクト 回転… 全消去 スライドショー プリント指定 送信指定	時計方向に90度、270度に回転して画像を表示します。	120
全消去	プロテクト 回転 全消去… スライドショー プリント指定 送信指定	CFカードに記録されている画像をすべて消去します。（プロテクトされている画像を除く）	128
スライドショー	プロテクト 回転 全消去 スライドショー… プリント指定 送信指定	記録した画像を自動再生します。	122
プリント指定	プロテクト 回転 全消去 スライドショー プリント指定… 送信指定	画像をダイレクト対応プリンター（CPシリーズ）またはラボプリントサービスでプリントするとき、プリントする画像の選択や枚数を指定します。	143
送信指定	プロテクト 回転 全消去 スライドショー プリント指定 送信指定…	パソコンに取り込む画像を、あらかじめカメラで指定します。	150

設定メニュー

***初期設定**

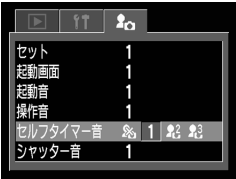
項　目	画　面	内　容	参照先
電子音		シャッターボタンを押したときや、メニュー操作をしたときに、電子音を鳴らすかどうかを設定します。（電子ダイヤルは、クリックしても鳴りません。） 詳しくは「[(設定)]メニューの[電子音]と、[(マイカメラ)]メニューの音の各設定について（p. 165）」をご覧ください。 ・入* ・切 ただし、エラー時の警告音は、[切]にしても鳴ります。	38
液晶の明るさ		液晶モニターの明るさを設定します。 ・(標準) * ・(明るい)	–
節電		一定時間カメラの操作をしないときに、自動的に電源を切るかどうかを設定します。 ・入* ・切	29
日付/時刻		日付、時刻、日付スタイルを設定します。	24

項　目	画　面	内　容	参照先
カードの初期化		CFカードを初期化します。	129
シャッター音量		シャッターボタンを全押ししたときの音量を調節します。動画撮影時には、シャッター音は鳴りません。 • □□□□□ (切) • ▬□□□□ (1) • ▬▬□□□ (2)* • ▬▬■□□ (3) • ▬▬■■□ (4) • ▬▬■■■ (5)	45
再生音量		動画再生時、音声メモ音量を調節します。 • □□□□□ (切) • ▬□□□□ (1) • ▬▬□□□ (2)* • ▬▬■□□ (3) • ▬▬■■□ (4) • ▬▬■■■ (5)	117 121
起動音量		カメラ起動時の音量を調節します。 • □□□□□ (切) • ▬□□□□ (1) • ▬▬□□□ (2)* • ▬▬■□□ (3) • ▬▬■■□ (4) • ▬▬■■■ (5)	28

設定メニュー（つづき）

項　目	画　面	内　容	参照先
操作音量		シャッター以外のボタンを操作したときの音量を調節します。 ・ ▭□□□▯(切) ・ ▬□□□▯(1) ・ ▬■□□▯(2)* ・ ▬■■□▯(3) ・ ▬■■■▯(4) ・ ▬■■■█(5)	38
セルフタイマー音		撮影2秒前から撮影までのセルフタイマー音を調節します。 ・ ▭□□□▯(切) ・ ▬□□□▯(1) ・ ▬■□□▯(2)* ・ ▬■■□▯(3) ・ ▬■■■▯(4) ・ ▬■■■█(5)	71
番号リセット機能		ファイル番号の付け方を設定します。 ・入 ・切*	112
縦横自動回転		縦位置で撮影した画像を自動的に横位置に回転して表示するかどうかを設定します。 ・入* ・切	111
距離表示		距離表示の単位を設定します。 ・m/ cm* ・ft/ in	106

項　目	画　面	内　容	参照先
言語	セルフタイマー音 / 番号リセット機能 切 / 縦横自動回転 入 / 距離表示 m/cm / 言語… 日本語 / ビデオ出力方式 NTSC	液晶モニターのメニューやメッセージを、どの言語で表示するかを設定します。 ・English　・Italiano ・Deutsch　・Norsk ・Français　・Svenska ・Nederlands　・Español ・Dansk　・汉语 ・Suomi　・日本語* 画像の再生時に、**SET**ボタンを押しながら**JUMP**ボタンを押しても、表示する言語を変更できます。（プリンター接続時を除く）	25
ビデオ出力方式	セルフタイマー音 / 番号リセット機能 切 / 縦横自動回転 入 / 距離表示 m/cm / 言語 日本語 / ビデオ出力方式 NTSC PAL	ビデオ出力方式を設定します。 ・NTSC* ・PAL	152 186

付録

マイカメラメニュー

このカメラでは、セット、起動画面、起動音、シャッター音、操作音、セルフタイマー音を選べます。また各項目の[2]、[3]には、CFカードに記録された画像や、新たに録音した音声をマイカメラコンテンツとしてその場ですぐにカメラに登録できます。
また同梱のソフトウェアを使ってパソコンにある画像や音声を登録したり、Canon Image Gateway から、同梱のソフトウェアを通じて、コンテンツをダウンロードし、登録することもできます。詳しくは、同梱のソフトウェアクイックガイドをご覧ください。

***初期設定**

項　目	画　面	内　容	参照先
セット		起動画面、起動音、シャッター音、操作音、セルフタイマー音に共通するテーマを選びます。*1 (切) 1 * 2 3	45
起動画面		電源を入れたときの起動画面を選びます。 (切) 1 * 2 3	45
起動音		電源を入れたときの起動音を選びます。*1 (切) 1 * 2 3	45
操作音		シャッターボタン以外のボタンを操作したときの音を選びます。*1 (切) 1 * 2 3	45

項　目	画　面	内　容	参照先
セルフタイマー音		セルフタイマー撮影で2秒前をお知らせする音を選びます。*1 (切) 1 * 2 3	45
シャッター音		シャッターを全押ししたときの音を選びます。動画撮影時には、シャッター音は鳴りません。*1 (切) 1 * 2 3	45

***1 [(設定)]メニューの[電子音]と、[(マイカメラ)]メニューの音の各設定について**

起動音、シャッター音、操作音、セルフタイマー音を消すときは、[電子音]を[切]にしてから、音の各設定を個別に[切]にします。[電子音]が[入]になっていると、音の各設定が[切]になっていても、電子音が鳴ります。

詳しくは、下の表をご覧ください。

		[(設定)]メニューの[電子音]の設定	
		[入]	[切]
[(マイカメラ)]メニューの音の各項目の設定 ([起動音]/[シャッター音]/[操作音]/[セルフタイマー音])	[(切)]	○[電子音]	×
	[1]	○[1]	○[1]
	[2]	○[2]	○[2]
	[3]	○[3]	○[3]

○：[ ]の音が鳴る
×：鳴らない

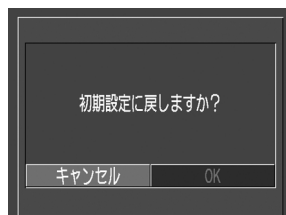
設定を初期状態に戻す

[日付/ 時刻]、[言語]、[ビデオ出力方式]以外のメニュー設定と、ボタン操作によるカメラの設定を初期設定に戻します。

1 カメラの電源を入れる

- 撮影モード、再生モードのどちらでも構いません。

2 MENUボタンを5秒以上押しつづける

- 液晶モニターに、「初期設定に戻しますか？」のメッセージが表示されます。

3 十字ボタンの◄►で[OK]を選び、SETボタンを押す

- 初期化中は右のような画面が表示され、初期化が終わると通常画面に戻ります。
- 初期設定に戻すのをやめるときは、[キャンセル]を選びます。

- 以下の設定は、初期状態に戻りません。
  - ・マニュアルホワイトバランスで記憶した白データ（p. 86）
  - ・新しく登録したマイカメラコンテンツ（p. 47）
- カメラが撮影モードでモードダイヤルが**C1**/**C2**のときは、**C1**/**C2**モードの設定のみ初期設定に戻ります。
- パソコン接続時、別売のカメラダイレクト対応プリンター（CPシリーズ）またはカメラダイレクト対応BJプリンタ接続時は、設定できません。

エラーコード/メッセージコード一覧

表示パネルに表示されるエラーコード、メッセージコードには以下のものがあります。

エラーコード

Exx	：	カメラに異常が発生しました。いったん電源を切ったあと、再び撮影または再生してください。頻繁にこのエラーコードが表示されるときは故障ですので、「xx」の数値を控えて修理サービス相談窓口へお持ちください。また、撮影直後にこのエラーコードが表示されたときは、撮影されていない場合がありますので、再生モードに切り換えてご確認ください。

メッセージコード

Pb	：	画像の再生中です。
PC	：	PCモードでパソコンと接続中です。
(電池マーク)	：	バッテリーの容量は十分です。
(電池マーク)	：	バッテリーの残量が低下しています。長時間お使いになる場合は、早めに充電してください。
(電池マーク) Lb	：	バッテリーの残量が少なく、カメラが動作不能です。ただちに新しいバッテリーに交換、または充電してください。 または、バッテリーカバーが開いています。カバーを閉じてください。
CF	：	CFカードが入っていない、またはCFカードスロットカバーが開いています。あるいはCFカードのエラーです。
LENS	：	レンズキャップをつけたまま電源を入れました。レンズキャップを外し、一度電源を切って、再度入れ直してください。
Int	：	インターバル撮影(間隔を開けた自動撮影)時です。(最初の1画像を撮影したあとは、残りの撮影画像数が表示されます。)

メッセージ一覧

液晶モニターに表示されるメッセージには以下のものがあります。

初期設定に戻しますか？	：カメラやメニューの設定を初期設定に戻しますか？
初期化中	：カメラやメニューの設定を初期設定に戻しています。
処理中...	：撮影した画像をCFカードに記録しています。 再生モードを起動中です。 設定を初期化しています。
カードがありません	：CFカードがカメラに入っていないときに、撮影や再生をしようとしました。
記録できません	：CFカードがカメラに入っていないのに撮影しようとしました。
カードが異常です	：CFカードに異常があります。
カードがいっぱいです	：CFカードの容量いっぱいに画像が記録されていて、これ以上記録や保存ができません。または、これ以上プリント指定を保存できません。
ファイル名が作成できません	：カメラが作成しようとするディレクトリと同じ名前のファイルが存在する、もしくは、すでにファイル番号が最大値になってしまったために、ファイル名を作成できません。撮影メニューから[番号リセット機能]を[入]に設定してください。必要な画像をパソコンに取り込んだ後、CFカードを初期化してください(p.129)。なお、初期化すると、CFカード内の画像およびデータはすべて消去されます。
バッテリーを交換してください	：バッテリーの残量が少なく、カメラが動作不能です。ただちに充電されたバッテリーに交換するか、バッテリーを充電してください。
画像がありません	：CFカードに画像が記録されていません。
画像が大きすぎます	：4064×3048画素より大きなサイズの画像を再生しようとしました。
互換性のないJPEGです	：互換性のないJPEGフォーマットの画像を再生しようとしました。
データが壊れています	：データの破壊されている画像を再生しようとしました。

RAW	：異なる形式のRAW画像を再生しようとしました。
拡大できない画像です	：別のカメラもしくは異なるフォーマットで撮影した画像、またはいったんパソコンに取り込んで加工した画像を拡大しようとしました。
回転できない画像です	：別のカメラもしくは異なるフォーマットで撮影した画像、またはいったんパソコンに取り込んで加工した画像を回転しようとしました。
認識できない画像です	：特殊なフォーマット（他社カメラ特有の記録フォーマットなど）で撮影した画像、または別のカメラで撮影した動画を再生しようとしました。
互換性のないWAVEです	：録音済みの音声メモの形式が正しくないので、この画像に追加録音できません。
プロテクトされています	：プロテクトされている画像を削除しようとしました。
指定が多すぎます	：プリント指定またはスライドショーの画像指定が多すぎます。これ以上指定できません。
指定できない画像です	：JPEG以外のファイルをプリント指定しようとしました。
指定完了できませんでした	：プリント指定またはスライドショーの画像指定を保存できませんでした。
編集できません	：スライドショー指定ファイルが壊れています。
登録できない画像です	：このカメラ以外で撮影した画像を起動画面に登録しようとしました。
変換できません	：デジタルズームで撮影した画像や、もともとRAW形式で撮影した画像を起動画面に登録しようとしました。

別売のカメラダイレクト対応プリンター（CP シリーズ）でプリント中に、カメラの液晶モニターに表示されるメッセージには、以下のものがあります。（プリンターによって、表示されないメッセージもあります。）

ペーパーがありません	：ペーパーカセットが正しく入っていないか、ペーパーカセット内にペーパーがありません。または給紙動作が正しく行われていません。
インクがありません	：インクカセットが入っていません。またはインクカセットのインクがありません。

付録

メッセージ一覧（つづき）

指定外のペーパーです	：	プリントできないサイズのペーパーがプリンターに取り付けられています。
指定外のインクです	：	プリントできないインクカセットがプリンターに取り付けられています。
インクカセットが異常です	：	インクカセットに異常があります。
ペーパーとインクが不一致です	：	ペーパーとインクの組み合わせが正しくありません。
ペーパーが詰まりました	：	プリント中にペーパーが詰まりました。
ペーパーが変更されています	：	プリントスタイルメニュー表示時からプリントを開始するまでの間にペーパーサイズが変わりました。
プリンターバッテリー切れです	：	プリンターの電池がありません。
通信エラー	：	通信中にエラーが発生しました。
トリミングの再設定が必要です	：	トリミング設定時と異なるスタイルでプリントしようとしました。
プリントできない画像です	：	別のカメラ、もしくは異なるフォーマットで撮影した画像、または、パソコンに取り込んで加工した画像をプリントしようとしました。
プリントできない画像がXX枚ありました	：	別のカメラで撮影した画像、またはパソコンに取り込んで加工した画像をXX枚、DPOF設定でプリントしようとしました。

カメラダイレクト対応BJプリンタに接続しているときは、以下のメッセージも表示されることがあります。

BJプリンタに表示されるエラー番号を確認し、BJプリンタの使用説明書も合わせてご覧ください。

（機種によっては、メッセージやエラー番号が表示されません。）

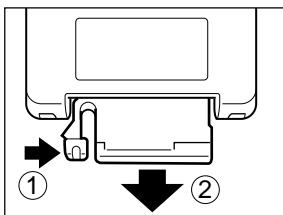
プリンターは使用中です	：パソコン、またはプリンターに差し込まれたメモリーカードからプリントしています。 プリントが終了すると自動的に、カメラ内の画像のプリントを開始します。
プリンターは準備中です	：プリンターを準備しています。準備が終了すると、自動的にプリントを開始します。
プリントヘッド未装着	：プリントヘッドが取り付けられていません。
プリンターカバーが開いています	：プリンターのフロントカバーを閉じてください。
ペーパーの種類が違います	：プリンターで使用できないペーパーを選んでいます。カメラの[プリントスタイル]で、使用できるペーパーを選んでください。
紙間レバー位置が不正です	：紙間選択レバー位置を正しい位置にしてください。
インクが残りわずかです	：そろそろインクタンクの交換時期です。新しいインクタンクをご用意ください。エラー画面で[続行]を選ぶと、プリントを再開します。（このメッセージが表示されない機種もあります。）
廃インクタンクが満杯です	：BJプリンタのリセットボタンを押すとプリントを再開しますが、お早めに修理受付窓口（BJプリンタに付属の一覧を参照）に廃インクタンクの交換を依頼してください。
プリンタートラブル発生	：プリンターの電源を入れ直してください。それでもエラーが表示されるときは、BJプリンタの使用説明書に記載されている最寄りのサービスセンターにご相談ください。

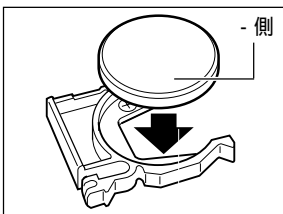
ワイヤレスコントローラーの使いかた

電池を取り付ける

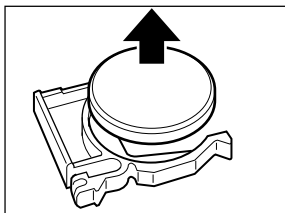
ご使用の前に、ワイヤレスコントローラーにコイン型リチウム電池（CR2025）を取り付けてください。

- コイン型リチウム電池は、お子様の手の届かないところに置いてください。万一飲み込んだ場合、電池の液で胃、腸が侵される恐れがありますので、直ちに医師に相談してください。

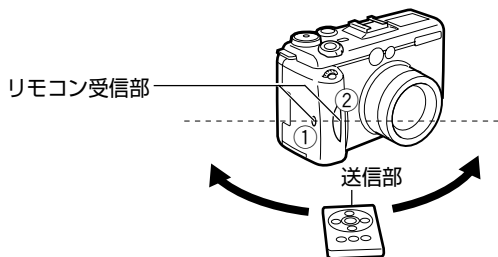
1

①に爪をかけて矢印の方向に押しながら、②に爪をかけて電池ホルダーを取り出す

2

電池の（－）側を上にして、電池ホルダーに取り付ける

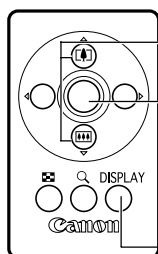
3 **電池ホルダーを元に戻す**

電池を取り出す

矢印の方向に引き抜くように取り出してください。

撮影/再生する

ワイヤレスコントローラーを使って、撮影や再生ができます。ワイヤレスリモコン受信部の正面から約5m、横から約3m離れて撮影や再生ができます。

マクロリングライト MR-14EXやマクロツインライト MT-24EX装着時は、② のリモコン受信部を覆ってしまうので、① のリモコン受信部に向けて操作してください。

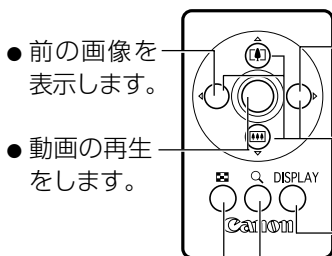
● （撮影）のとき

表示パネルにが表示されるまで/ボタンを押し、撮影します。

① ズームボタンで構図を決めます。

② シャッターボタンを押します。

撮影メニューの［リモコン］で設定した時間（0秒/2秒/10秒）ののちに撮影されます。

● ボタンを押すたびに、液晶モニター表示（情報表示なし）/ 液晶モニター表示（情報表示あり）/ 液晶モニター非表示の切り換えができます。

● （再生）のとき

表示パネルにが表示されます。

● 次の画像を表示します。

● 拡大表示時、表示位置を切り換えます。

● インデックス再生時、選択画像を切り換えます。

● ボタンを押すたびに、情報表示を切り換えます。

● ボタンを押すたびに、約2.5倍、約5倍、約10倍に拡大して表示します。

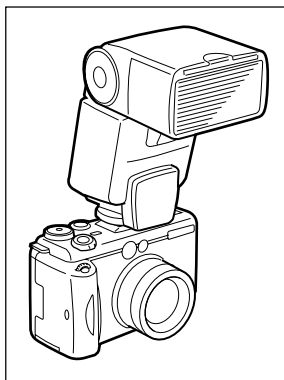
● 9画像ずつまとめて表示します。（インデックス再生）

● 以下の場合は、使用できる距離が短くなります。
・ ワイヤレスリモコン受信部に対して斜めに使用する場合
・ カメラに強い光が当たっている場合
・ 電池が消耗している場合

● 動画の編集やプリントは操作できません。

外付けストロボ（別売）の使いかた

別売の外付けストロボを取り付けると、より自然で鮮明なストロボ撮影ができます。
キヤノンスピードライト 220EX、380EX、420EX、550EX、マクロリングライト MR-14EX、マクロツインライト MT-24EXを取り付けると（p.177）、自動調光で発光します。（M モードまたは［自動調光］［切］のときを除く）それ以外のストロボをお使いの場合、マニュアルで発光するか、または発光しない場合があります。
お使いのストロボの取扱説明書も併せてご覧ください。

＊スピードライト 220EX、380EX、420EX、550EX、マクロリングライト MR-14EX、マクロツインライト MT-24EXの取扱説明書に記載されている撮影機能の一部は、このカメラに取り付けたときに、お使いいただけません。このカメラでお使いになる場合は、最初に本書をお読みください。

1 カメラ上部のアクセサリーシューに取り付ける

2 外付けストロボの電源を入れ、モードレバーを （撮影）に合わせる

3 モードダイヤルを 、 以外の任意の位置にする

スピードライト 220EX、380EX、420EX、550EX、マクロリングライト MR-14EX、マクロツインライト MT-24EXをお使いの場合

- AUTO、 、 、 、P、Tv、Avで、［ストロボ自動調光］が［入］のときは自動調光で発光します。ストロボ同調最高シャッタースピードは1/250秒です。
- Mまたは、［ストロボ自動調光］が［切］のときは、マニュアル発光します。このときのストロボ同調最高シャッタースピードは、1/250秒です。絞り数値は、ストロボのガイドナンバーと被写体との距離から最適値を設定してください。ストロボのガイドナンバーは、カメラのISO感度で変わりますので、ISO感度をご確認ください。
- 自動調光時は調光補正を、マニュアル発光時は発光量を調節できます。➔ p.100

付録

- **M**または[ストロボ自動調光]が[切]のときは、カメラのストロボ発光量調整画面で（p. 101）、外付けストロボの発光量を調節できます。スピードライト 550EX、またはマクロリングライト MR-14EX、マクロツインライト MT-24EXを取り付けているときは、ストロボ側とカメラ側の両方で調節できます。ストロボ側で調節するときは、ストロボをマニュアル発光モードにすることをおすすめします。なお、E-TTL自動調光モードでも、調光補正値を変更すると発光量を変更できます。このとき、+2段がフル発光の値になります。
  撮影するときのホワイトバランスは、（ストロボ）に設定することをおすすめします。

他のキヤノン製ストロボをお使いの場合

- フル発光しますので、シャッタースピードと絞り数値を適切に設定してください。
  シャッター速度は1/125秒以下に設定し、絞り値は、ストロボのガイドナンバーと被写体との距離から最適値を設定してください。
  ホワイトバランスは、（ストロボ）に設定することをおすすめします。

4 シャッターボタンを半押しする

- ストロボのパイロットランプが点灯すると、充電が完了です。

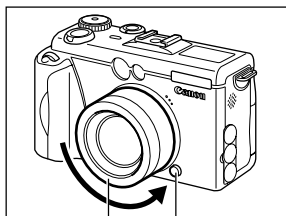
5 シャッターボタンを全押しして撮影する

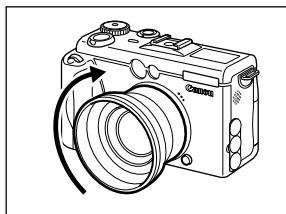
- 、、連続撮影では、外付けストロボは発光しません。
- ストロボ発光時は、ブラケット撮影はできません。ストロボを発光して撮影した場合は、通常の1画像撮影になります。
- 他社のストロボ（特に高圧タイプのストロボ）やストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しなかったり、故障の原因となることがありますのでご注意ください。

- スピードライト 220EX、380EX、420EX、550EXで使用できる機能は、次のとおりです。
  - 自動調光（550EXは、E-TTLモードでお使いください。）
  - FEロック機能（**M**では使用できません。）
  - ストロボ発光（先幕/後幕）（550EXをお使いの場合、ストロボ側の後幕設定が優先されます。）
  - 日中シンクロ機能　・スローシンクロ機能
  - ストロボ調光補正（550EXをお使いの場合に、カメラ側と550EX側（E-TTLモード時）の両方で調光補正を行った場合は、550EX側の設定が優先され、カメラ側の設定は機能しません。）
  - オートズーム機能（220EXではお使いになれません。）

マクロリングライト MR-14EX、マクロツインライト MT-24EXの取り付けかた

マクロリングライト MR-14EX、マクロツインライト MT-24EXを取り付ける場合、別売のコンバージョンレンズアダプター LA-DC58Bが必要です。

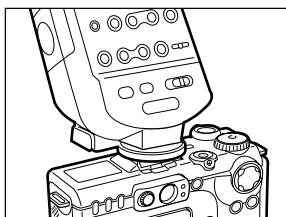
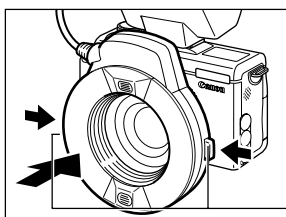
1

リング取り外しボタンを押して、レンズ周りのリングを外す

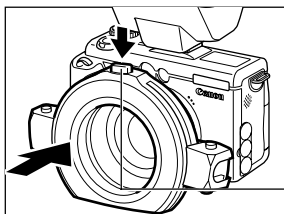
2

コンバージョンレンズアダプターの●をカメラの●印に合わせてから、▲印まで回して取り付ける

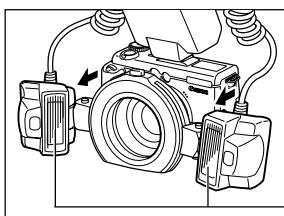
- クローズアップレンズ 250D(p.180)を取り付ける場合は、このあとに取り付けます。
  マクロリングライト MR-14EXを取り付ける場合は、クローズアップレンズ 250Dに、別売のマクロライトアダプター 58Cを取り付けます。

3

カメラ上部のアクセサリーシューに制御部を取り付ける

4

マクロリングライト MR-14EX

発光部の両側にある着脱ボタンを押しながら、コンバージョンレンズアダプターに取り付ける

マクロツインライト MT-24EX

取り付けリング上部にある着脱ボタンを押しながら、取り付けリングを、コンバージョンレンズアダプターに取り付ける

- 発光部を取り付け台座に取り付けます。

5 ボタンを押し、[NDフィルター]を[入]にする

- マクロモードについて ➔ p. 70
- NDフィルターについて ➔ p. 110

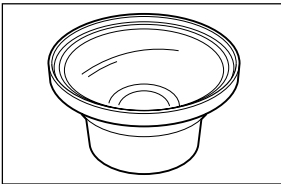
- マクロリングライト MR-14EX、マクロツインライト MT-24EXは、カメラの撮影モードを**P**、**Av**、**Tv**にするだけで、E-TTL自動調光ストロボ撮影を行うことができます。
  本格的なマクロストロボ撮影を行うときは、**Av**または**M**で、絞りを絞って撮影してください。
- マクロリングライト MR-14EX、マクロツインライト MT-24EXで使用できる機能は、次のとおりです。
  ・E-TTL自動調光機能
  ・FEロック機能
  ・ストロボ発光(先幕/後幕)(ストロボ側の後幕設定が優先されます。)
  ・日中シンクロ機能
  ・スローシンクロ機能
  ・ストロボ調光補正
- カメラ側とマクロリングライト MR-14EX、マクロツインライト MT-24EX側の両方で調光補正を行った場合は、マクロリングライト側(E-TTLモード時)の設定が優先され、カメラ側の設定は機能しません。

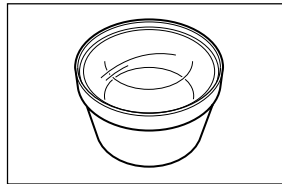
コンバージョンレンズ（別売）/クローズアップレンズ（別売）の使いかた

別売のワイドコンバーター WC-DC58N、テレコンバーター TC-DC58N、クローズアップレンズ 250D（58mm）を取り付けるときは、別売のコンバージョンレンズアダプター LA-DC58Bが必要です。（PowerShot G1/G2用のワイドコンバーター WC-DC58とテレコンバーター TC-DC58は、正しく撮影できないことがありますので、おすすめできません。）

- コンバージョンレンズ*/クローズアップレンズを取り付けるときは、確実にねじ込んでください。緩んで脱落して割れると、ガラスの破片でけがをすることがあります。
- コンバージョンレンズ/ クローズアップレンズは、絶対に太陽や強烈なライトに向けないでください。失明の恐れがあります。

*コンバージョンレンズとは、ワイドコンバーターとテレコンバーターを指します。

ワイドコンバーター WC-DC58N

58mmのねじ径を持つ広角撮影をするための倍率変換レンズです。焦点距離は、カメラ本体の焦点距離の0.7倍になります。

テレコンバーター TC-DC58N

58mmのねじ径を持つ望遠撮影をするための倍率変換レンズです。焦点距離は、カメラ本体の焦点距離の1.75倍になります。

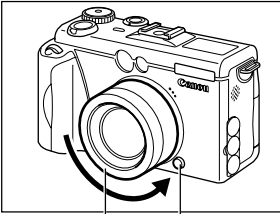
- コンバージョンレンズを取り付けて、外付けストロボを使用した場合、正しく自動調光されないことがあります。
- コンバージョンレンズにフィルターやレンズフードは取り付けられません。
- 内蔵ストロボを使用すると、画面が欠け（ケラレ）て、画像の一部が暗くなります。
- ファインダーを使用すると、ファインダー内の一部が欠け（ケラレ）て見えます。
- ワイドコンバーターは、ワイド端の位置でお使いください。
- テレコンバーターは、テレ端の位置でお使いください。それ以外のズーム位置でお使いになると、画像がケラレることがあります。

クローズアップレンズ 250D(58mm)

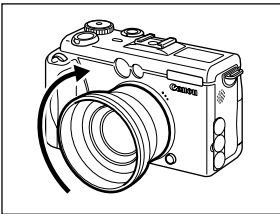
58mmのねじ径を持つ、簡単にマクロ撮影をするためのレンズです。マクロモードで、レンズ前面から被写体までの距離が10cmの至近距離撮影ができます。

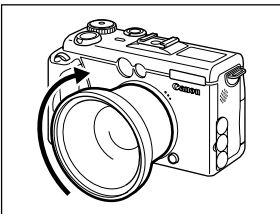
- クローズアップレンズを取り付けてストロボ撮影するときは、マクロリングライト MR-14EXまたはマクロツインライト MT-24EXをお使いになることをおすすめします。(マクロリングライト MR-14EXを取り付ける場合は、クローズアップレンズ 250Dに、別売のマクロライトアダプター 58Cを取り付けます。)
- 内蔵ストロボを使用すると、画面が欠け(ケラレ)て、画像の一部が暗くなります。
- ファインダーを使用すると、ファインダー内の一部が欠け(ケラレ)て見えます。
- クローズアップレンズは、画角をテレ端の位置にしてお使いください。

レンズを取り付ける

1

リング　リング取り外しボタン

リング取り外しボタンを押して、レンズ周りのリングを外す

2

コンバージョンレンズアダプターの●をカメラの●印に合わせてから、▲印まで回して取り付ける

3

ワイドコンバーター
WC-DC58N装着時

レンズを矢印の方向に回して取り付ける

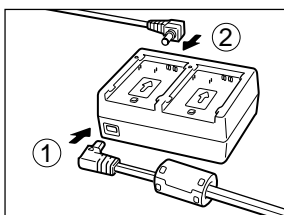
付録

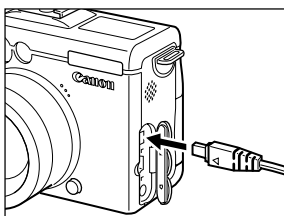
- レンズを取り付けても、ファインダーの画角は変わりませんので、撮影するときは液晶モニターをお使いください。
- レンズを取り付けて□で撮影した場合、パソコンで「PhotoStitch」を使った合成は正しく行えません。
- レンズの保護のため、カメラのレンズを片手で固定しながら着脱してください。
- ご使用前には、レンズ面のゴミをブロワーブラシなどで完全に取り除いてください。ゴミにピントが合ってしまいます。
- レンズには、指紋がつきやすいのでご注意ください。

チャージアダプター/カーバッテリーケーブルキット(別売)を使う

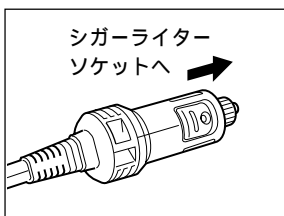
別売のチャージアダプター/カーバッテリーケーブルキット CR-560をお使いになると、自動車のシガーライターソケットから電源を取って、バッテリーを充電したり、カメラを駆動することができます。また、同梱のコンパクトパワーアダプター CA-560をチャージアダプターに接続すれば、カメラ本体を使わずに家庭用電源からバッテリーパック BP-511を、2個まで続けて充電することもできます。バッテリーパック BP-512(別売)もお使いになれます。

カーバッテリーを電源として使う

1

チャージアダプターにカーバッテリーケーブル(①)、DCケーブル(②)を接続する

2

DCケーブルをカメラのDC IN端子に接続する

- カメラの電源が切れていることを確認してください。

3

自動車のエンジンをかけた状態で、シガープラグを車のシガーライターソケットに接続する

- 取り外すときも、必ず自動車のエンジンをかけたままシガープラグを抜いてください。

4

カメラの電源を入れる

- チャージアダプター/カーバッテリーケーブルキットをお使いになるときは、必ず自動車のエンジンをかけた状態にしてください。エンジンをかけないで使用すると、車種によっては電力を消耗することがあり、バッテリーあがりの原因となります。また、取り外すときも、必ず自動車のエンジンをかけたまま行ってください。
- このチャージアダプター/ カーバッテリーケーブルキットは、マイナス接地車専用です。プラス接地車では使用できません。

- 別売のバッテリーチャージャー CG-570*、バッテリーチャージャー CB-5Lを使ってもバッテリーを充電できます。

バッテリーチャージャー CG-570
自動車のシガーライターソケットから電源を取って、バッテリーを充電できます。*
また、同梱のコンパクトパワーアダプター CA-560または別売のコンパクトパワーアダプター CA-570を接続すれば、カメラ本体を使わずに家庭用電源からバッテリーパック BP-511または別売のバッテリーパック BP-512を2個まで続けて充電できます。
* 別売のカーバッテリーケーブル CB-570が必要です。

バッテリーチャージャー CB-5L
カメラ本体を使わずに、家庭用電源からバッテリーパック BP-511または、別売のバッテリーパック BP-512を1個充電できる、携帯に便利な小型のバッテリーチャージャーです。

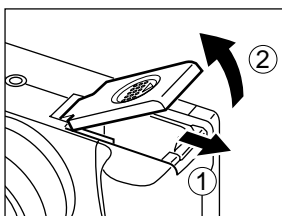
充電方法については、各製品の取扱説明書をご覧ください。

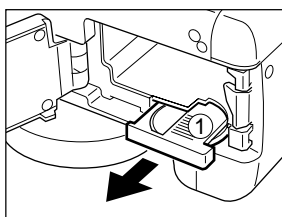
コイン型リチウム電池の交換

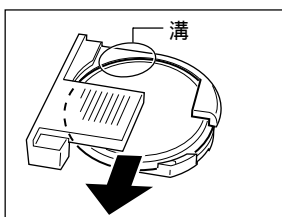
カメラの電源を入れたとき、日付/時刻の設定メニューが表示された場合は、コイン型リチウム電池の残量が低下し、日付の設定が消えています。市販のコイン型リチウム電池（CR2016）をお求めのうえ、次の手順で交換してください。

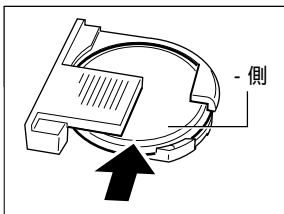
最初の電池は工場出荷時に組み込まれていますので、ご購入後の電池の寿命は短い場合があります。

- コイン型リチウム電池は、お子様の手の届かないところに置いてください。万一飲み込んだ場合、電池の液で胃、腸が侵される恐れがありますので、直ちに医師に相談してください。

1

電源を切り、バッテリーカバーを矢印の方向にスライドさせて開く **➔ p. 19**

2

バッテリーを取り出して、バッテリー室内の①を指で押しながら、矢印の方向に引き、電池ホルダーを取り出す

3

電池の溝に爪をかけて、矢印の方向に押し出す

4

新しい電池の（－）側を上にして、電池ホルダーに取り付ける

5 **電池ホルダー、バッテリーを元に戻し、バッテリーカバーを閉じる**

付録

海外で使うとき

本製品は、海外でもお使いになれますが、次のことにご注意ください。

テレビでの再生

ビデオ出力方式は、初期設定では、日本国内で採用しているNTSC方式に設定されていますが、海外の別方式（PAL方式：主にヨーロッパ、オセアニア、アジア（一部地域を除く））に切り換えることができます。海外に旅行したときなどは、切り換えてお使いください 。
➔ p. 163

電源について

コンパクトパワーアダプターやバッテリーチャージャーは、AC100～240V 50/60Hzまでの電源に接続できます。ただし、電源コンセントの形状が異なる国では、変換プラグアダプターが必要になります（1つの国の中でも地域によってコンセントの形状が異なる場合があります）。変換アダプターについては、旅行代理店などで確認の上、あらかじめご用意ください。

■海外の電源コンセントの種類

タイプ	A	B	BF	C	S
コンセントの形状					
変換プラグ	不要です				

主な国名と使用するプラグの種類

●北米	
アメリカ合衆国	A
カナダ	A

●ヨーロッパ	
アイスランド	C
アイルランド	C
イギリス	B. BF
イタリア	C
オーストリア	C
オランダ	C
ギリシャ	C
スイス	C
スウェーデン	C
スペイン	A. C
デンマーク	C
ドイツ	C
ノルウェー	C
ハンガリー	C
フィンランド	C
フランス	C
ベルギー	C
ポーランド	B. C
ポルトガル	B. C
ルーマニア	C

●アジア	
インド	B. C. BF
インドネシア	C
シンガポール	B. BF
スリランカ	B. C. BF
タイ	A. BF. C
大韓民国	A. C
中華人民共和国	A. B. BF. C. S
ネパール	C
パキスタン	B. C
バングラディシュ	C
フィリピン	A. BF. S
ベトナム	A. C
香港特別行政区	B. BF
マカオ特別行政区	B. C
マレーシア	B. BF. C

●オセアニア	
オーストラリア	S
グアム	A
タヒチ	C
トンガ	S
ニュージーランド	S
フィジー	S

●中南米	
アルゼンチン	BF. C. S
コロンビア	A
ジャマイカ	A
チリ	B. C
ハイチ	A
パナマ	A
バハマ	A
プエルトリコ	A
ブラジル	A. C
ベネズエラ	A
ペルー	A. C
メキシコ	A

●中近東	
イスラエル	C
イラン	C
クウェート	B. C
ヨルダン	B. BF

●アフリカ	
アルジェリア	A. B.BF. C
エジプト	B. BF. C
カナリア諸島	C
ギニア	C
ケニア	B. C
ザンビア	B. BF
タンザニア	B. BF
南アフリカ共和国	B. C. BF
モザンビーク	C
モロッコ	C

- コンパクトパワーアダプターやバッテリーチャージャーを海外旅行用の電子変圧器などに接続すると故障のおそれがありますので使用しないでください。
- このカメラの保証書は、国内に限り有効です。万一、海外旅行先で、故障、不具合が生じた場合は、持ち帰ったあと、国内の「お客様ご相談窓口」にご相談ください。

カメラのお手入れ

カメラやレンズ、ファインダー、液晶モニターなどが汚れたときは、次の方法でクリーニングしてください。

カメラ	： やわらかい布やメガネ拭きなどで汚れを拭き取ってください。
レンズ	： 市販のブロワーブラシでほこりやゴミを吹き払った後、やわらかい布で軽く拭き取ってください。 ● カメラやレンズは、絶対に有機溶剤を含むクリーナーなどで拭かないでください。どうしても汚れが落ちないときは、最寄りのキヤノンサービスセンター（別紙の「修理サービスご相談窓口」をご参照ください）にご相談ください。
ファインダー **液晶モニター**	： 市販のブロワーブラシでほこりやゴミを吹き払ってください。汚れがひどいときは、やわらかい布やメガネ拭きなどで軽くこすって汚れを落としてください。 ● 液晶モニターの表面を強くこすったり、押したりすると、表面にキズがつきますので、ご注意ください。

● 絶対にシンナーやベンジン、中性洗剤や水などを使ってクリーニングしないでください。部品の変形や故障の原因になることがあります。

故障かなと思ったら

現　象	原　因	対　処
カメラが動作しない	電源が入っていません。	●電源を入れてください。 ➡「電源を入れる/切る（p. 27）」
	CFカードスロットカバーまたはバッテリーカバーが開いています。	●CFカードスロットカバーやバッテリーカバーをしっかり閉めてください。
	バッテリーの電圧が足りません。（表示パネルに「Lb」が点灯）	●バッテリーを十分に充電してカメラに入れてください。 ●コンパクトパワーアダプターを使用してください。
	カメラとバッテリーの接触不良です。	●バッテリーの電極を乾いたきれいな布で拭いてください。
撮影ができない	再生モード、またはパソコン接続/プリンター接続モードになっています。	●撮影モードに切り換えてください。 ➡「撮影/再生を切り換える（p. 30）」参照
	ストロボが充電中です。（橙色のランプ点滅）	●充電が完了すると、橙色のランプが点灯します。シャッターボタンを押してください。
	CFカードの空き容量がありません。	●新しいCFカードを入れてください。 ●必要であれば、CFカードに記録されている画像をパソコンに取り込んでから画像を消去し、空き容量を増やしてください。
	CFカードが正しく初期化されていません。	●CFカードを初期化してください。 ➡「CFカードを初期化する（p. 129）」参照 ●CFカードの論理フォーマットが壊れている可能性があります。キヤノンのお客様ご相談窓口にお問い合わせください。
レンズが出たままで収納されない	電源を入れたまま、CFカードスロットカバーやバッテリーカバーを開けようとしました。	●CFカードスロットカバーまたはバッテリーカバーを閉じた後、電源を切ってください。
	CFカードへの記録中に、CFカードスロットカバーやバッテリーカバーを開けようとしました。（警告音が鳴ります。）	●CFカードスロットカバーまたはバッテリーカバーを閉じた後、電源を切ってください。

故障かなと思ったら（つづき）

現　象	原　因	対　処
バッテリーの消耗が早い	フル充電の状態で、長期間（1年くらい）放置したために、バッテリーの容量が低下しています。	● 新しいバッテリーと交換してください。
	バッテリーの寿命です。	● 新しいバッテリーと交換してください。
バッテリーが充電できない	カメラの電源が入っています。	● カメラの電源を切ってください。
	バッテリーの寿命です。	● 新しいバッテリーと交換してください。
	カメラとコンパクトパワーアダプターの接触不良です。	● バッテリーの電極を乾いたきれいな布で拭いてください。 ● コンパクトパワーアダプターのDCプラグをDC IN端子にしっかりと差してください。 ● コンパクトパワーアダプターに電源ケーブルを接続し、電源コンセントにしっかりと差し込んでください。
画像がぼやけている ピントがあまい	カメラが動いています。	● シャッターボタンを押すときに、カメラを動かさないように注意してください。 ● シャッタースピードが遅く（手ブレ警告）が表示されたときは、三脚をお使いください。
	AF補助光投光部が何かで覆われているため、AFが機能していません。	● AF補助光投光部に、指などがかからないように注意してください。
	AF補助光の設定が［切］になっています。	● AF補助光の設定を［入］にしてください。 ➡「撮影メニュー（p. 156）」参照
	被写体がピントの合う範囲からはずれています。	● 被写体から50cm以上離してください。 ● 被写体から5cm（ワイド端）/15cm（テレ端）～50cmの距離で撮影するときは、マクロモードで撮影してください。
	ピントが合いにくい被写体です。	● フォーカスロックかマニュアルフォーカスで撮影してください。➡「ピントが合いにくい被写体を撮る（p. 105）」参照

現　象	原　因	対　処
撮影した画像の被写体が暗すぎる	撮影時の光量が不足しています。	● 内蔵ストロボを常時発光にしてください。 ● 光量の大きな外付けストロボをお使いください。
	被写体が周辺部に比べて暗すぎます。	● 露出補正値をプラス側に設定してください。 ● AEロックまたはスポット測光機能をお使いください。 ➡「露出を固定して撮る（p. 97）」「測光方式を切り換える（p. 82）」参照
	被写体が遠すぎてストロボ光が届いていません。	● 内蔵ストロボをお使いになるときは、カメラを被写体から70cm～5m（ワイド端）/4m（テレ端）離してお使いください。 ● 光量の大きな外付けストロボをお使いください。 ● ISO感度を上げて撮影してください。 ➡「ISO感度を変更する（p. 91）」参照
撮影した画像の被写体が明るすぎる	被写体が近すぎます。	● ストロボをお使いになるときは、ストロボ調光補正（p. 100）でストロボの発光量を調節してください。
	被写体が周辺部に比べて明るすぎます。	● 露出補正値をマイナス側に設定してください。 ● スポット測光やAEロック機能を使用してください。 ➡「露出を固定して撮る(p. 97)」「測光方式を切り換える(p. 82)」参照
	照明が直接、もしくは被写体の表面で反射してカメラに入っています。	● 被写体に対するカメラのアングルを変えてください。
	ストロボが常時発光になっています。	● ストロボをオートまたは発光禁止にしてください。
液晶モニター上に縦に赤紫などの色の帯が表示される	被写体が極端に明るすぎます。	● CCD特有の現象で、カメラの故障ではありません。（動画にはこの帯が記録されますが、静止画には記録されません。）
画像に白い点などが写る	ストロボ撮影時に空気中のちりやほこり、虫などにストロボ光が反射しました。特に以下の条件で目立ちやすくなります。 ーワイド側で撮影した場合 ー絞り優先AEで絞り数値を大きくして撮影した場合	● デジタルカメラ特有の現象で、カメラの故障ではありません。
ストロボが発光しない	ストロボが発光禁止になっています。	● ストロボをオートまたは常時発光にしてください。

現　象	原　因	対　処
テレビに出力できない	お使いの地域のビデオ出力形式に合っていません。	● 正しいビデオ出力形式（NTSCまたはPAL）に合わせてください。 ➡「設定メニュー（p. 160）」参照 日本国内の出力形式は「NTSC」です。
	で撮影しています。	● ではテレビに出力できません。他の撮影モードで撮影してください。
ズームの操作ができない	動画撮影中に、ズームレバーを操作しました。	● 動画を撮影する前に、ズーム操作をしてください。
CFカードからの画像の読み出しが遅い CFカードへの画像の記録時間が長い	違う機器で初期化したCFカードが入っています。	● このカメラで初期化したCFカードをお使いください。 ➡「CFカードを初期化する（p. 129）」参照

主な仕様

すべてのデータは、当社測定条件によります。都合により、記載内容を予告なしに変更することがあります。

PowerShot G5

カメラ部有効画素数	：約 500 万画素
撮像素子	：1/1.8 型 CCD（総画素数 約 530 万画素）
レンズ	：7.2（W）－ 28.8（T）mm（35mmフィルム換算 35－140mm） F2.0（W）－ 3.0（T）
デジタルズーム	：最大約 4.1 倍（光学ズームレンズと合わせて最大約 16 倍のデジタルズームが可能）
光学ファインダー	：実像式ズームファインダー、視野率約 83% 視度調整機能　－ 3 ～＋ 1m⁻¹（ディオプトリ相当）
液晶モニター	：1.8 型低温ポリシリコン TFT 液晶カラーモニター、視野率 100%
オートフォーカス	：TTL オートフォーカス（コンティニュアス / シングル） フォーカスロックおよびマニュアルフォーカス可能
測距点	：1 点（位置は任意設定可能）
撮影距離	：通常撮影：50cm ～ ∞ マクロ撮影：5cm（W）/ 15cm（T）～ 50cm ：マニュアルフォーカス撮影：5cm（W）/ 15cm（T）～∞
シャッター	：メカニカルシャッター＋電子シャッター
シャッタースピード	：15 ～ 1/2000 秒 1.3秒以上は、シャッタースピード優先モードまたはマニュアルモード撮影時 1.3 秒以上のスローシャッター時はノイズリダクション処理あり
測光方式	：評価測光　/ 中央部重点平均測光　/ スポット測光（中央固定 /AF 枠連動）
露出制御方式	：プログラム AE / シャッタースピード優先 AE / 絞り優先 AE / マニュアル露出　AE ロック可能
露出補正	：± 2 段（1/3 段ステップ）　AEB 撮影可能
感度	：オート / ISO50 / 100 / 200 / 400 相当
ホワイト バランス	：TTL オートホワイトバランス / プリセットホワイトバランス（太陽光 / くもり / 電球 / 蛍光灯 / 蛍光灯 H/ ストロボ）/ マニュアルホワイトバランス（マニュアル 1/ マニュアル 2）
内蔵ストロボ	：オート / 常時発光 / 発光禁止 赤目緩和常時発光：赤目緩和オート / 赤目緩和常時発光 / 発光禁止 赤目緩和発光禁止：常時発光 / 発光禁止
内蔵ストロボ撮影距離	：70cm ～ 5m（W）/ 70cm ～ 4m（T） （ISO100 相当時）

（W）：ワイド端（T）：テレ端

付録

外部ストロボ接点	：	アクセサリーシュー部　シンクロ接点 以下のストロボの使用を推奨 キヤノン スピードライト220EX / 380EX / 420EX / 550EX マクロリングライト MR-14EX　マクロツインライト MT-24EX
ストロボ調光補正	：	±2段（1/3段ステップ）、FEロック/スローシンクロ/先幕、後幕シンクロ可能
撮影モード	：	オート クリエイティブゾーン：プログラム / シャッタースピード優先 / 絞り優先 / マニュアル / カスタム 1/ カスタム 2 イメージゾーン：ポートレート / 風景 / 夜景 / スティッチアシスト / 動画
連続撮影	：	高速連続撮影：約 2.0 画像 / 秒 通常連続撮影：約 1.5 画像 / 秒 （ラージ / ファインモード、液晶モニター非表示のとき）
インターバル撮影	：	撮影間隔：約 1 ～ 60 分（1 分単位） 撮影枚数：2 ～ 100 枚（最大枚数は、CF カードの容量による）
セルフタイマー	：	約 2 秒 / 約 10 秒後に撮影
ワイヤレスコントローラー	：	撮影 / 再生可能（本体に同梱） 撮影時はレリーズボタン操作から瞬時/約2秒後/約10秒後に撮影
パソコン接続撮影	：	USB接続時、RemoteCapture（同梱のソフトウェア）で撮影可能
記録媒体	：	コンパクトフラッシュカード（Type IおよびType II対応）
画像ファイルフォーマット	：	DCF*1　DPOF対応
画像記録フォーマット（静止画）	：	JPEG (Exif 2.2)*2 / RAW
画像記録フォーマット（動画）	：	AVI（画像データ：Motion JPEG / 音声データ：WAVE（モノラル））
圧縮率	：	スーパーファイン / ファイン / ノーマル
記録画素数（静止画）	：	ラージ：2592 × 1944 画素 ミドル 1：1600 × 1200 画素 ミドル 2：1024 × 768 画素 スモール：640 × 480 画素
記録画素数（動画）	：	320 × 240 画素（約 3 分）* 160 × 120 画素（約 3 分）* 約 15 フレーム / 秒 *（　）内は 1 回の撮影での最長記録時間です。
再生モード	：	シングル再生（ヒストグラム表示可能）/ インデックス再生（サムネイル 9 画像） 拡大再生（液晶モニター上で約 10 倍に拡大可能） スライドショー 音声メモ（最長約 60 秒まで記録可能） 専用プリンター（CP-300、CP-200、CP-100、CP-10）、BJプリンタへの画像出力（ダイレクトプリント）
表示言語	：	English / Deutsch / Français / Nederlands / Dansk / Suomi / Italiano / Norsk / Svenska / Español / 汉语 / 日本語

マイカメラ（カスタマイズ）機能	：	起動画面 / 起動音 / シャッター音 / 操作音 / セルフタイマー音を、以下の方法で設定が可能。1. このカメラで記録　2. 同梱のソフトウェアやオンラインフォトサービス「Canon Image Gateway」からダウンロード
Canon Image Gateway 対応機能	：	同梱のソフトウェアを使って、Canon Image Gatewayの会員登録、画像のアップロード、オンラインアルバムサービス、携帯電話アルバム通知・閲覧サービス、カメラへのマイカメラコンテンツのダウンロード、オンラインプリントサービス、オリジナル写真集作成サービス、ホームプリンティングサービスなどが利用可能
インターフェース	：	USB（mini-B：PTP［Picture Transfer Protocol］） 映像 / 音声出力端子（NTSC または PAL 切換可能、モノラル音声）
電源	：	1. 充電式リチウムイオン電池（BP-511）（同梱 / 別売） 2. 充電式リチウムイオン電池（BP-512）（別売） 3. コンパクトパワーアダプター（CA-560）（同梱） 4. カーバッテリー（別売のチャージアダプター / カーバッテリーケーブルキット CR-560 が必要）
動作温度	：	0 ～ 40℃
動作湿度	：	10 ～ 90%
大きさ	：	121.0（幅）× 73.9（高さ）× 69.9（奥行き）mm（突起部を除く）
質量	：	約 410g（本体のみ）

[*1] DCFは（社）電子情報技術産業協会（JEITA）で主として、DSC等の画像ファイル等を、関連機器間で簡便に利用しあえる環境を整えることを目的に標準化された規格「Design rule for Camera File system」の略称です。

[*2] このデジタルカメラは、Exif 2.2（愛称「Exif Print」）に対応しています。Exif Printは、デジタルカメラとプリンターの連携を強化した規格です。Exif Print対応のプリンターと連携することで、撮影時のカメラ情報を活かし、それを最適化して、よりきれいなプリント出力結果を得ることができます。

バッテリー性能について

	撮影画像数		**再生時間**
	液晶モニター表示時	液晶モニター非表示時	
バッテリーパック BP-511/512（フル充電）	約450画像	約1050画像	約360分

＊上記データは当社測定条件によるもので、撮影状況、撮影モードなどにより異なります。

＊動画データは除きます。

＊使用環境温度が下がると、バッテリーの性能が低下したり、バッテリー残量低下アイコンが早めに表示されることがあります。このような場合は、使用直前までポケットなどに入れて温めてから使用すると、バッテリーの性能が回復することがあります。

<測定条件>

撮影　：常温（23℃）、20秒間隔でワイド端とテレ端撮影を交互に繰り返し、4回に1回ストロボ使用、8回に1回電源を切/入操作、CFカード使用

再生　：常温（23℃）、1画像あたり3秒間隔で連続再生、CFカード使用

● バッテリーの取り扱いについて ➔ p. 17

CFカードの種類と記録画像数の目安

			FC-16M	FC-32M	FC-64M	FC-128M	FC-256MH
L（ラージ）	2592×1944画素	スーパーファイン	5	11	24	49	99
		ファイン	10	21	43	88	177
		ノーマル	21	43	88	176	355
M 1（ミドル 1）	1600×1200画素	スーパーファイン	14	30	61	122	246
		ファイン	26	54	109	219	440
		ノーマル	52	108	217	435	868
M 2（ミドル 2）	1024×768画素	スーパーファイン	25	53	107	215	431
		ファイン	46	94	189	379	762
		ノーマル	84	174	349	700	1390
S（スモール）	640×480画素	スーパーファイン	58	120	241	482	962
		ファイン	94	196	393	788	1563
		ノーマル	165	337	676	1355	2720
RAW	2592×1944画素		2	5	12	25	51
動画	320×240画素	320	44秒	91秒	183秒	368秒	735秒
	160×120画素	160	118秒	242秒	486秒	973秒	1954秒

* 表示パネルには、3桁までしか表示されません。（1000以上は、「999」と表示されます。）

- この数値は当社で設定した標準撮影条件によるもので、被写体、撮影状況、撮影モードなどにより変わります。
- 動画の1回の最長撮影時間は、320：約3分、160：約3分です。表中の数値は、繰り返し撮影した場合の最長時間です。
- （スーパーファイン）、（ファイン）、（ノーマル）は圧縮率を表します。

1画像の容量（目安）

記録画素数		圧縮率		
		スーパーファイン	ファイン	ノーマル
L	2592×1944画素	2503 KB	1395 KB	695 KB
M1	1600×1200画素	1002 KB	558 KB	278 KB
M2	1024×768画素	570 KB	320 KB	170 KB
S	640×480画素	249 KB	150 KB	84 KB
RAW	2592×1944画素	4725 KB		
動画	320 320×240画素	330 KB/秒		
	160 160×120画素	120 KB/秒		

バッテリーパック BP-511/バッテリーパック BP-512（別売）

形式	： 充電式リチウムイオン電池
公称電圧	： 7.4 V
公称容量	： 1100mAh
充放電回数	： 約300回
使用温度	： 0～40℃
大きさ	： 38 × 55 × 21mm
質量	： 約70g

コンパクトパワーアダプター CA-560

定格入力	： AC100～240 V（50/60 Hz） 60VA（100V）～75VA（240V）
定格出力	： DC9.5 V / 2.7A
使用温度	： 0～40℃
大きさ	： 57 × 28 × 104mm（本体のみ）
質量	： 約180g

ワイヤレスコントローラー WL-DC100

電源	： リチウムボタン電池 CR2025
使用温度	： 0～40℃
大きさ	： 35 × 6.5 × 56.6mm
質量	： 約10g

コンパクトフラッシュカード

カードスロットタイプ	： Type I
大きさ	： 36.4 × 42.8 × 3.3mm
質量	： 約10g

バッテリーチャージャー CG-570（別売）

入力電圧	：DC8.4V（CA-570使用時）、DC9.5 V（CA-560使用時）、 DC12/24 V（カーバッテリー使用時）
入力電流	：DC2.5 A（バッテリーパック充電時）
定格出力	：DC8.4 V　1.45 A
ヒューズ	：250 V / 4 A　UL CSA
使用温度	：0～40℃
大きさ	：93×36×73mm
質量	：約130g

チャージアダプター/カーバッテリーケーブルキット CR-560（別売）

●チャージアダプター CG-560

入力電圧	：DC9.5 V（CA-560使用時）、DC12/24 V（カーバッテリー使用時）
入力電流	：DC2.5 A（バッテリーパック充電時）
定格出力	：DC8.4 V　1.6 A（バッテリーパック充電時） DC9.5 V　1.5 A（アダプター時）
使用温度	：0～40℃
大きさ	：93×36×71mm
質量	：約140g

●カーバッテリーケーブル CB-560

対応車種	：シガーライターソケットがあるDC12 V、または24 Vのカーバッテリーを装備したマイナス接地車
ヒューズ	：125 V / 4 A　UL CSA
長さ	：約1.8m
質量	：約80g

ワイドコンバーター WC-DC58N（別売）

倍率	： 約0.7倍
焦点距離	： ∞
レンズ構成	： 3群3枚
撮影範囲 （レンズ先端より）	： 5cm ～ ∞（ワイド端、PowerShot G5に装着時）
ねじ径	： 58mm標準フィルターネジ （PowerShot G5に装着時は、コンバージョンレンズアダプター LA-DC58Bが必要）
大きさ	： 直径：94.5mm　長さ：54.9mm
質量	： 約275g

テレコンバーター TC-DC58N（別売）

倍率	： 約1.75倍
焦点距離	： ∞
レンズ構成	： 3群3枚
撮影範囲 （レンズ先端より）	： 50cm ～ ∞（テレ端、PowerShot G5に装着時）
ねじ径	： 58mm標準フィルターネジ （PowerShot G5に装着時には、コンバージョンレンズアダプター LA-DC58Bが必要）
大きさ	： 直径：75mm　長さ： 50mm
質量	： 約185g

クローズアップレンズ 250D（58mm）（別売）

焦点距離	： 250mm
撮影範囲 （レンズ先端より）	： 10 ～ 25cm（PowerShot G5に装着時）
ねじ径	： 58mm標準フィルターネジ （PowerShot G5に装着時には、コンバージョンレンズアダプター LA-DC58Bが必要）
大きさ	： 直径：60mm　長さ：12mm
質量	： 約80g

索引

記号 / アルファベット

ア行

カ行

サ行

タ行

ハ行

マ行

ヤ行

ラ行

補修用性能部品について
保守サービスの為に必要な補修用性能部品の最低保有期間は、製品の製造打切り後7年間です。（補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置をラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。ユーザーガイド（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

各撮影モードで設定できる機能一覧

各撮影モードで設定できる機能は、以下のとおりです。
C1、C2のときは、登録時に設定した内容で撮影できます。 **➔ p. 109**

			AUTO						P	Tv	Av	M	参照先
記録画素数	ラージ	L	○*	○*	○*	○*	△*	–	○*	○*	○*	○*	56
	ミドル1	M1	○	○	○	○	△	–	○	○	○	○	
	ミドル2	M2	○	○	○	○	△	–	○	○	○	○	
	スモール	S	○	○	○	○	△	–	○	○	○	○	
記録画素数	動画	320	–	–	–	–	–	○*	–	–	–	–	
	動画	160	–	–	–	–	–	○	–	–	–	–	
圧縮率	スーパーファイン		○	○	○	○	△	–	○	○	○	○	56
	ファイン		○*	○*	○*	○*	△*	–	○*	○*	○*	○*	
	ノーマル		○	○	○	○	△	–	○	○	○	○	
記録形式	JPEG		○	○	○	○	○	–	○*	○*	○*	○*	59
	RAW	RAW	–	–	–	–	–	–	○	○	○	○	
ストロボ	オート		○*	○*	○	○*	–	–	○	–	–	–	61
	常時発光		–	○	○	○	△	–	○	○	○	○	
	発光禁止		○	○	○*	○	△*	○	○*	○*	○*	○*	
赤目緩和			○	○	○	○	△	–	○	○	○	○	62
スローシンクロ		入	–	–	○	○	△	–	○	–	○	–	62
		切	○	○	–	–	△*	–	○*	○	○*	○	
ストロボ自動調光		入	○	○	○	○	○	–	○	○*	○*	–	100
		切	–	–	–	–	–	–	–	○	○	○	
ストロボ発光	先幕		○	○	○	○	○	–	○*	○*	○*	○*	102
	後幕		–	–	–	–	–	–	○	○	○	○	
AF補助光			○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	157
ドライブモード	シングル撮影		○*	○*	○*	○*	△*	○*	○*	○*	○*	○*	–
	通常連続撮影		–	○	○	○	–	–	○	○	○	○	73
	高速連続撮影		–	○	○	○	–	–	○	○	○	○	
	10秒セルフタイマー		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	71
	2秒セルフタイマー		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
インターバル撮影			–	–	–	–	–	–	○	○	○	○	103
AF枠の選択	中央一点		○	○	○	○	○	○	○*	○*	○*	○*	81
	マニュアル選択		–	–	–	–	–	–	○	○	○	○	
マニュアルフォーカス		MF	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	106
マクロ撮影			○	○	–	○	○	○	○	○	○	○	70